

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査 報 告 書

令和 7 年10月

香川県教育センター

目 次

はじめに	1
調査の結果から見られる特徴	2
I 特集	5
特集1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	6
特集2 児童生徒主体の ICT 活用に向けて	12
特集3 教職員の支え合う集団づくり	14
特集4 開かれた学校づくり	16
授業や取組の改善に役立つリンク集	18
II 調査の概要	19
令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について	20
数値、グラフ等を見るうえでの留意点	22
香川県重点項目に関わる質問事項	24
III 調査結果（概論）	25
全体的な状況【小・中学校】	26
正答数分布【小学校】	27
正答数及び IRT バンド分布【中学校】	28
無解答率【小・中学校】	29
香川の結果に特徴の見られる質問【児童生徒質問調査】	30
香川の児童生徒質問調査 選択肢別の平均正答率	32
香川の結果に特徴の見られる質問【学校質問調査】	35
Question 1 学習意欲に関わる質問項目	38
Question 2 言語活動に関わる質問項目	40
Question 3 学習習慣に関わる質問項目	42
Question 4 自己有用感等に関わる質問項目	44
Question 5 学校生活に関わる質問項目	46
あのときの6年生は今？	48
IV 教科に関する調査結果及び分析	49
1 小学校国語	50
2 小学校算数	58
3 小学校理科	66
4 中学校国語	74
5 中学校数学	82
6 中学校理科	90
V 質問調査結果（児童生徒質問調査・学校質問調査）	99
1 児童生徒質問調査 結果一覧	100
2 学校質問調査 結果一覧	105

I
特
集

II
調
査
の
概
要

III
概
論

IV
小
国
語

IV
小
算
数

IV
小
理
科

IV
中
国
語

IV
中
数
学

IV
中
理
科

V
児
童
生
徒
質
問

V
学
校
質
問

はじめに

全国学力・学習状況調査は、平成 19 年度に始まり、令和 7 年度の実施で合計 17 回を数えることになりました。

その間、東日本大震災の影響（平成 23 年度）や、新型コロナウイルス感染症の影響（令和 2 年度）で実施が見送られた年はあったものの、「児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる」「教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る」という調査の目的は一貫して継続されています。

令和 7 年度調査の特徴は、教科調査の中学校理科が文部科学省 CBT システム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT：Computer Based Testing）で実施されたり、国による結果公表の内容やスケジュールが改善されたりしたことなどです。

県教育委員会では、本県の状況を全国との関係の中でより具体的に示し、課題が浮き彫りとなるよう、教科に関する調査だけでなく、児童生徒質問調査や学校質問調査も含めて、それぞれについて分析し、その結果をまとめています。今年度は、以下の点を工夫して報告書を作成しました。

- 香川の結果に特徴の見られる質問とつないで、4 つの特集『『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実』『児童生徒主体の ICT 活用に向けて』『教職員の支え合う集団づくり』『開かれた学校づくり』を作成しました。
- これまでの課題としての香川県重点項目に関する 5 つの事項を Q & A で整理しています。
- 特集および Q & A のページは、どのように改善すれば回答状況が変化するのか、学校の取組の状況と児童生徒の学習の状況を捉え、今後の方針を「コラム」で提案しています。
- 「あのときの 6 年生は今？」と題して、令和 4 年時に小学校 6 年生だった児童が中学校 3 年生となった現在の変容を、同じ質問に対する回答結果から分析しています。

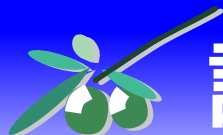
なお、本報告書に掲載した設問や質問の結果について、自校のデータを表やグラフに表示する「活用ツール」を当センター Web サイトに掲載しています。

各市町（学校組合）教育委員会や各学校におかれましては、本報告書や「活用ツール」も活用いただき、市町（学校組合）教育委員会や自校の現状把握・分析・改善とともに、同一校区内の小・中学校間の連携にも取り組んでいただきますようお願いいたします。

当センターといたしましても、指導主事が直接学校に出向き、状況の分析や改善について一緒に考えるなど、一層の学校支援に努めてまいりますので、どうぞご相談ください。

令和 7 年 10 月

香川県教育センター
所長 福田 宏志



調査の結果から見られる特徴

教科に関する調査

資料に書かれている文や図が示している意図は何かを考え、解釈して表現することや、知識・技能を様々な問題場面に生きて働くものとして習得することに課題がある。

国 語

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることや、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。

- ・ 小学校国語 [3]三(1) 正答率 41.2% ➡P57
- ・ 中学校国語 [1]四 正答率 29.9% ➡P80

算数・数学

数の表し方の仕組みや単位となる数に着目して計算の仕方を考察することや、条件を変えた際、変わらない関係や変わる関係を見だし、証明を評価・改善することに課題が見られた。

- ・ 小学校算数 [3](2) 正答率 24.4% ➡P64、65
- ・ 中学校数学 [9](2) 正答率 36.8% ➡P88、89

理 科

理科学習で得た概念を使い、ものづくりや追加の実験を発想して表現することや、身に付けた知識を身近な現象で活用できる程度に概念を理解することに課題が見られた。

- ・ 小学校理科 2 正答率 42.5% ➡P73
- ・ 中学校理科 [1](3) 正答率 36.0% ➡P96

質問調査

各校で「協働的な学び」の取組が大切にされている。

- ・「^{■31} 学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」と肯定的に回答した学校の割合は、小・中学校で 90%を超えている。 ➡P8

「自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

- ・「^{□5}自分には、よいところがあると思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で 85.0%、中学校で 82.6%であり、R3年度以降、最も高い割合であった。 ➡P44

「学校に行くのは楽しいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合が増加している。

- ・「^{□12} 学校に行くのは楽しいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で 85.6%、中学校で 84.2%であった。 ➡P46

学校の授業時間以外の 1 日当たりの勉強時間は減少傾向にある。

- ・「^{□17} 普段、1 日当たり 1 時間以上勉強している」と回答した児童生徒の割合は、R3年度以降、全国的に減少傾向が見られる。 ➡P42

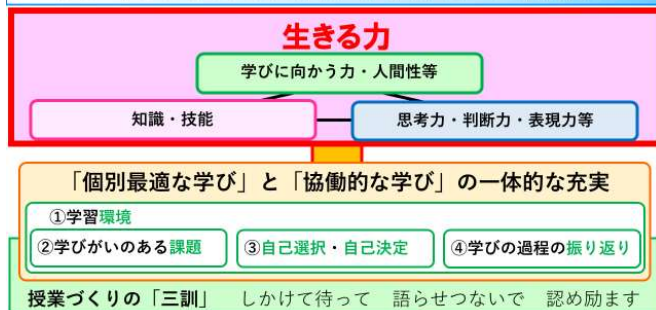
一人一台端末の使用頻度は増加している。

- ・「^{□28} ICT 機器を週 3 回以上使用している」と回答した児童生徒の割合は、R6年度より、小学校で 15pt、中学校で 12pt 増加したが、全国と比較すると下回っている。児童生徒が目的をもって主体的に ICT を活用できるようにすることが大切である。 ➡P12

I 特 集

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実

一人一人の子どもに確かな学力を ～全教職員で～



※香川県教育委員会 義務教育課 学力向上モデル校事業資料より引用

香川県教育委員会では、全ての児童生徒に、これからの社会で求められる資質・能力を育成することを目指し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進しています。

そして、授業改善の視点として、次の4つを提案しています。

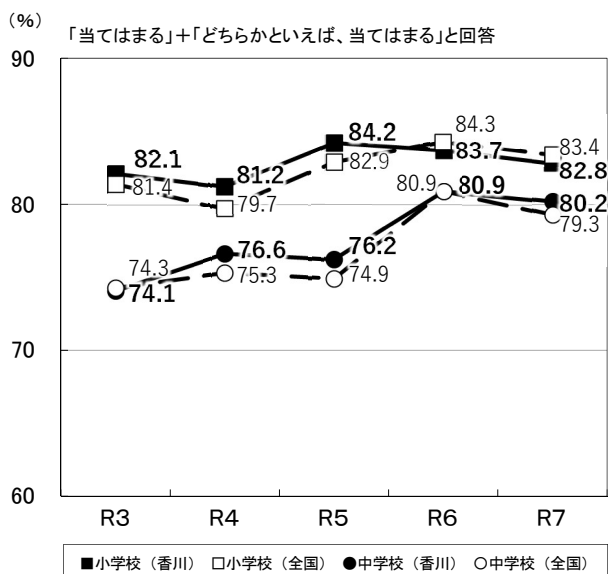
- ①学習環境
- ②学びがいのある課題設定
- ③自己選択・自己決定
- ④学びの過程の振り返り

「個別最適な学び」の進捗状況は？

個に応じた指導の取組は停滞傾向にある

□34 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

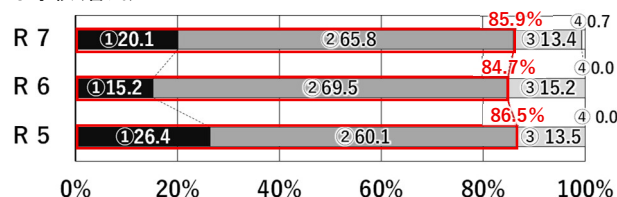
【児童生徒質問調査】



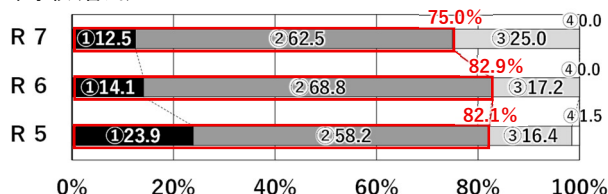
■30 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学習指導において、児童(生徒)一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

【学校質問調査】

小学校(香川)



中学校(香川)



■ ①よく行った □ ②どちらかといえば、行った
□ ③あまり行わなかった □ ④全く行わなかった

Column

「□34 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で82.8%（全国－0.6pt）、中学校で80.2%（全国＋0.9pt）であり、昨年度と比較してわずかに減少しています。

また、「■30 前年度までに、学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した」と肯定的に回答した学校の割合は、小学校では昨年度より1.2pt増加し、中学校では7.9pt減少しています。「個別最適な学び」の実現に向けて、日々の授業の中で、児童生徒一人一人に応じて、①学習環境を整備したり、③自己選択・自己決定のある学習にしたりすることに真摯に取り組んでいるからこそ、その難しさを感じているのかもしれませんが。どのような点に留意すればよいのでしょうか？

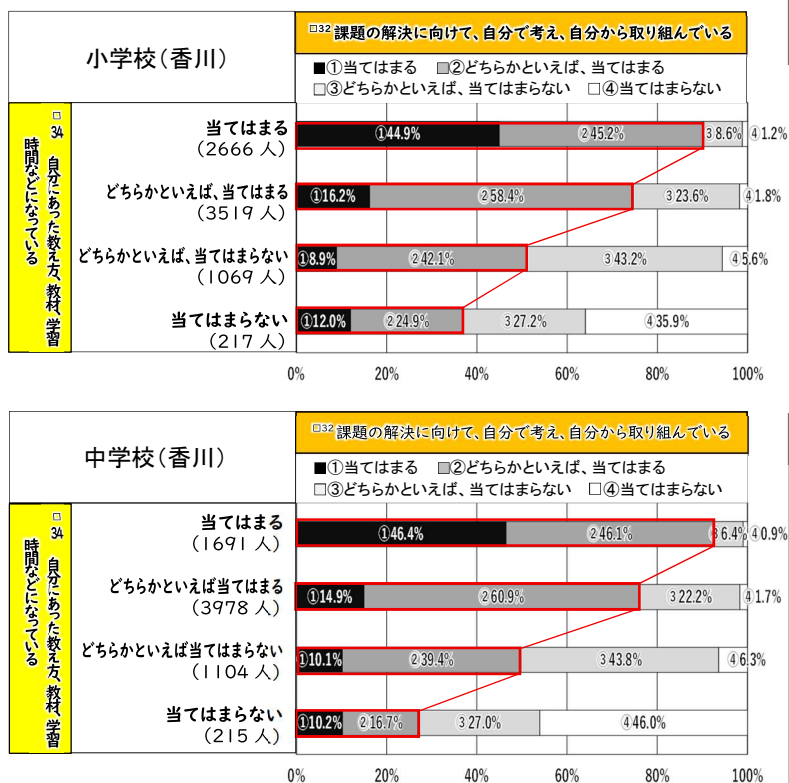
「個別最適な学び」の目的を考える

自分にあった学び方になっていることと、主体的な取組には相関がある

クロス集計

□34 自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている

□32 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる



Column

「□34 自分にあった教え方、教材、学習時間などになっている」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「□32 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答している傾向が見られます。

先生方が日々取り組まれている「個別最適な学び」の目的は、全ての児童生徒が主体的に学ぶ楽しさを実感することです。①学習環境の整備や③自己選択・自己決定の機会の提供は目的化しがちですが、児童生徒の意欲を引き出すきっかけに過ぎません。

本当に大切なのは、児童生徒自身が自分の特性や学び方を自覚できるようにすることです。その気付きこそが、一人一人を主体的な学びへ導く鍵です。多様な個性に寄り添い、自分の力で学び進めるよう支えることが大切です。

主体性を引き出す鍵は「児童生徒とともに考える」プロセス

本年度の「学力向上モデル校事業」、小学校3年生国語科での実践です。「自分が選んだ本のあらすじをまとめて紹介する」という単元のゴールを設定し、単元のはじめに、児童とともにゴールまでの見通しを話し合い、学習計画を立てました。その際、「いきなり長い文章は難しい」という児童の意見を取り入れ、まず簡単な物語で練習をする時間を設けています。

本時では、1年生で学習した簡単な物語文を扱い、第一場面を全体で読み解きながら、あらすじをまとめるコツを確認しました。その後、各自が紹介したい場面を選んで取り組めるようにし、主体性を促しました。

本時の授業を通して、「自分たちの力でできた」という達成感を得ることが、単元を通じた主体的な学びにつながりました。



Column

文部科学省の※1 サポートマガジン「みるみる」では、児童生徒が、主体的に学びを進める力を身に付けるためには、教師がきめ細かく指導・支援することに加えて、児童生徒一人一人が主体的に学習を調整できるようにすることが大切だと述べられています。

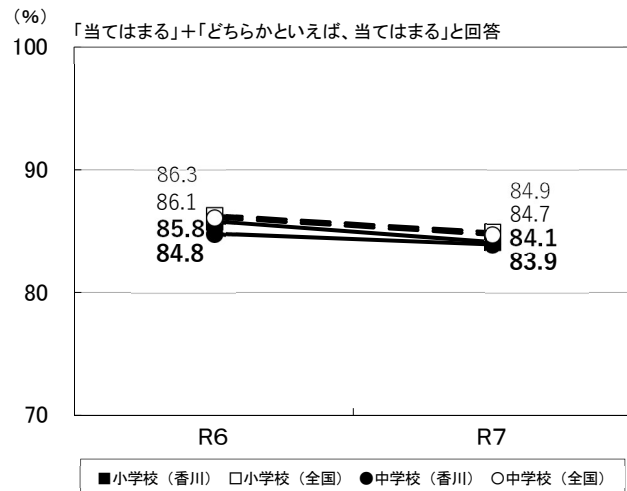
この実現には、教師が1時間の授業ではなく、単元全体で学習をデザインし、学習方法を教えながら徐々に児童生徒に委ねていく授業が効果的です。単に③自己選択・自己決定の場を設けるだけでなく、左の実践のように、児童生徒の声に耳を傾け、学習の進め方をともに考えることも、主体性を引き出す有効な手立てとなるでしょう。

※1 P18へ

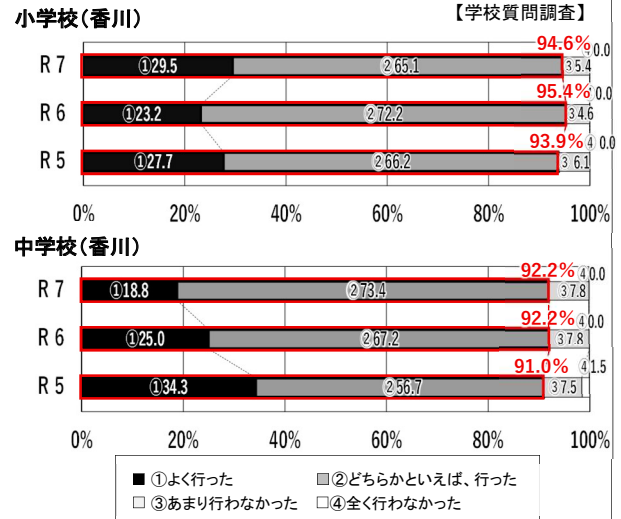
「協働的な学び」の進捗状況は？

各校で「協働的な学び」の取組が大切にされている

□35 学級の友達(生徒)との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
【児童生徒質問調査】



■31 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか
【学校質問調査】



Column

「□35 学級の友達(生徒)との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校で84.1%、中学校で83.9%であり、全国と同様に推移しています。また、「■31 学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」と肯定的に回答した学校の割合は、小・中学校ともに90%を超えています。が、中学校で「よく行った」と回答した割合が減少しています。生徒が、それぞれのよさを生かしながら交流し、学びを深めるような「協働的な学び」の場をつくることに難しさを感じているのかもしれません。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる

本年度の「学力向上モデル校事業」、中学校社会科の実践です。まず、日本列島における国家形成について、「なぜ日本は東アジアの国々との関わりをもととしたのか」という単元を貫く課題を設定しました。

本時は、単元の終末にその課題を解決する場面です。生徒は、これまでの学びを基に予想を立て、それが正しいか確かめるために探究していきます。その際、「一人で取り組んでもよいし、友達と協力してもよい」という学び方を生徒が選択できる環境が定着していました。生徒たちは、ノートや一人一台端末を手に探究を進めます。考えが行き詰まったり、確信を得なくなったりすると、必要に応じて友達と協議し、妥当性を確かめていました。

さらに、全体で考えを共有する場面では、教師が板書で生徒の意見を整理したり、全員で資料を確認したりして、生徒一人一人が、自分の考えをまとめ直すことができるようにしていました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の具体化が図られている好事例です。



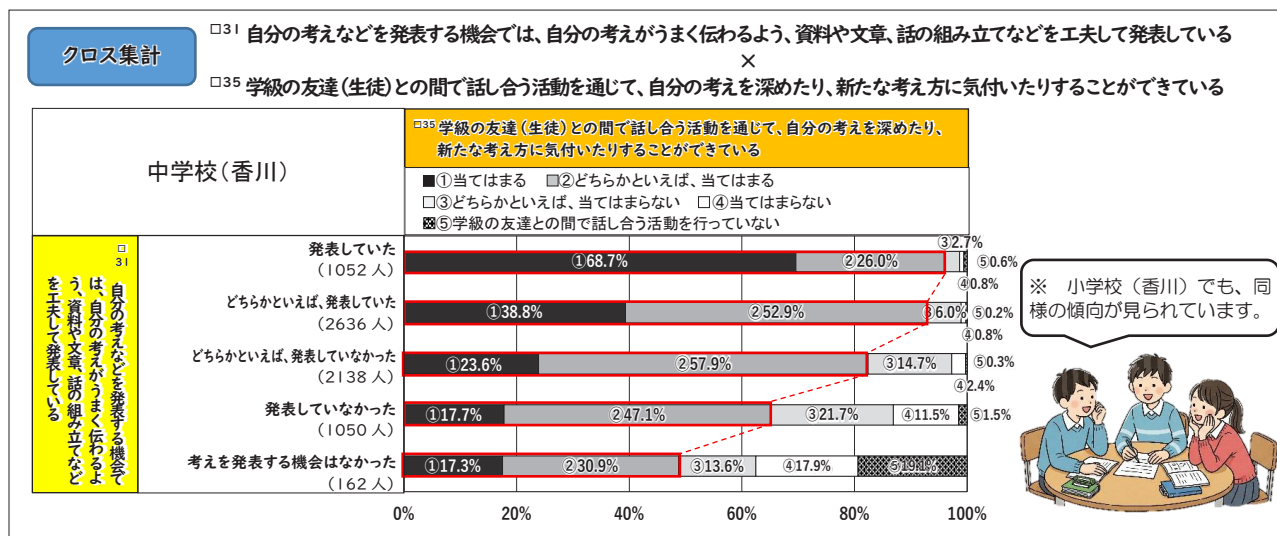
Column

文部科学省の※1 サポートマガジン「みるみる」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を別々のものとして考えるのではなく、一体的に充実させることが、児童生徒の資質・能力を育む上で不可欠であると述べられています。そのため、一人で学ぶ場面と、複数で学ぶ場面を意図的に組み合わせ、それぞれの長所を生かすことが重要です。

※1 P18へ

相手意識や目的意識をもった話し合いの場をつくる

聞き手を意識した発表と、学びを深めることには、相関がある

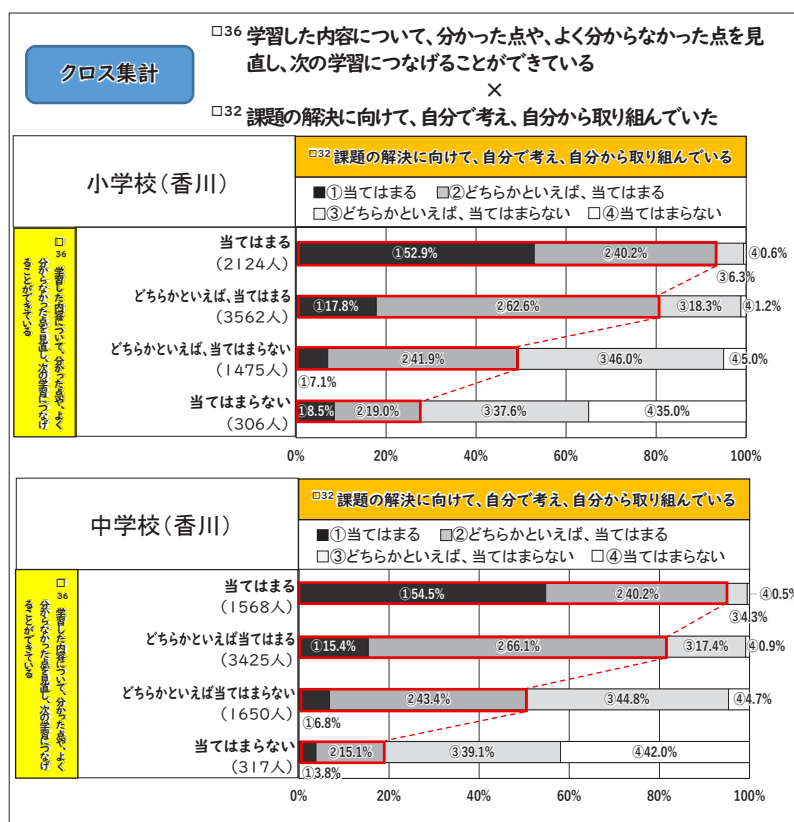


Column

「□31 自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表している」と肯定的に回答した生徒ほど、「□35 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と肯定的に回答しています。「伝えたい」という思いをもつことが、学びを深める上で大切だと示唆されます。この思いを高めるには、伝える相手や場面を具体的に設定したり、児童生徒自身の「問い」を学習の出発点にしたりするなど、児童生徒にとって、②学びがいのある学習課題となるように工夫することが大切です。

振り返りの内容やタイミングを工夫する

学習内容を見直し次の学習につなげることと、主体的な取組には相関がある



Column

「□36 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「□32 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答している傾向が見られます。

このことは、④学びの過程の振り返りをする中で、児童生徒が自分の学習状況や成長を客観的に捉えられているためと考えられます。そして、そのような自己認識が、次の学習へ主体的に取り組む力へとつながっていると推察されます。

効果的な振り返りのためには、教師が単元全体を見通して児童生徒の学びを構想し、振り返りの内容やタイミングを工夫することが重要です。さらに、一人一人が自らの学びを表現できる機会をつくることで、主体的な学びを促すでしょう。

検証から改善へ

全国学力・学習状況調査の目的は、「児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てること」「教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること」です。つまり、教育委員会や学校が、それぞれの課題を明確にし、その課題に対して具体的な対策を講じ、その対策の成果を評価し、次の課題を見つけて取り組んでいくというサイクルが大切なのです。

県教育委員会としては、P6で述べたように、全ての児童生徒に「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じて、これからの社会で求められる資質・能力を育成することを目指し、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実に向けた授業改善を推進しているところです。そうした中で、全国学力・学習状況調査の結果から、教科に関する調査では、「資料などから問題解決に必要な情報を見付け出すこと」はできるものの、P2で示したように、「資料に書かれている文や図が示している意図は何かを考え、解釈して表現することや、知識・技能を様々な問題場面に生きて働くものとして習得すること」に課題があることが明らかとなりました。また、質問調査では、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実に向けて、P6～P9で述べてきたような課題が明らかとなりました。

こうした課題に対し、県教育委員会が考える授業改善の方策は次のとおりです。教科を問わず、すべての教職員が日々の授業でこの方策を実施するとともに、機会を捉えてその成果を評価し、さらなる改善に努めるようお願いします。

(1) 教科に関する調査の課題に対する授業改善の方策

課題1 資料に書かれている文や図が示している意図は何かを考え、解釈して表現する

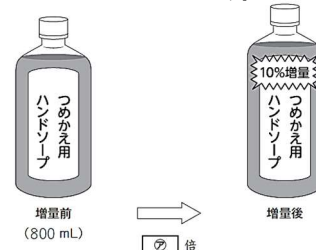
授業ですべきこと！

資料や友達の発言の意図などについて、自分の言葉で説明する時間をとる

課題1を解決するための方策として、例えば、「小学校算数設問4」のような、図や表、資料などを示したときに、その図や表、資料などが、何を表そうとしているのか、また、何を問おうとしているのか、児童生徒がその意図を説明する活動を仕組むことが大切です。

その他にも、国語では、具体的なインタビュー場面や資料等を見ながら、発言者がなぜそのように発言したのかをグループなどで説明し合う活動を取り入れたり、理科では、実験の際に、なぜその実験方法がよいのか、なぜその条件で実験するのかといったことを児童生徒が説明する時間を設定したりすることが効果的です。

家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。上の⑦にあてはまる数を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

R7 小学校算数設問 4 より

課題2 知識・技能を様々な問題場面に生きて働くものとして習得する

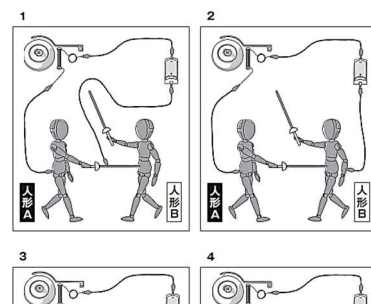
授業ですべきこと！

知識・技能を活用する場面を授業や生活場面に意図的に位置付ける

課題2を解決するための方策として、例えば、「小学校理科設問2(2)」のように、「電流の流れが輪になっていると電流が流れる」という知識を、実際のおもちゃ作りなどに活用しながら、より習得を促すことが考えられます。

その他にも、国語では、漢字を生活場面の中で使用したり、自分の書いた文章をポイントを絞って推敲したりする機会を増やすことや、数学では、ある事柄が常に成り立つとは限らないことを具体的な反例をあげて説明する活動を位置付けるなど、生きて働くものにしていくことが大切になります。

人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね（ベル）が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

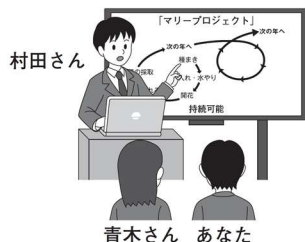


R7 小学校理科設問 2 より

(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改善の方策

◆ 学習環境

ア R7中学校国語設問 2 より

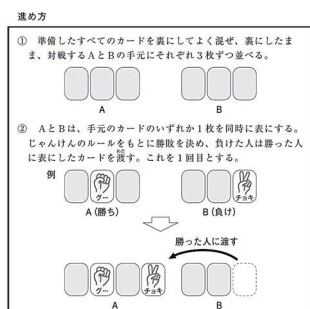


アの設問では、「村田さんが、国語の時間に学校の活動を地域に広げるアイデアについての提案スピーチを行うために事前リハーサルを実施する」という学習場面が示されています。ここでは、生徒の必要に応じてスライドを提示しながらスピーチができる機会を確保しています。

このように、日常的にICTを活用できる機会を確保するなど、学習環境を整備することが大切です。P12 からの特集2では、児童生徒主体のICT活用に向けて記事を掲載していますので、ぜひご覧ください。

◆ 学びがいのある課題設定

イ R7中学校数学設問 7 より



イの設問では、「優斗さんと芽衣さんが、地域イベントで『じゃんけんカードゲーム』を計画する」という学習場面が示されています。ゲームの進め方を考える中で、様々な場面があることに気づき、「それぞれに勝ちやすさが異なるのではないか」という疑問を持ちます。学習は、その疑問を解決しながら進んでいきます。

このように、児童生徒の知的好奇心を喚起できるよう、実社会や実生活における問題場面とつなぐことで、児童生徒の「解決したい」という思いや願いを引き出すなど、児童生徒にとって学びがいのある課題を設定することが大切です。

◆ 自己選択・自己決定

ウ R7小学校国語設問 2 より



ウの設問では、「伝統工芸品について推薦する『ちらし』を書くために、『ちらし』の中の説明する文章等を吟味する」という学習場面が示されています。山田さんは、伝統工芸品の中から、自分が推薦したい「手ぬぐい」を選び、山田さん自身が見出した「手ぬぐい」のよさを、「ちらし」に表現しようとしています。

このように、「推薦する文章の書き方を学ぶ」という単元の大きな目標は共通する中でも、全員が同じ道筋で学習を進めるだけでなく、学習教材や問題を選択したり、解決方法を選択したりするなど、自己選択・自己決定できる場面を保障することが大切です。

◆ 学びの過程の振り返り

エ R7中学校理科設問 1 より



エの設問では、「水道水と精製水について探究してきたことを発表した後、その発表内容をグループで振り返る」という学習場面が示されています。Bさんは疑問に感じたこと、Cさんは考えの変容、Dさんは生活とのつながりに着目して、それぞれが振り返ろうとしています。

このように、学習内容だけでなく、学習過程や自己の変容、課題の発見など、多様な視点から振り返ることができるよう働きかけることが大切です。

ここには、県全体の課題を解決するための授業改善の方策を示しましたが、自校の課題における授業改善の視点として当てはまるものばかりではないかもしれません。大切なのは、まずは、各学校において調査結果を分析することで自校の課題をしっかりと把握し、課題に応じた授業改善の方向性を明確にすることです。そして、授業改善に取り組んだ結果を、日々の授業等での見取りや定期的なテスト等で検証し、さらに次の課題把握、取組につなげていきましょう。そうすることで、次年度の全国学力・学習状況調査では、その成果が現れるはず。各校での取組が進むよう、県教育委員会でもサポートいたします。

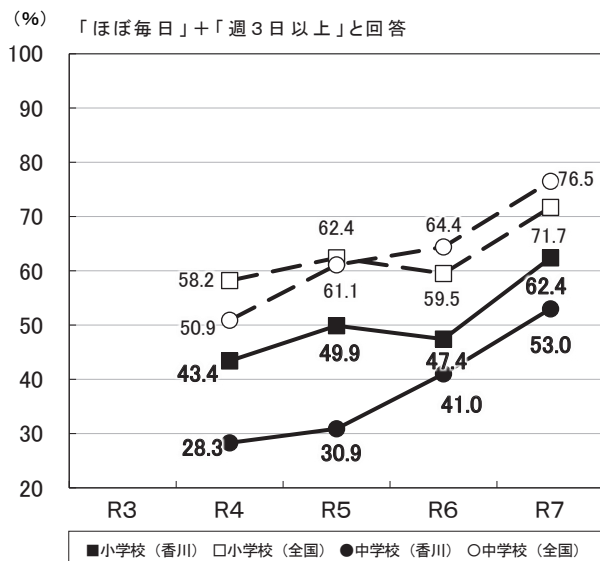
児童生徒主体の ICT 活用に向けて

一人一台端末の使用・活用頻度は増加している

「ほぼ毎日」＋「週3回以上」活用している割合が増加

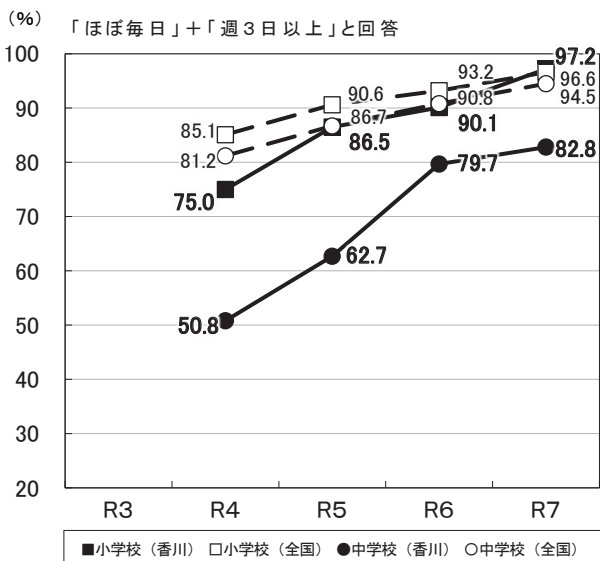
□28 5年生まで(1,2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

【児童生徒質問調査】



■58 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

【学校質問調査】

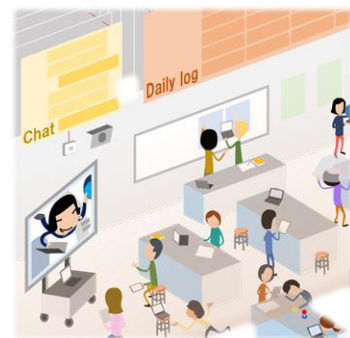
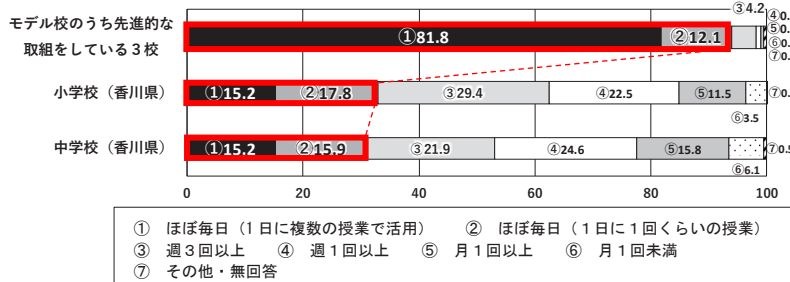


Column

上のグラフから、一人一台端末の活用頻度は増加しています。一方で、「使用した(活用した)」という児童生徒と教師の感覚に差が見られます。教師主導の活用から、児童生徒が「自ら使った」と実感できる、主体的な活用へと充実させていくことが大切です。このことについて、令和6年度の「ICT活用推進モデル校事業」の学校のうち、先進的な取組をする3校の調査結果は、次のようになっています。

□28 5年生まで(1,2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

【児童生徒質問調査】



グラフから分かるように、「ほぼ毎日活用した」と回答した児童生徒の割合は90%を超えています。授業を参観した際には、ICT機器について、教師の指示を待って使用するのではなく、児童生徒が目的に応じて主体的に活用している姿が見られました。

様々な使い方を学び、必要に応じて使用できる学習環境が整えられることで、インターネットを使って情報を収集するだけでなく、クラウド環境を生かして友達の考えを参照したり、思考ツール等を使って交流したり、学習の振り返りを蓄積したりと、文具のように活用できていました。

児童生徒が目的的にICTを活用することが大切です。

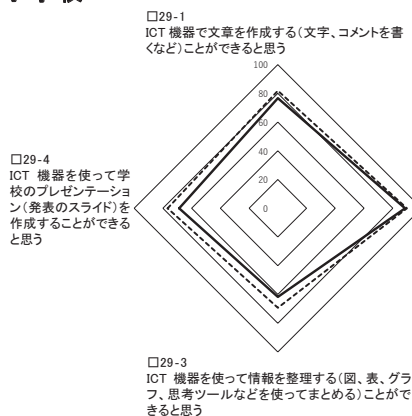
活用することを通して情報活用能力の育成を

情報活用能力の育成に課題が見られる

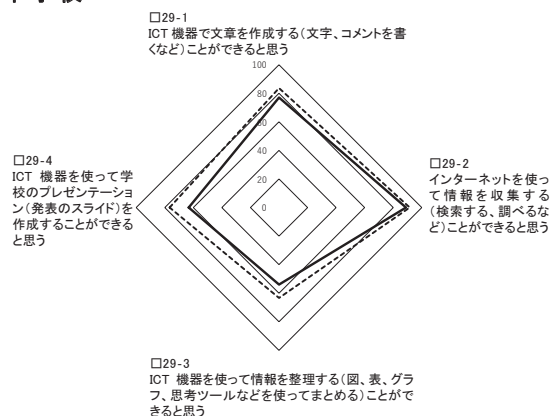
□29-1～29-4 あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器(インターネット)を使って・・・【児童生徒質問調査】

「とてもそう思う」＋「そう思う」と回答(%)

小学校



中学校



Column

モデル校のように、児童生徒が主体的にICTを文具のように使う姿が理想ですが、県全体で見ると、情報活用能力の育成に直結しない現状も見られています。□29-1、3、4 ICT機器で文章を作成したり、情報を整理したり、プレゼンテーションを作成したりするなど、情報活用能力についての質問に、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童生徒の割合は、全国を下回っています。学習指導要領総則において、情報活用能力は、言語能力、問題発見解決能力と同様に、学習の基盤となる資質・能力と位置付けられています。これからの社会において、自らの考えを整理して発信する資質・能力の育成は重要でしょう。

目的を明らかにした活用と委ねる姿勢を

香川県教育センターの「児童生徒が主体的にICTを活用して取り組む学習の充実に向けた調査研究」では、児童生徒一人一人が「学び手としての主人公」になるICT活用に向け、次の「5つの視点」と「3つのキーワード」を提案しています。

授業改善！「学び手としての主人公」になるICT活用



5つの視点のうち、どの視点を取り入れて学習活動を改善するかを考えます。

教師の授業改善に関わるICT活用5つの視点

- A 多様性に対応する
- B 多様性を生かす
- C 学びの状況をとらえさせる・とらえる
- D ベストミックスに組み合わせる
- E 教室外とつなぐ



児童生徒がどのタイミングでどの機能を活用すれば視点の効果がでるのかを考えます。

児童生徒の学び方に関わるICT活用3つのキーワード

- A 必要なタイミング
- B 機能は共通、活用する時は自分の必要な時に
- C ICT(機能)を取捨選択
- D 機能は自分の必要なものを、活用する時は共通
- E ウィットでも自由に
- F 機能も活用する時も、自分の必要なものを必要な時に

(例)小学校1年生生活科

B 多様性を生かす A 必要なタイミング

家庭で実践した仕事について記録した動画や写真を指しながら仕事のコツについて話し合うことで、「何をしているところ?」「どうやっているの?」などの質問が出やすくなり、質疑応答が活性化することで気付きの質を高める。

Column

児童生徒主体のICT活用を実現するには、児童生徒にどのような力を身に付けさせたいかを明確にし、目的を明らかにした学習活動を設定することが必要です。そして、児童生徒の成長に応じて、教師の指導や支援を徐々に減らし、委ねていくことが大切です。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改善と重なる部分が多いのではないのでしょうか。

資料特設サイト

(各校での授業研究、研修にご活用ください)

<https://www.kagawa->

[edu.jp/educ01/section/research/jouhou#frame-969](https://www.kagawa-edu.jp/educ01/section/research/jouhou#frame-969)



詳細な内容や、別の事例についてはこちらから

KEC 香川県教育センター
Kagawa Prefectural Education Center

※ 令和6年度 香川県教育センター研究発表会 調査研究2発表資料より引用

教職員の支え合う集団づくり

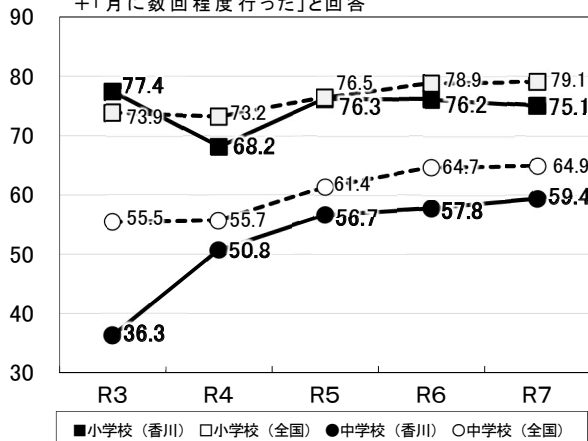
チームで支える環境が資質向上につながる

(1) 授業や学級の問題を抱えた教員への対応について

【授業で問題を抱えた教員への対応】

■11 前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか 【学校質問調査】

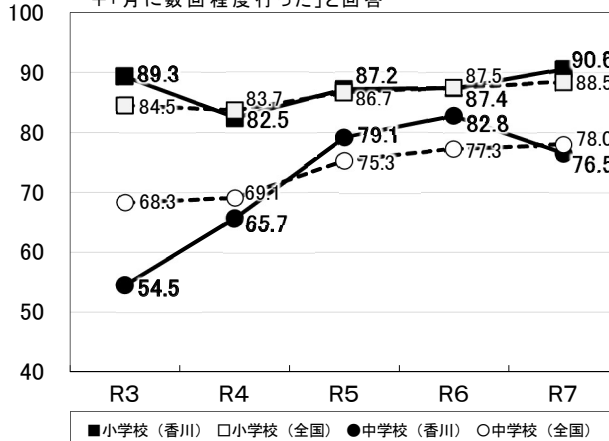
(%) 「週に1回程度、または、それ以上行った」
+「月に数回程度行った」と回答



【学級の問題を抱えた教員への対応】

■12 前年度に、教員が学級で問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか 【学校質問調査】

(%) 「週に1回程度、または、それ以上行った」
+「月に数回程度行った」と回答

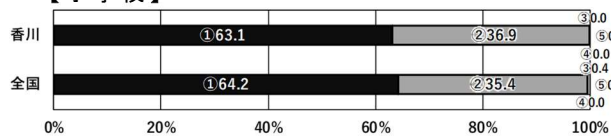


(2) チームで支える職場づくりについて

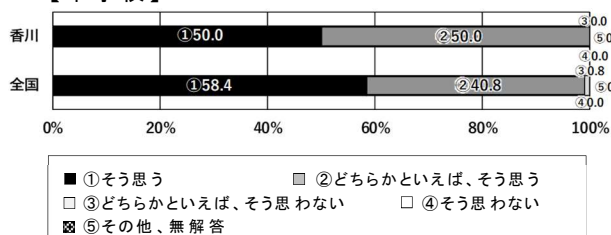
【適切な役割分担や連携協働】

■21 学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員(支援スタッフを含む)の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか 【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】



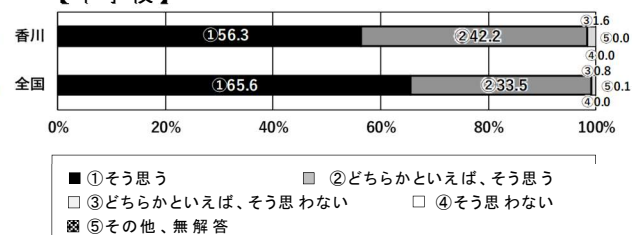
【組織的に対応する体制の構築】

■23 教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか 【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】



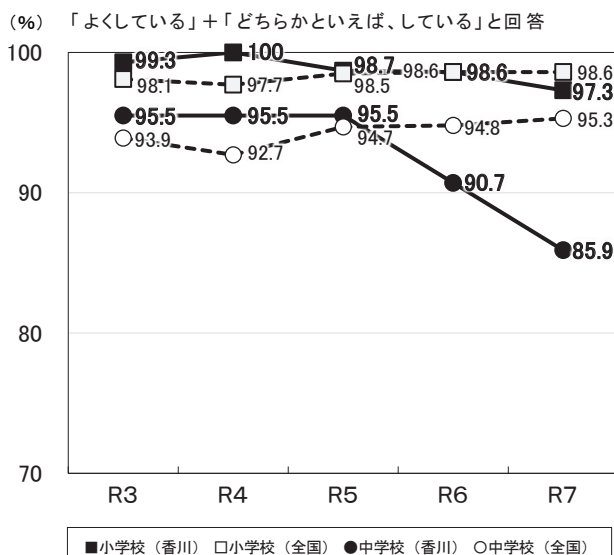
Column

「■11 授業で教員が問題を抱えている場合」に「月に数回程度以上、率先して話し合いを行った」と回答した学校の割合は、小学校は75.1%、中学校は59.4%でした。また、「■12 学級で教員が問題を抱えている場合」に「月に数回程度以上、ともに問題解決に当たった」と回答した学校の割合は、小学校は90.6%、中学校は76.5%でした。また、本年度から、「■21 適切な役割分担や連携協働」や「■23 組織的に対応する体制の構築」についての質問項目が追加されました。これらの結果から、各学校において、日々の授業や生徒指導上の問題について、困ったことを相談できる環境が整っていることが分かります。今後も、チームで支える職場環境づくりについて、「■21」や「■23」の視点を意識し、充実させていくことが大切です。

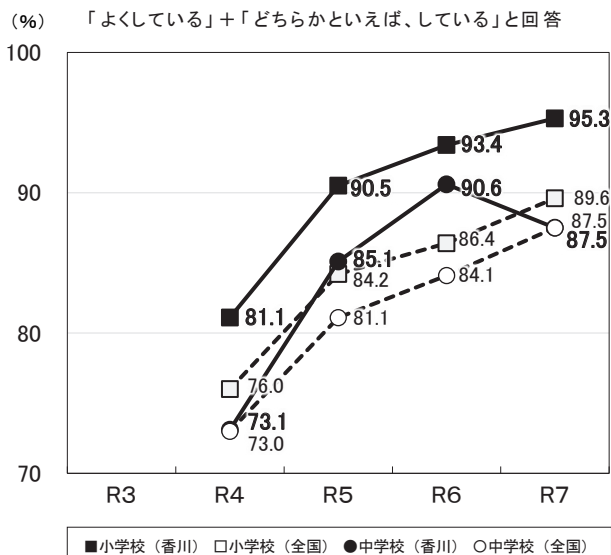
実践的な研修や専門性を高める研修の機会の充実を

実践的な研修や専門性を高める研修の実施状況

■18 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか
【学校質問調査】



■19 個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか
（オンラインでの参加を含む） 【学校質問調査】



Column

「■18 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか」の質問に、肯定的に回答した学校の割合は、小学校で 1.3pt、中学校で 4.8pt 減少しています。この結果には様々な要因があると思いますが、その一つに、日々の多忙感から、授業研究や事例研究等に取り組むことができないと感じているのではないかと推察します。多忙な学校生活ですが、その中心に据えるべき最も大切なものは授業です。先生方の創意工夫によって、児童生徒が「できた」「わかった」と実感できる授業にしていけること、また、一人一人と向き合い成長を支えていくことが、生きる力を育んだり、自己肯定感を高めたりすることにつながります。そのため、先生方一人一人が、同僚と日々の授業を見せ合う、短時間のオンライン研修を受講するなど、各校で工夫して、研修の機会を得ていくことが大切ではないでしょうか。

また、「■19 個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか」の質問に、肯定的に回答した学校の割合は、中学校で 3.1pt 減少したものの、全国と比較して同等以上の水準で推移しています。昨年に引き続き、自らの専門性を高めるために、自己研鑽する先生方の様子が伺えます。

香川県教育委員会では、確かな学力の育成と個に応じた教育の推進に向け、「学力向上モデル校事業」や「総合授業リーダー公開授業」など、様々な研修の場を設定しています。

『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現推進モデル校事業』では、小学校国語科の授業において、全校生に発表する「カモフラージュ発表会」を行うために、教科書教材「自然のかくし絵」を用いて、段落相互の関係やその段落の内容の捉え方を学び、児童の主体的な取組につなぐ授業が公開されました。所属や年代の違う多くの先生方が集まり、様々な角度から授業を振り返ることで、授業者だけでなく、参加された先生にとっても学びの多い研修の場となっていました。

ぜひ、「学力向上モデル校事業」や「総合授業リーダー公開授業」を、研修の機会として活用してください。



「学力向上モデル校事業」
「総合授業リーダー公開授業」
については、P18を参照

開かれた学校づくり

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の取組を生かす

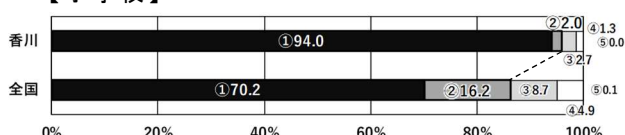
学校と地域や保護者の相互理解が進む

【保護者や地域の意見を学校運営に反映】

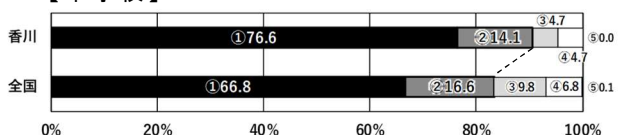
■75 コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映していますか

【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】

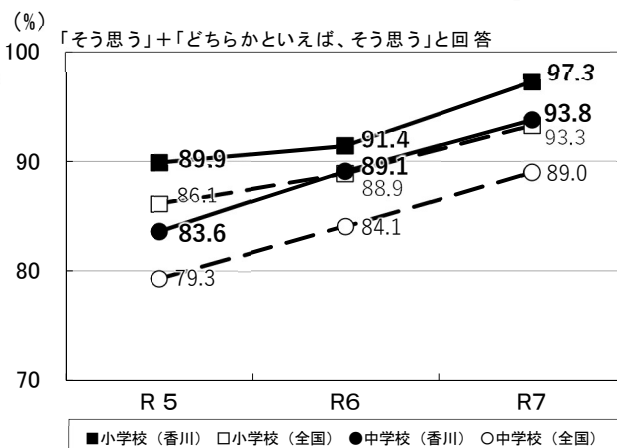


- ① コミュニティ・スクールの仕組みを活用して反映している
 ② 類似の仕組みを活用して反映している
 ③ 選択肢1, 2は行っていないが、選択肢1, 2以外の取組を通じて反映している
 ④ 反映する仕組みがない
 ⑤ その他・無回答

【学校と地域や保護者の相互理解】

■77 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

【学校質問調査】

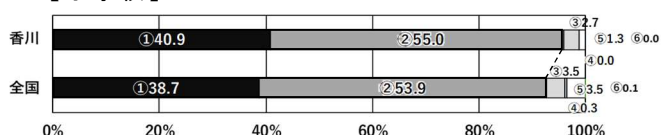


【社会に開かれた教育課程】

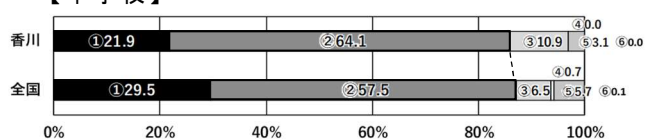
■78 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、「社会に開かれた教育課程」の実現効果がありましたか

【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】



- ① そう思う
 ② どちらかといえば、そう思う
 ③ どちらかといえば、そう思わない
 ④ そう思わない
 ⑤ 取組を行わなかった
 ⑥ その他、無回答

Column

「■75 コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映している」と肯定的に回答した割合は、小・中ともに90%を越えており、全国を上回っています。特に小学校において、「コミュニティ・スクールの仕組みを活用している」と回答している学校が94.0%と高く推移しています。中学校は、76.6%と全国を約10pt上回っています。また、「■77 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まった」と肯定的に回答した割合は、小・中ともに昨年度から増加し、一層全国を上回りました。「■78 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、『社会に開かれた教育課程』の実現に効果があった」と肯定的に回答した割合も小・中ともに高く推移しています。

これらのことから、香川県の小・中学校は、学校運営に関して、学校だけで閉じることなく積極的に保護者や地域と関わり、地域の中の学校として、ともに児童生徒を育てようとする意識が高まっていると言えるのではないのでしょうか。

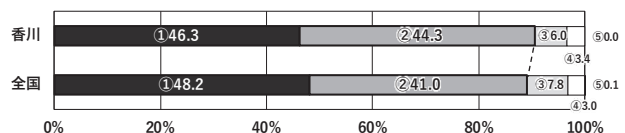
学校・家庭・地域の更なる連携に向けて

【保護者や地域住民との協働による活動】

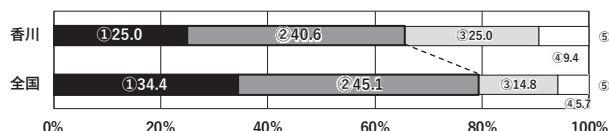
■76 地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか

【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】



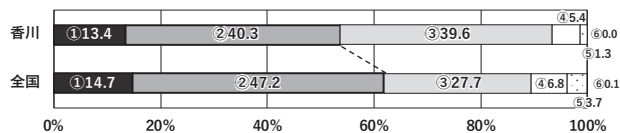
- ① よく行った ② どちらかといえば、行った
③ あまり行かなかった ④ 全く行かなかった
⑤ その他・無回答

【教員の業務負担軽減への効果】

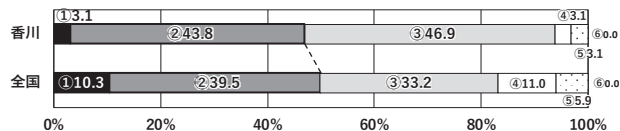
■79 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか

【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】

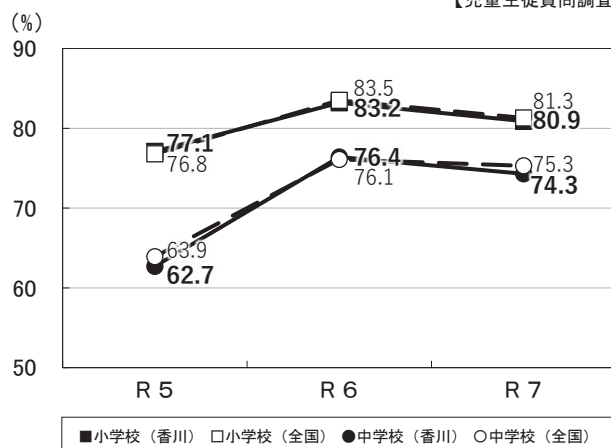


- ① そう思う ② どちらかといえば、そう思う
③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない
⑤ 取組を行わなかった ⑥ その他・無回答

【児童生徒は何かをしてみたい】

□27 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

【児童生徒質問調査】



Column

「■76 地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行った」と肯定的に回答をした割合は、小学校において全国を上回りました。一方、中学校においては、全国を約14pt下回る結果となりました。「■79 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果がある」と肯定的に回答した割合が中学校において50%未満ということから、これらの活動が、中学校の教員にとって負担になっている可能性も示唆されます。また、このことが前述の「■76 協働による活動を行った」と肯定的に回答した割合が全国を大幅に下回ることに繋がったのかもしれない。「□27 地域や社会をよくするために何かしたいと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度からは減少しましたが、全国と同等であり、依然高い割合で推移しています。児童生徒の思いをかなえるとともに、教員にとって業務負担の軽減になる活動が求められます。特に中学校においては、活動に消極的になっているかもしれません。コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組が持続可能となるためには、各校において、地域担当教員や地域学校協働活動推進委員（コーディネーター）を中心として、業務負担の軽減につながる地域を活用した効果的な取組を実施していく必要があるのではないのでしょうか。

授業や取組の改善に役立つリンク集

授業や取組の改善に役立つリンク集を紹介しますので、ご活用ください。

◆国立教育政策研究所 HP

<https://www.nier.go.jp/kaihatu/zenkokugakuryoku.html>



国立教育政策研究所のウェブサイト。全国学力・学習状況調査について、その結果や報告書、調査問題などを公開。教育施策の改善や学校での指導に役立つ情報を提供しています。



◆「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のためのサポートマガジン『みるみる』

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/senseiyouen/mext_00001.html



文部科学省が送る、授業づくりのための公式サポートマガジン。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指し、基本の考え方や実践事例を分かりやすく解説しています。



◆香川県教育委員会 HP

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gakko/index.html>



確かな学力の育成

生徒指導の充実



令和7年度
学校教育実践の手引

香川県教育委員会



香川県教育委員会のウェブサイト。確かな学力の育成や生徒指導の充実に向けて大切にしたい取組や、事業ごとの公開授業の案内、指導案等について紹介しています。

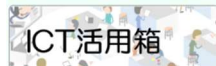
◆香川県教育センターHP

<https://www.kagawa-edu.jp/educ01/>

香川県教育センターのウェブサイト。



教職員研修ページでは、基本・専門研修、公開講演の案内や申込方法、オンライン研修の情報を掲載。教員の資質向上を支援します。



教育研究課のページでは、調査研究や研究発表会での資料を公開。また、研修サポート、教育相談、教育ライブラリーの運営など、教職員や学校を支援する事業を紹介しています。

Ⅱ 調査の概要

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

- ① 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。なお、公立学校には公立大学法人が設置する学校（公立大学附属学校）を含む。
 - ア（小学校調査）小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
 - イ（中学校調査）中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、中等教育学校前期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年
- ② 障害のある児童生徒については、各学校の判断により、当該児童生徒の障害の種類や程度に応じて、調査時間の延長、点字・拡大文字・ルビ振り問題の使用、代理解答、別室の設定などの配慮を可能とする。

特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、以下の事由がある児童生徒については、原則として、当該事由に係る教科に関する調査の対象としない。

 - ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている場合
 - イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている場合
- ③ 日本語指導が必要な児童生徒については、各学校の判断により、調査時間の延長、ルビ振り問題の使用などの配慮を可能とする。ただし、例えば、国語、算数・数学及び理科の時間に日本語指導のための取り出し指導を受けているなどの事情がある場合は、当該教科を調査の対象としないことを可能とする。

(3) 調査事項

- ① 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

【出題内容】 ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 イ 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
【調査問題】 ・上記アとイを一体的に問う。 ・記述式の問題を一定割合で導入する。

※ 中学校理科は、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式で実施。

- ② 質問調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

※ 質問調査は、児童生徒の活用する ICT 端末等を用いて実施。

(4) 調査実施日

令和7年4月17日（木）

児童質問調査

令和7年4月18日（金）～4月30日（水）のうち1日（学校ごとに指定）

生徒質問調査、中学校理科

令和7年4月14日（月）～4月17日（木）のうち1日（学校ごとに指定）

(5) 調査を実施した本県の県立及び市町立学校数、児童生徒数

	学校数	児童生徒数 (国語)	児童生徒数 (算数・数学)	児童生徒数 (理科)	児童生徒数 (質問調査)
小学校調査	149 校	7,441 人	7,443 人	7,433 人	7,476 人
中学校調査	64 校	7,095 人	7,098 人	6,909 人	7,067 人

※ 本報告書では、国立、私立を除いた公立小・中・特別支援学校の結果を掲載している。

2 調査結果の示し方

文部科学省は、小学校調査及び中学校調査のそれぞれの結果として、以下の事項等を示す。

(1) PBT で実施する教科に関する調査の結果

- ① 国語、算数・数学、理科のそれぞれの教科（以下「各教科」という。）に係る問題の全体の平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差等
- ② 各教科の平均正答数等の分布等が分かるグラフ
- ③ 各教科の設問ごとの正答率等
- ④ 各教科の設問ごとの解答類型別児童生徒数の割合

(2) CBT で実施する教科（R7 は中学校理科）に関する調査の結果

- ① 教科に係る問題の全体の IRT スコア等
- ② 教科の IRT スコア等の分布等が分かるグラフ
- ③ 教科の公開問題の設問ごとの正答率等
- ④ 教科の公開問題の設問ごとの解答類型別生徒数の割合

(3) 児童生徒質問調査及び学校質問調査の結果

- ① 児童生徒質問調査及び学校質問調査の回答状況
- ② 児童生徒質問調査及び学校質問調査の回答状況と教科に関する調査の正答率、IRT スコア等との相関関係の分析

(4) その他調査の目的の達成に資する分析



3 調査結果の活用

各教育委員会、学校等及び文部科学省においては、調査の目的を達成するため、以下のような調査結果を活用した取組に努めることとする。

- ① 各教育委員会及び学校等においては、調査結果の分析やこれを活用して教育及び教育施策の改善等に向けた取組等を進めるための体制を整備した上で、多面的な分析を行い、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら、教育及び教育施策の改善に取り組むこと。
- ② 各学校においては、調査結果を踏まえ、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等に努めるとともに、自らの教育指導等の改善に向けて取り組むこと。
- ③ 各教育委員会においては、調査結果を踏まえ、それぞれの役割と責任に応じて、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、域内の教育及び教育施策の改善に向けた取組を進めること。
- ④ 文部科学省は、児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善に取り組むこととする。また、各教育委員会及び学校等における取組に対して必要な支援等を行うなど、教育及び教育施策の改善に向けた全国的な取組を進めることとする。

4 調査結果の取扱いに関する配慮事項

調査結果については、調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。

その際、調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

数値、グラフ等を見るうえでの留意点

■ 1 調査結果の推移について

全国学力・学習状況調査は、平成 19 年度より実施(平成 22・24 年度は抽出調査、平成 23 年度・令和 2 年度は未実施)されているが、本報告書では、過去 5 年間(令和 3 年度以降)の回答状況を分析している。

なお、「全国的な学力調査の今後の改善方策について」(平成 29 年 3 月 29 日)では、「平均正答率については、学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、国としては、小数点以下を四捨五入した整数値で結果を提供することとする。」とされており、平成 29 年度から都道府県別の平均正答率については、国から整数値で提供されている。

■ 2 数値について

表記された数値は、端数処理のため 0.1 の誤差が生じることがある。

■ 3 差について

「差」を表しているグラフや表の数値は、香川県の数値から全国の数値を引いたものを表す。

活用ツールで自校のデータを CHECK

本報告書では全国と香川県の状況を分析して掲載しています。活用ツール(Excelファイル)を使えば、全国と香川県の状況に加え、**自校の状況をグラフや表に表示、経年比較したり、作成されたグラフ等ファイル内の表を貼り付けて活用したり**することができます。

① 活用ツールのダウンロード

香川県教育センターWebサイトから活用ツール(Excelファイル)と使用説明(PDFファイル)をダウンロードします。
(認証領域にログインが必要です。)

香川県
教育センター
Web サイト



<https://www.kagawa-edu.jp/educ01/>

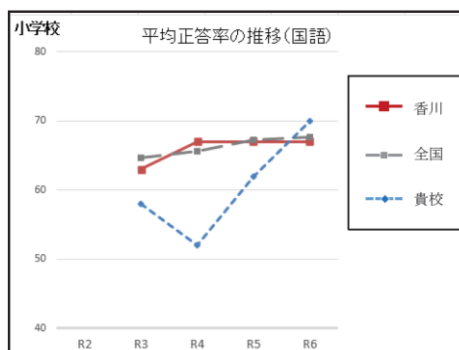
② 自校のデータの用意

文部科学省指定のWebシステムからダウンロードした調査結果の電子データをコンピュータのデスクトップに展開します。(別途文部科学省から送付されているはがきのパスワードが必要です。)

③ 活用ツールの起動

必要なファイル名を選び、ボタンを押すと、データを読み込むことができます。

※ 児童生徒質問調査については、質問項目ごとに、回答状況を示す帯グラフ、令和 3 年度からの経年変化を示す折れ線グラフが表示されます。



学力調査を活用した「カリキュラム・マネジメント」

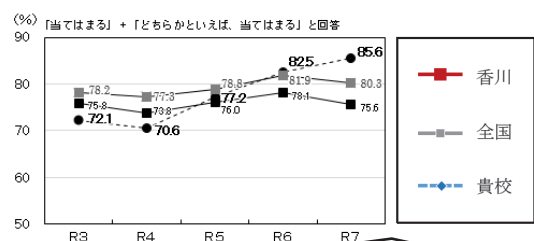
全国学力・学習状況調査及び香川県学習状況調査からは、多様なデータを得ることができます。普段から気になっていることについて、根拠を見付けたり、把握していなかった成果や課題に気付いたりすることができるようになります。この2つの調査を学校にとっての定期健診(学校ドック)と考え、十分に活用しましょう。

全国学力・学習状況調査では、国から届いた「各学校の結果データ」や「支援ツール」とともに、香川県教育センターが作成した「活用ツール」や「報告書」等を使って、全国と香川県、そして各学校の状況を比較しながら、自校のよさや課題を明確にしましょう。

分析の際は、次のような観点から学校や児童生徒の状況をみる事で、組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(カリキュラム・マネジメントの充実につなぐこと)が大切です。

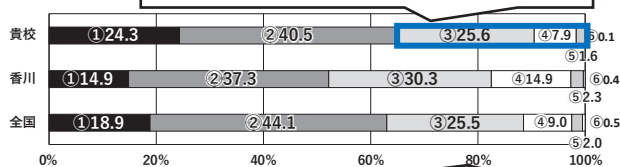


○ 目的に応じたグラフを用いて、児童生徒の状況を捉える。



折れ線グラフで表すことで、経年で児童生徒の変容を捉えることができます。

否定的な回答をした児童生徒の割合を視覚的に捉えることもできます。



帯グラフで表すことで、本年度の児童生徒の回答状況を、より詳しく捉えることができます。

○ 学校の取組と、児童生徒の意識の変化や教科に関する調査結果との関連を図る。

(例)

現職教育テーマの「主体的に学ぶ子どもの育成」に、関連する質問項目はどれだろうか？

どのような取組が成果につながったのだろうか？



児童生徒質問調査だけでなく、学校質問調査の項目も分析しよう。

教科の調査では、どの調査問題が「読解力の育成」に関わっているのだろうか？

そのうえで

- 育成したい力を具体化したり、現時点での取組を見直したりして、改善を図る。
- 全国調査と県調査の結果を関連させて、PDCA サイクルを検証する。



活用ツールの使い方だけでなく、調査結果の活用や調査結果を基にした取組等、各学校で困っていることがありましたら、香川県教育センターの「研究相談」や「研修サポート」をご利用ください。

香川県重点項目に関わる質問事項

重点項目	Q & A (ページ)	質問 番号	質問事項
学習意欲	Q 1 (P38)	16	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか
		32	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか
		36	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
		39	授業や学校生活では、友達や周りの人を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか
		45、53、61	国語（算数・数学、理科）の勉強は好きですか
		46、54、62	国語（算数・数学、理科）の授業の内容はよく分かりますか
言語活動	Q 2 (P40)	31	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
		35	学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
		51/※	国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか
		※/59	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか
		69/※	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか
学習習慣	Q 3 (P42)	17	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
		21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍に読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）
		24	読書は好きですか
自己有用感等	Q 4 (P44)	5	自分には、よいところがあると思いますか
		6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
		7	将来の夢や目標を持っていますか
		8	人が困っているときは、進んで助けていますか
		9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
		11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
学校生活	Q 5 (P46)	10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
		12	学校に行くのは楽しいと思いますか
		13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
		14	友達関係に満足していますか
		41	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか
		42	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか

Ⅲ 調査結果（概論）

令和7年度全国学力・学習状況調査

全体的な状況【小・中学校】

Point

教科に関する調査結果について、小学校では、国語、算数、理科ともに、中学校では、国語、数学、理科ともに、おおむね全国と同等である。

- ※ 平成 29 年度から都道府県の平均正答率については、国から整数値で提供されている。
- ※ 本報告書では、国立、私立を除いた公立小・中・特別支援学校の結果を掲載している。
- ※ CBT で実施した「中学校理科」の調査結果については、国より提供された IRT に基づく結果を示している。

【小学校調査】

令和 3 年度～令和 7 年度平均正答率（※理科は、H30、R4、R7 年度）

	国語					算数					理科		
調査年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	H 30	R 4	R 7
香川（公立） 平均正答率（%）	63	67	67	67	67	71	65	63	64	59	60	63	57
全国（公立） 平均正答率（%）	65 64.7	66 65.6	67 67.2	68 67.7	67 66.8	70 70.2	63 63.2	63 62.5	63 63.4	58 58.0	60 60.3	63 63.3	57 57.1
香川と全国との 差（pt）	-2	+1	0	-1	0	+1	+2	0	+1	+1	0	0	0

【中学校調査】

令和 3 年度～令和 7 年度平均正答率（※理科は、H30、R4、R7 年度）

	国語					数学					理科	
調査年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	H 30	R 4
香川（公立） 平均正答率（%）	64	70	70	57	53	56	55	53	53	49	66	49
全国（公立） 平均正答率（%）	65 64.6	69 69.0	70 69.8	58 58.1	54 54.3	57 57.2	51 51.4	51 51.0	53 52.5	48 48.3	66 66.1	49 49.3
香川と全国との 差（pt）	-1	+1	0	-1	-1	-1	+4	+2	0	+1	0	0

理科		
調査年度	R 7	
	生徒数	平均 IRT スコア
香川（公立）	6,909 人	504
全国（公立）	864,634 人	503

IRT スコアとは

IRT (Item Response Theory : 項目反応理論) に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すものです。

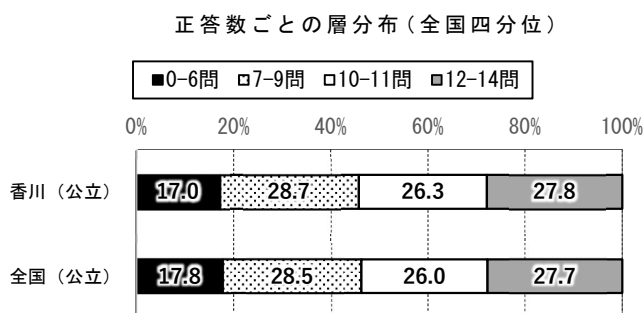
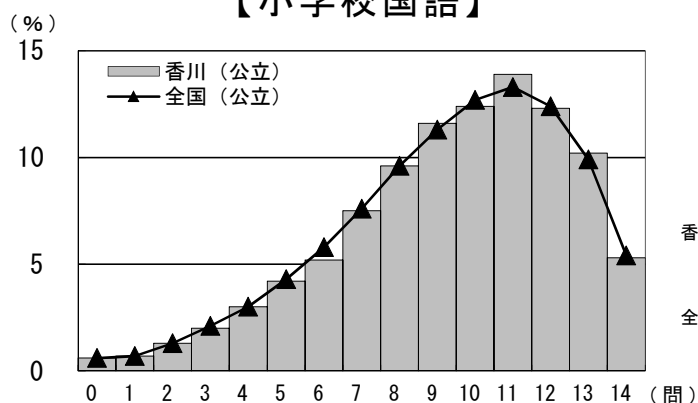
リンク P21 へ

正答数分布【小学校】

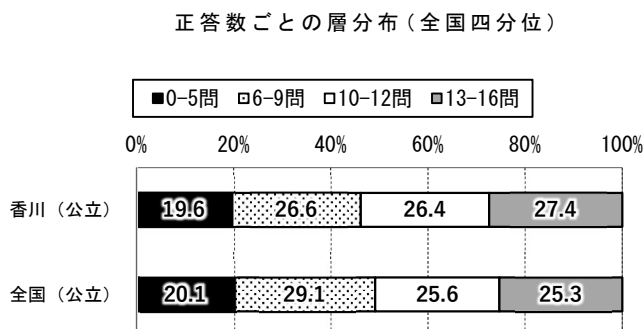
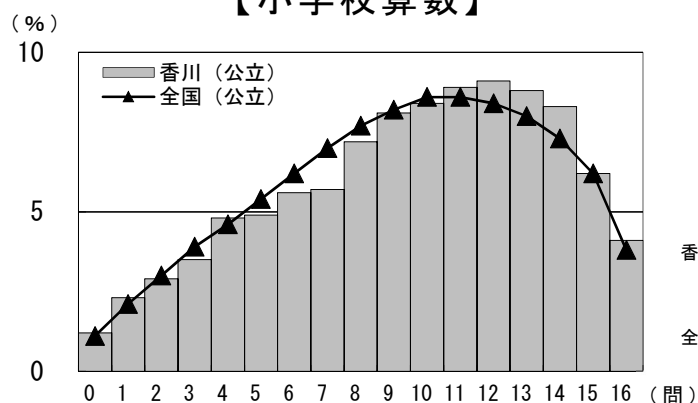
Point

1. 小学校国語においては、全国と比較して、0 - 6 問の低正答数の層の割合がわずかに少なく、12 - 14 問の高正答数の層の割合がわずかに多い傾向にある。
2. 小学校算数においては、全国と比較して、0 - 9 問の低正答数の層の割合が少なく、10 - 16 問の高正答数の層の割合が多い傾向にある。
3. 小学校理科においては、全国と比較して、0 - 6 問の低正答数の層の割合がわずかに少なく、7 - 9 問の中間程度の正答数の層の割合がわずかに多い傾向にある。

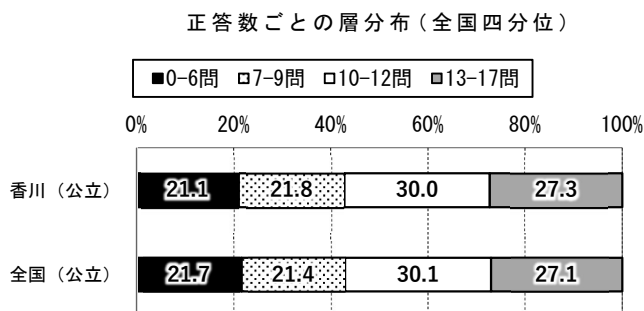
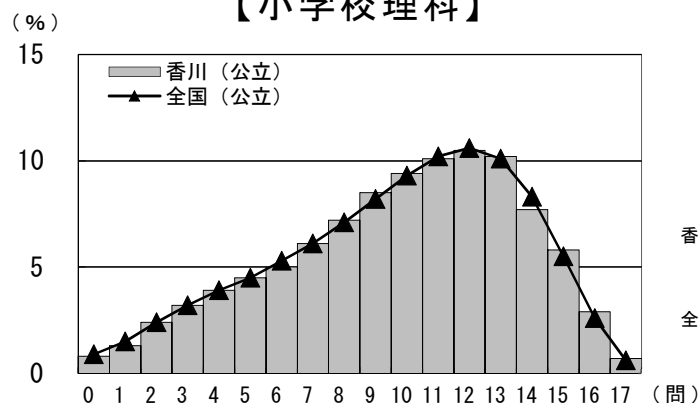
【小学校国語】



【小学校算数】



【小学校理科】

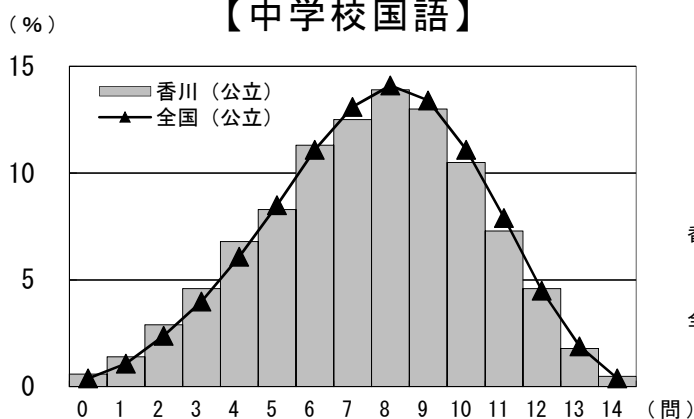


正答数及びIRTバンド分布【中学校】

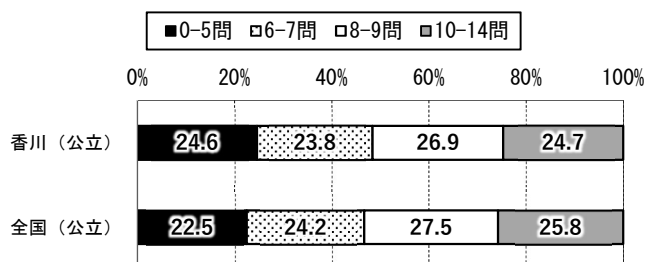
Point

1. 中学校国語においては、全国と比較して、0 - 5 問の低正答数の層の割合が多く、それ以外の層の割合がやや少ない傾向にある。
2. 中学校数学においては、全国と比較して、4 - 10 問の中程度の正答数の層の割合が少なく、11 - 15 問の高正答数の層の割合が多い傾向にある。
3. 中学校理科においては、全国と比較して、バンド1、2の割合がわずかに多く、バンド5の割合が多い傾向にある。

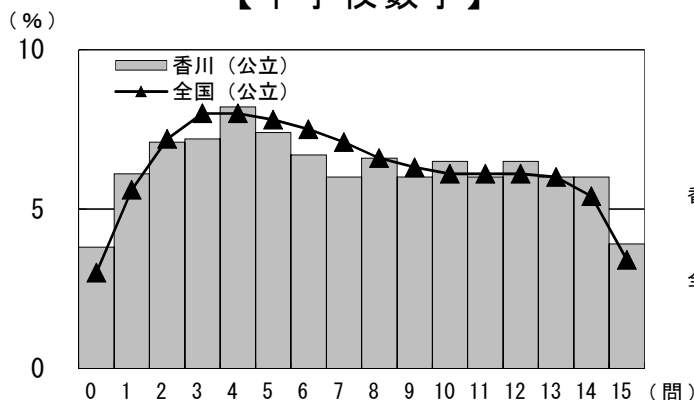
【中学校国語】



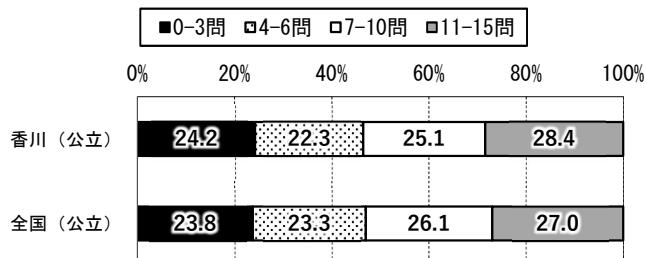
正答数ごとの層分布 (全国四分位)



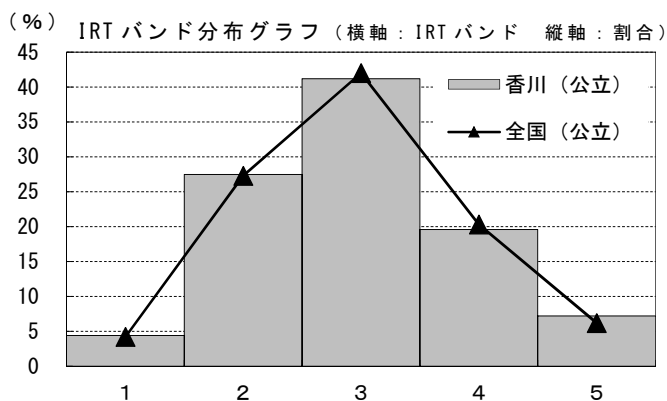
【中学校数学】



正答数ごとの層分布 (全国四分位)



【中学校理科】

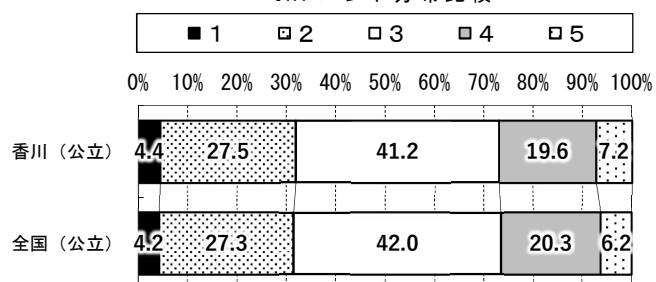


IRT バンドとは

IRT スコアを 1~5 の 5 段階に区切ったものです。3 を基準のバンドとし、5 が最も高いバンドとなります。

[リンク P21 へ](#)

IRT バンド分布比較



無解答率【小・中学校】

Point

- 1.小学校では、無解答率が全国を上回った問題はなかった。
- 2.中学校では、数学において、無解答率が全国を上回った問題が、昨年度より少なくなっている。
- 3.無解答率が高いのは、小・中学校ともに記述式問題であるが、選択式、短答式問題であっても無解答率が高くなった問題があった（P52、60、68、76、84、92参照）。

◆ 無解答率が全国平均を上回った問題数

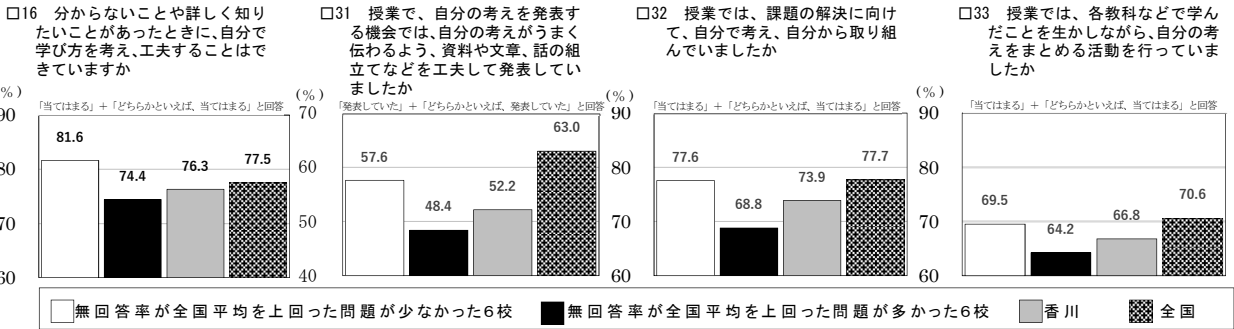
小学校	無解答率が全国平均を上回った問題数（問）/問題数（問）			
	選択式	短答式	記述式	合計
国 語	0 / 9	0 / 3	0 / 2	0 / 14
算 数	0 / 6	0 / 6	0 / 4	0 / 16
理 科	0 / 11	0 / 4	0 / 2	0 / 17

中学校	無解答率が全国平均を上回った問題数（問）/問題数（問）			
	選択式	短答式	記述式	合計
国 語	7 / 8	1 / 2	3 / 4	11/14
数 学	2 / 3	5 / 7	3 / 5	10/15
理 科	10/15	0 / 1	1 / 6	11/22※

※ 公開されている問題数の合計

Column

無回答率が全国平均を上回った問題数が少なかった中学校では、どのような取組を大切にしているのか、児童生徒質問調査結果を分析したところ、次のような傾向が見られました。



目的意識や相手意識を高め、主体的に学習に取り組めるようにすることや、一人一人が自分の考えをまとめる機会を設けることが、生徒の粘り強く取り組もうとする態度を育てます。これらを日々の授業改善の視点として意識することが大切です。

香川の結果に特徴の見られる質問【児童生徒質問調査】

Point

1. 情報活用能力を身に付けることができていると思うかを問う質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合が、全国を下回っているものが見られる。
2. 小学校では、「☐⁶⁰ 理科の勉強は得意ですか」、「☐⁶¹ 理科の勉強は好きですか」の質問に対して、肯定的に回答した児童の割合は全国を上回った。
3. 中学校では、「☐⁵⁴ 数学の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、肯定的に回答した生徒の割合は全国を上回った。

※ 肯定的な回答とは、回答選択肢1+2を指す。質問番号19は回答選択肢1+2+3を指す。(回答選択肢一覧…P104)

※ 「R6番号」欄の「新」は、R7年度新たに問われた質問。「R4～」は、R5、6年度にはなかったが、R4年度にはあった質問。

○肯定的な回答が3pt以上全国を上回る質問

【小・中共通】 なし

【小学校のみ】 なし

【中学校のみ】

			中学校	
質問番号	R6番号	質問事項	選択肢1の差(pt)	選択肢1+2の差(pt)
54	52	数学の授業の内容はよく分かりますか	3.9	3.7
国2	国2	解答時間は十分でしたか(国語)	3.2	3.7

▽肯定的な回答が3pt以上全国を下回る質問

【小・中共通】

			小学校		中学校	
質問番号	R6番号	質問事項	選択肢1の差(pt)	選択肢1+2の差(pt)	選択肢1の差(pt)	選択肢1+2の差(pt)
44/44	新	国語の勉強は得意ですか	-6.0	-9.7	-2.3	-8.4
29-4/29-4	新	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますと思いますか	-8.4	-8.0	-8.6	-13.4
29-3/29-3	新	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますと思いますか	-5.4	-7.6	-4.3	-9.4
45/45	42/42	国語の勉強は好きですか	-4.1	-6.7	-1.1	-4.3
48/48	新	国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか	-4.6	-5.9	-2.0	-3.8
29-1/29-1	新	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますと思いますか	-7.0	-5.2	-6.9	-6.6
46/46	44/44	国語の授業の内容はよく分かりますか	-6.0	-5.2	-1.7	-3.3
32/32	30/30	5年生までに(1、2年生のときに)受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	-3.7	-4.7	-1.8	-3.8
33/33	31/31	5年生までに(1、2年生のときに)受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	-3.9	-4.4	-1.8	-3.8
40/40	38/38	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	-5.6	-4.1	-9.0	-9.7
31/31	29/29	5年生までに(1、2年生のときに)受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	-2.5	-3.8	-4.0	-10.8

▽肯定的な回答が3pt以上全国を下回る質問

【小学校のみ】

質問 番号	R6 番号	質問事項	小学校	
			選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
60	新	理科の勉強は得意ですか	-4.9	-5.3
61	58	理科の勉強は好きですか	-5.0	-4.1
70	R4 69	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	-4.0	-4.1
10	14	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	-2.9	-3.6
50	48	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか	-3.8	-3.5
64	R4 66	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	-2.3	-3.5
65	新	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか	-3.9	-3.5
36	34	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	-2.8	-3.4
66	59	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか	-2.7	-3.4
16	20	分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	-3.6	-3.2
62	R4 63	理科の授業の内容はよく分かりますか	-5.4	-3.1
68	新	理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるのか、自分で予想(仮説)を考えていますか	-3.3	-3.1
30-1	28-1	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	-4.5	-3.0

【中学校のみ】

質問 番号	R6 番号	質問事項	中学校	
			選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
59	新	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか	-1.2	-4.7
50	新	国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか	-1.0	-4.2
51	新	国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか	-2.6	-3.8
5	9	自分には、よいところがあると思いますか	-4.4	-3.6
69	60	理科の授業では、自分の予想(仮説)をもとに観察や実験の計画を立てていますか	-2.3	-3.4
47	45	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	-3.9	-3.0

□頻度に関する回答が3pt以上全国と開きがある質問

【小・中共通】

質問 番号	R6 番号	質問事項	小学校		中学校	
			選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)	選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
28/28	27/27	5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	-9.3	-13.7	-14.3	-22.1

【小・中共通】

質問 番号	R6 番号	質問事項	小学校		中学校	
			選択肢1+2 の差(pt)	選択肢1+2+3 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)	選択肢1+2+3 の差(pt)
19	22	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	-3.7	-3.5	-2.4	-3.2

香川の児童生徒質問調査 選択肢別の平均正答率

※ 調査区分全てにおいて、児童生徒質問調査の選択肢別の平均正答率（中学校理科は平均 IRT スコア）が、「回答1」>「回答2」>「回答3」>「回答4」>「回答5」>「回答6」の関係である調査結果を示す。ただし、教科に関する質問を除く。

1 【小学校】教科の平均正答率と関係が見られた児童質問調査結果

質問番号	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ児童の平均正答率(%)		
			国語	算数	理科
1	朝食を毎日食べていますか	① している	68.9	61.4	59.3
		② どちらかといえば、している	62.6	52.6	51.8
		③ あまりしていない	55.1	44.7	45.1
		④ 全くしていない	49.0	39.4	41.1
		差①-④	19.9	22.0	18.2
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	① している	69.0	62.0	59.7
		② どちらかといえば、している	68.4	60.2	58.5
		③ あまりしていない	62.3	53.0	51.9
		④ 全くしていない	52.8	43.6	43.4
		差①-④	16.2	18.4	16.3
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	① している	68.3	60.7	58.5
		② どちらかといえば、している	67.8	59.6	58.2
		③ あまりしていない	59.9	51.3	50.1
		④ 全くしていない	51.9	37.8	40.5
		差①-④	16.4	22.9	18.0
5	自分には、よいところがあると思いますか	① 当てはまる	70.1	63.3	60.8
		② どちらかといえば、当てはまる	66.3	57.8	56.5
		③ どちらかといえば、当てはまらない	62.4	53.1	52.0
		④ 当てはまらない	60.7	50.1	48.7
		差①-④	9.4	13.2	12.1
6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	① 当てはまる	69.4	62.0	60.0
		② どちらかといえば、当てはまる	66.1	57.4	55.9
		③ どちらかといえば、当てはまらない	60.7	53.0	50.9
		④ 当てはまらない	60.5	50.1	50.0
		差①-④	8.9	11.9	10.0
11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	① 当てはまる	68.6	60.7	58.8
		② どちらかといえば、当てはまる	63.9	55.9	54.3
		③ どちらかといえば、当てはまらない	60.4	51.0	49.6
		④ 当てはまらない	53.9	46.1	46.1
		差①-④	14.7	14.6	12.7
12	学校に行くのは楽しいと思いますか	① 当てはまる	68.4	60.8	58.8
		② どちらかといえば、当てはまる	68.0	59.9	58.3
		③ どちらかといえば、当てはまらない	63.5	55.1	53.3
		④ 当てはまらない	57.1	47.5	46.5
		差①-④	11.3	13.3	12.3
13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	① 当てはまる	69.7	63.4	60.5
		② どちらかといえば、当てはまる	67.3	58.9	57.4
		③ どちらかといえば、当てはまらない	65.0	55.7	54.9
		④ 当てはまらない	59.3	49.3	48.8
		差①-④	10.4	14.1	11.7
15	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	① よくある	68.0	59.8	58.2
		② ときどきある	67.4	59.4	57.5
		③ あまりない	62.7	56.4	53.6
		④ 全くない	55.9	44.5	45.9
		差①-④	12.1	15.3	12.3
16	分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	① できている	71.1	65.7	62.4
		② どちらかといえば、できている	67.4	59.2	57.8
		③ どちらかといえば、できていない	62.9	52.2	51.3
		④ できていない	54.0	43.3	44.1
		差①-④	17.1	22.4	18.3
23	新聞を読んでいますか	① ほぼ毎日読んでいます	73.6	70.2	65.8
		② 週に1～3回程度読んでいます	70.4	64.0	62.9
		③ 月に1～3回程度読んでいます	69.7	62.9	60.3
		④ ほとんど、または、全く読まない	66.3	57.8	56.2
		差①-④	7.3	12.4	9.6
24	読書は好きですか	① 当てはまる	72.8	64.9	63.5
		② どちらかといえば、当てはまる	67.0	59.2	57.1
		③ どちらかといえば、当てはまらない	62.8	54.2	52.3
		④ 当てはまらない	58.0	50.5	48.2
		差①-④	14.8	14.4	15.3
27	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	① 当てはまる	68.9	61.8	59.6
		② どちらかといえば、当てはまる	67.9	59.7	57.9
		③ どちらかといえば、当てはまらない	63.4	54.6	53.5
		④ 当てはまらない	60.1	50.2	49.2
		差①-④	8.8	11.6	10.4
29-1	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができると思いますか	① とてもそう思う	72.5	66.1	63.0
		② そう思う	68.2	60.1	58.6
		③ あまりそう思わない	59.8	50.3	49.5
		④ そう思わない	51.3	40.4	40.6
		差①-④	21.2	25.7	22.4
29-2	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると思いますか	① とてもそう思う	70.3	63.4	61.0
		② そう思う	66.9	58.2	56.8
		③ あまりそう思わない	57.9	48.1	47.2
		④ そう思わない	46.4	35.4	36.2
		差①-④	23.9	28.0	24.8
29-3	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか	① とてもそう思う	70.6	65.3	62.3
		② そう思う	69.6	62.0	59.8
		③ あまりそう思わない	64.4	54.9	54.0
		④ そう思わない	54.4	43.1	43.4
		差①-④	16.2	22.2	18.9
29-4	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思いますか	① とてもそう思う	72.5	66.6	63.6
		② そう思う	68.9	60.7	59.0
		③ あまりそう思わない	61.9	52.0	51.4
		④ そう思わない	52.8	43.4	42.4
		差①-④	19.7	23.2	21.2
30-1	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	① とてもそう思う	70.8	64.3	61.9
		② そう思う	67.8	59.6	57.8
		③ あまりそう思わない	62.5	53.6	52.2
		④ そう思わない	56.2	44.9	45.0
		差①-④	14.6	19.4	16.9
30-2	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(2)分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	① とてもそう思う	70.5	63.2	60.7
		② そう思う	65.3	57.0	55.9
		③ あまりそう思わない	59.5	49.4	48.7
		④ そう思わない	49.2	40.7	40.5
		差①-④	21.3	22.5	20.2
30-3	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(3)楽しみながら学習を進めることができる	① とてもそう思う	69.2	62.1	59.8
		② そう思う	67.0	58.3	57.0
		③ あまりそう思わない	63.0	54.0	52.6
		④ そう思わない	55.5	47.1	45.8
		差①-④	13.7	15.0	14.0
30-4	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(4)画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	① とてもそう思う	69.3	62.1	59.9
		② そう思う	66.6	58.1	56.8
		③ あまりそう思わない	62.3	53.6	51.9
		④ そう思わない	59.2	47.6	45.2
		差①-④	10.1	14.5	14.7

質問 番号	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ児童の平均正答率(%)		
			国語	算数	理科
30-5	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	① とてもそう思う	69.8	62.5	60.2
		② そう思う	67.9	60.2	58.2
		③ あまりそう思わない	63.6	54.6	53.8
		④ そう思わない	58.8	48.8	47.2
		差①-④	11.0	13.7	13.0
30-6	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	① とてもそう思う	69.8	62.4	60.2
		② そう思う	66.7	58.4	56.9
		③ あまりそう思わない	63.8	55.0	53.7
		④ そう思わない	55.7	46.7	45.9
		差①-④	14.1	15.7	14.3
30-7	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる	① とてもそう思う	68.2	60.6	58.5
		② そう思う	67.2	58.8	57.3
		③ あまりそう思わない	65.5	57.7	56.0
		④ そう思わない	60.4	51.5	49.6
		差①-④	7.8	9.1	8.9
31	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	① 発表していた	71.9	66.3	62.8
		② どちらかといえば、発表していた	68.3	60.5	58.8
		③ どちらかといえば、発表していなかった	64.0	54.8	54.1
		④ 発表していなかった	60.6	48.9	48.3
		⑤ 考えを発表する機会はありませんでした	53.2	41.6	40.7
		差①-⑤	18.7	24.7	22.1
32	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	① 当てはまる	72.2	67.3	63.2
		② どちらかといえば、当てはまる	67.9	59.7	58.2
		③ どちらかといえば、当てはまらない	61.8	51.4	51.1
		④ 当てはまらない	52.3	41.2	42.1
		差①-④	19.9	26.1	21.1
33	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	① 当てはまる	70.4	64.7	61.6
		② どちらかといえば、当てはまる	68.1	60.3	58.3
		③ どちらかといえば、当てはまらない	63.6	53.5	53.0
		④ 当てはまらない	56.5	45.9	46.0
		差①-④	13.9	18.8	15.6
34	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	① 当てはまる	71.4	65.2	62.3
		② どちらかといえば、当てはまる	66.6	58.3	57.0
		③ どちらかといえば、当てはまらない	60.9	49.8	49.0
		④ 当てはまらない	57.1	47.6	47.3
		差①-④	14.3	17.6	15.0
35	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	① 当てはまる	70.5	63.7	61.0
		② どちらかといえば、当てはまる	67.0	58.7	57.2
		③ どちらかといえば、当てはまらない	60.9	51.3	50.7
		④ 当てはまらない	55.8	44.9	43.8
		⑤ 学級の友達との間で話し合う活動を行っていません	49.5	39.2	40.0
		差①-⑤	21.0	24.5	21.0
36	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	① 当てはまる	71.1	65.6	61.8
		② どちらかといえば、当てはまる	67.9	59.5	58.1
		③ どちらかといえば、当てはまらない	62.9	53.2	52.8
		④ 当てはまらない	52.7	41.7	42.7
		差①-④	18.4	23.9	19.1
37	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか	① 当てはまる	70.0	63.7	61.0
		② どちらかといえば、当てはまる	67.6	59.2	57.7
		③ どちらかといえば、当てはまらない	62.4	52.3	51.5
		④ 当てはまらない	55.6	46.6	45.7
		差①-④	14.4	17.1	15.3
38	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくださっていると思いますか	① 当てはまる	68.5	60.6	58.9
		② どちらかといえば、当てはまる	67.0	59.2	57.2
		③ どちらかといえば、当てはまらない	63.8	55.7	53.4
		④ 当てはまらない	61.0	51.4	51.0
		差①-④	7.5	9.2	7.9
39	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	① 当てはまる	68.9	61.1	58.9
		② どちらかといえば、当てはまる	66.9	58.8	57.4
		③ どちらかといえば、当てはまらない	60.4	52.1	51.0
		④ 当てはまらない	51.1	43.5	40.2
		差①-④	17.8	17.6	18.7
40	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	① 当てはまる	70.3	63.2	60.8
		② どちらかといえば、当てはまる	67.3	59.6	57.9
		③ どちらかといえば、当てはまらない	63.6	54.1	52.3
		④ 当てはまらない	57.2	46.0	47.9
		差①-④	13.1	17.2	12.9
41	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	① 当てはまる	69.7	62.3	60.1
		② どちらかといえば、当てはまる	67.3	58.8	57.2
		③ どちらかといえば、当てはまらない	62.3	54.8	53.2
		④ 当てはまらない	56.2	47.3	46.2
		差①-④	13.5	15.0	13.9
42	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	① 当てはまる	68.3	61.2	58.9
		② どちらかといえば、当てはまる	67.5	59.2	57.7
		③ どちらかといえば、当てはまらない	65.7	56.9	55.3
		④ 当てはまらない	60.2	52.3	50.7
		差①-④	8.1	8.9	8.2
43	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	① 当てはまる	69.2	60.5	59.2
		② どちらかといえば、当てはまる	66.9	59.3	57.2
		③ どちらかといえば、当てはまらない	62.1	55.6	52.6
		④ 当てはまらない	56.0	49.4	47.9
		差①-④	13.2	11.1	11.3
71	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか	① している	68.3	60.3	58.7
		② どちらかといえば、している	67.9	59.8	58.2
		③ あまりしていない	65.7	58.0	55.8
		④ 全くしていない	57.9	51.0	46.9
		差①-④	10.4	9.3	11.8

2 【中学校】教科の平均正答率・平均 IRT スコアと関係が見られた生徒質問調査結果

質問 番号	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ生徒の平均正答率・平均IRTスコア		
			国語	数学	理科
5	自分には、よいところがあると思いますか	① 当てはまる	54.5	52.8	515
		② どちらかといえば、当てはまる	53.8	48.8	503
		③ どちらかといえば、当てはまらない	50.9	43.9	485
		④ 当てはまらない	48.3	38.3	475
		差①-④	6.2	14.5	40
6	先生は、あなたのよいところを認めてくださっていると思いますか	① 当てはまる	55.0	52.3	516
		② どちらかといえば、当てはまる	52.9	47.2	498
		③ どちらかといえば、当てはまらない	49.2	43.4	476
		④ 当てはまらない	43.2	37.5	450
		差①-④	11.8	14.8	66
11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	① 当てはまる	54.4	51.0	510
		② どちらかといえば、当てはまる	51.4	45.3	491
		③ どちらかといえば、当てはまらない	50.7	42.6	486
		④ 当てはまらない	45.8	37.3	426
		差①-④	8.6	13.7	84
13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	① 当てはまる	56.2	55.2	531
		② どちらかといえば、当てはまる	53.5	48.7	502
		③ どちらかといえば、当てはまらない	50.3	42.8	476
		④ 当てはまらない	44.6	35.3	439
		差①-④	11.6	19.9	92

質問番号	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ生徒の平均正答率・平均IRTスコア		
			国語	数学	理科
15	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	① よくある	54.6	50.4	510
		② ときどきある	53.0	48.8	502
		③ あまりない	51.9	46.7	497
		④ 全くない	35.6	28.8	413
		差①－④	19.0	21.6	97
16	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	① できている	58.4	59.6	548
		② どちらかといえば、できている	53.6	49.1	502
		③ どちらかといえば、できていない	48.2	38.5	464
		④ できていない	42.4	28.5	427
		差①－④	16.0	31.1	121
23	新聞を読んでいますか	① ほぼ毎日読んでいる	62.2	63.1	582
		② 週に1～3回程度読んでいる	60.9	59.2	553
		③ 月に1～3回程度読んでいる	57.1	56.1	534
		④ ほとんど、または、全く読まない	52.5	47.6	497
		差①－④	9.7	15.5	85
24	読書は好きですか	① 当てはまる	60.6	55.6	543
		② どちらかといえば、当てはまる	54.0	50.1	511
		③ どちらかといえば、当てはまらない	49.8	45.8	485
		④ 当てはまらない	44.1	39.5	445
		差①－④	16.5	16.1	98
29-1	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますか	① とてもそう思う	57.2	54.5	529
		② そう思う	54.2	50.1	508
		③ あまりそう思わない	48.1	41.7	470
		④ そう思わない	42.9	34.7	436
		差①－④	14.3	19.8	93
29-2	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができますか	① とてもそう思う	55.6	52.1	517
		② そう思う	53.1	48.5	502
		③ あまりそう思わない	47.5	40.7	468
		④ そう思わない	39.5	32.0	417
		差①－④	16.1	20.1	100
29-3	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますか	① とてもそう思う	55.7	54.4	529
		② そう思う	55.3	52.5	516
		③ あまりそう思わない	52.0	45.9	491
		④ そう思わない	48.5	40.0	462
		差①－④	7.2	14.4	67
29-4	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか	① とてもそう思う	57.1	55.3	534
		② そう思う	55.3	52.4	516
		③ あまりそう思わない	50.1	43.7	479
		④ そう思わない	46.5	36.2	449
		差①－④	10.6	19.1	85
31	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	① 発表していた	58.3	59.9	550
		② どちらかといえば、発表していた	56.5	55.4	527
		③ どちらかといえば、発表していなかった	50.6	43.1	481
		④ 発表していなかった	48.5	37.1	457
		⑤ 考えを発表する機会はなかった	42.8	35.0	434
		差①－⑤	15.5	24.9	116
32	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	① 当てはまる	59.7	62.3	559
		② どちらかといえば、当てはまる	54.5	50.8	509
		③ どちらかといえば、当てはまらない	47.4	36.3	457
		④ 当てはまらない	37.7	22.9	396
		差①－④	22.0	39.4	163
33	1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	① 当てはまる	58.1	60.3	548
		② どちらかといえば、当てはまる	54.7	50.7	512
		③ どちらかといえば、当てはまらない	50.0	42.2	476
		④ 当てはまらない	44.7	32.8	430
		差①－④	13.4	27.5	118
34	1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	① 当てはまる	56.7	57.5	533
		② どちらかといえば、当てはまる	54.3	49.6	508
		③ どちらかといえば、当てはまらない	48.2	38.8	466
		④ 当てはまらない	41.0	28.6	417
		差①－④	15.7	28.9	116
35	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	① 当てはまる	57.0	55.3	527
		② どちらかといえば、当てはまる	53.6	48.9	504
		③ どちらかといえば、当てはまらない	47.2	38.8	465
		④ 当てはまらない	41.9	30.6	429
		⑤ 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない	37.7	24.5	391
		差①－⑤	19.3	30.8	136
36	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	① 当てはまる	58.7	61.4	550
		② どちらかといえば、当てはまる	54.5	50.4	510
		③ どちらかといえば、当てはまらない	49.2	39.3	468
		④ 当てはまらない	40.6	27.5	425
		差①－④	18.1	33.9	125
37	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか	① 当てはまる	57.1	57.0	537
		② どちらかといえば、当てはまる	53.8	49.3	504
		③ どちらかといえば、当てはまらない	51.0	43.9	484
		④ 当てはまらない	46.2	35.7	445
		差①－④	10.9	21.3	92
38	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	① 当てはまる	55.4	53.6	520
		② どちらかといえば、当てはまる	53.2	48.1	501
		③ どちらかといえば、当てはまらない	51.1	44.1	486
		④ 当てはまらない	45.5	36.3	450
		差①－④	9.9	17.3	70
39	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	① 当てはまる	55.3	52.9	516
		② どちらかといえば、当てはまる	53.5	48.2	503
		③ どちらかといえば、当てはまらない	45.6	38.0	460
		④ 当てはまらない	41.3	30.5	416
		差①－④	14.0	22.4	100
40	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	① 当てはまる	56.0	54.8	524
		② どちらかといえば、当てはまる	54.1	50.2	508
		③ どちらかといえば、当てはまらない	51.6	44.7	489
		④ 当てはまらない	46.8	38.3	460
		差①－④	9.2	16.5	64
41	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	① 当てはまる	54.8	52.4	515
		② どちらかといえば、当てはまる	53.5	49.0	505
		③ どちらかといえば、当てはまらない	52.2	45.1	492
		④ 当てはまらない	48.3	40.7	461
		差①－④	6.5	11.7	54
42	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	① 当てはまる	54.8	53.2	515
		② どちらかといえば、当てはまる	53.3	48.7	503
		③ どちらかといえば、当てはまらない	53.2	47.2	502
		④ 当てはまらない	50.6	43.1	479
		差①－④	4.2	10.1	36
43	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	① 当てはまる	55.6	52.7	517
		② どちらかといえば、当てはまる	52.8	47.2	499
		③ どちらかといえば、当てはまらない	47.2	41.9	473
		④ 当てはまらない	40.8	31.4	424
		差①－④	14.8	21.3	93

香川の結果に特徴の見られる質問【学校質問調査】

Point

- 発達障害を含む障害のある児童生徒に対する授業の中で、合理的配慮の提供として「■70-1/70-1(1) 人的支援の配慮」をどの程度行ったかを問う質問に「十分に行った」「一部行った」と肯定的に回答した学校の割合は、小・中学校ともに全国を上回った。
- 「■72/72 前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか」の質問に「十分に行った」「一部行った」と肯定的に回答した学校の割合は、小・中学校ともに全国を下回った。
- 「■29 授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか」の質問に肯定的に回答した中学校の割合は、全国を下回った。

※ 肯定的な回答とは、回答選択肢1+2を指す。(回答選択肢一覧…P110)

※ 「R6番号」欄の「新」は、R7年度新たに問われた質問。「R5～」は、R6年度にはなかったが、R5年度にはあった質問。

○肯定的な回答が5pt以上全国を上回る質問

【小・中共通】

質問番号	R6番号	質問事項	小学校		中学校	
			選択肢1の差(pt)	選択肢1+2の差(pt)	選択肢1の差(pt)	選択肢1+2の差(pt)
70-1/70-1	新	学校では、調査対象学年の児童(生徒)のうち、発達障害を含む障害のある児童(生徒)に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、次のことをどの程度行いましたか。(1) 人的支援の配慮	4.1	11.5	16.4	19.0
75/75	新	コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映していますか	23.8	9.6	9.8	7.3
70-3/70-3	新	学校では、調査対象学年の児童(生徒)のうち、発達障害を含む障害のある児童(生徒)に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、次のことをどの程度行いましたか。(3) ルール・慣行の柔軟な変更	-2.2	5.4	1.6	22.3

【小学校のみ】

質問番号	R6番号	質問事項	小学校	
			選択肢1の差(pt)	選択肢1+2の差(pt)
19	18	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)	12.7	5.7

【中学校のみ】

質問番号	R6番号	質問事項	中学校	
			選択肢1の差(pt)	選択肢1+2の差(pt)
70-2	新	学校では、調査対象学年の生徒のうち、発達障害を含む障害のある生徒に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、次のことをどの程度行いましたか。(2) 情報の取得、利用及び意思疎通への配慮	1.7	17.0

▽肯定的な回答が5pt以上全国を下回る質問

【小・中共通】

質問番号	R6番号	質問事項	小学校		中学校	
			選択肢1の差(pt)	選択肢1+2の差(pt)	選択肢1の差(pt)	選択肢1+2の差(pt)
72/72	68/72	前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	-13.1	-31.7	-6.4	-20.1
65/65	63/67	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか	-19.7	-17.0	-9.9	-19.0
84/84	76/80	令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)	-17.0	-16.6	-14.9	-11.6
71/71	新	学校では、調査対象学年の児童(生徒)のうち、日本語指導が必要な児童(生徒)に対して、特別な配慮に基づく指導をどの程度行っていますか	-3.9	-10.7	-4.2	-6.3
82/82	73/77	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学校では、児童(生徒)が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童(生徒)の学習改善に生かしましたか	-10.2	-7.9	-1.5	-7.4
34/34	35/35	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	-4.9	-6.3	-9.1	-13.1
30/30	30/30	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学習指導において、児童(生徒)一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	-8.0	-5.1	-11.1	-12.8

▽肯定的な回答が5pt以上全国を下回る質問

【小学校のみ】

			小学校	
質問番号	R6番号	質問事項	選択肢1の差(pt)	選択肢1+2の差(pt)
79	新	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか	-1.3	-8.2
68	66	障害のある児童が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援をどの程度行いましたか	-0.8	-5.3
73	69	職場見学を行っていますか	-13.6	

※ 質問番号 73 については、選択肢 1 : 「行っている」、選択肢 2 : 「行っていない」となっているため、選択肢 1 の差のみで比較している。

【中学校のみ】

			中学校	
質問番号	R6番号	質問事項	選択肢1の差(pt)	選択肢1+2の差(pt)
29	29	調査対象学年の生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	-7.4	-23.7
33	34	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	-4.5	-19.6
32	33	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	-13.4	-17.3
81	76	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	-9.9	-15.6
76	新	地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか	-9.4	-13.9
74	R5 79	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	-2.1	-9.7
18	16	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	-15.6	-9.4
17	15	言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか	-14.4	-8.8
36	36	調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	-20.4	-8.6
38	38	調査対象学年の生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか	-4.5	-6.7
24	24	ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されていると思いますか	-11.0	-6.5
46	46	調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか	-4.5	-5.8
11	9	前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか	-2.3	-5.5
25	25	調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	-13.2	-5.4
80	75	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	-7.9	-5.3
45	45	調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか	-5.3	-5.2

○頻度に関する回答が5pt以上全国を上回る質問

【小・中共通】 なし

【小学校のみ】

質問 番号	R6 番号	質問事項	小学校	
			選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
55	53	前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	9.4	5.1

【中学校のみ】

質問 番号	R6 番号	質問事項	中学校	
			選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
73	73	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか	-15.4	

※ 質問番号73については、選択肢1:「実施しなかった」、選択肢2:「1日～2日」となっているため、数値が小さいほど全国を上回ると表記している。

▽頻度に関する回答が5pt以上全国を下回る質問

【小・中共通】

質問 番号	R6 番号	質問事項	小学校		中学校	
			選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)	選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
66/66	64/68	児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	-13.8	-20.7	-19.7	-38.6
63/63	61/65	調査対象学年の児童(生徒)が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	-8.1	-16.8	-11.9	-14.6
60/60	58/62	調査対象学年の児童(生徒)が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	-11.9	-12.6	-5.8	-19.5
61/61	59/63	教職員と調査対象学年の児童(生徒)がやりとりする場面では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	-8.7	-9.0	-14.7	-18.4
59/59	57/61	調査対象学年の児童(生徒)が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	-10.3	-8.5	-14.0	-11.8
58/58	56/60	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	-8.7	-7.7	-23.1	-18.8
67-4/ 67-4	65-4/ 69-4	児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(4)外国人児童(生徒)に対する学習活動等の支援	-4.7	-7.7	-5.4	-5.7
67-3/ 67-3	65-3/ 69-3	児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(3)特別な支援を要する児童(生徒)に対する学習活動等の支援	-6.8	-7.2	-13.8	-14.5
62/62	60/64	調査対象学年の児童(生徒)同士がやりとりする場面では、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	-2.6	-6.7	-10.8	-17.4
67-6/ 67-6	65-6/ 69-6	児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(6)児童(生徒)に対するオンラインを活用した相談・支援	-5.9	-6.4	-7.2	-8.0

【小学校のみ】

質問 番号	R6 番号	質問事項	小学校	
			選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
67-5	65-5	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(5)児童の心身の状況の把握	-12.5	-14.6

【中学校のみ】

質問 番号	R6 番号	質問事項	中学校	
			選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
67-1	69-1	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(1)不登校生徒に対する学習活動等の支援((67-2)の授業配信を含む)	-5.8	-9.6
67-2	69-2	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(2)希望する不登校生徒に対する授業配信	-6.9	-6.4

Question 1 学習意欲 に関わる 質問項目

「学習意欲」に関わる質問項目について、どのような回答状況の変化が見られたか。

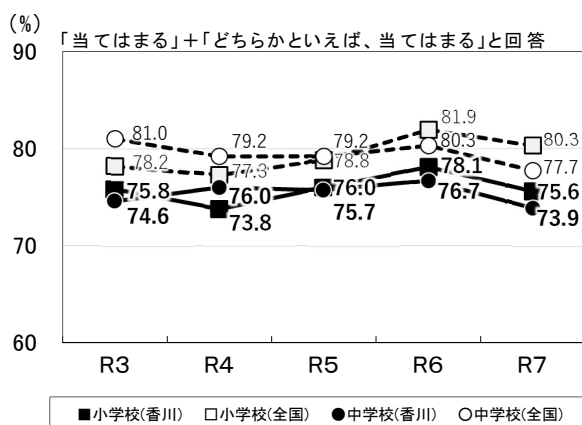
Answer

1. 主体的・対話的に学習に取り組む態度に関わる質問について

「□32 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに昨年度より減少した。また、「□39 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに、90%を超える割合で推移している。どちらの質問についても、その増減は、全国と連動した動きが見られる。

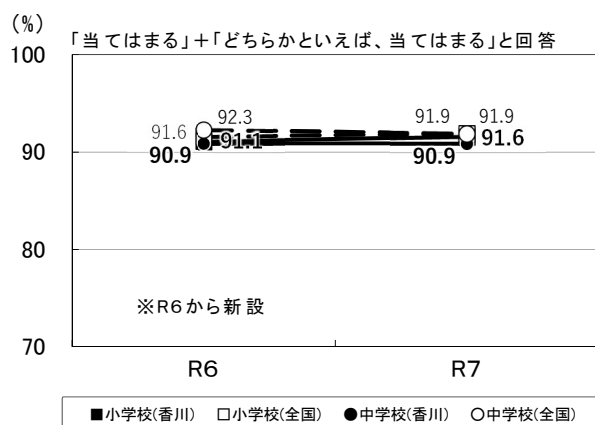
□32 5年生まで(1,2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

【児童生徒質問調査】



□39 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

【児童生徒質問調査】



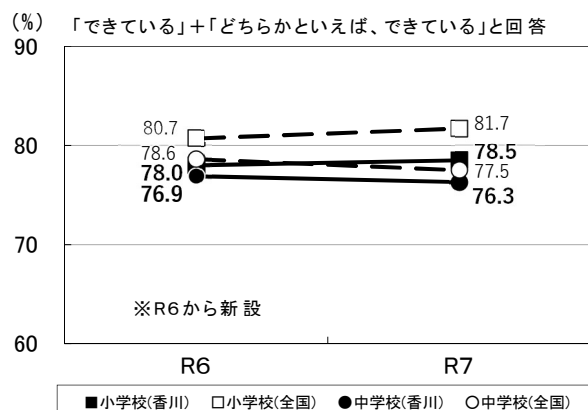
Answer

2. 主体的な学習の調整に関わる質問について

- 「□16 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに、昨年度とほぼ同等であった。
- 「□36 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度と比較して、小学校で3.3pt、中学校で5.5pt 減少した。

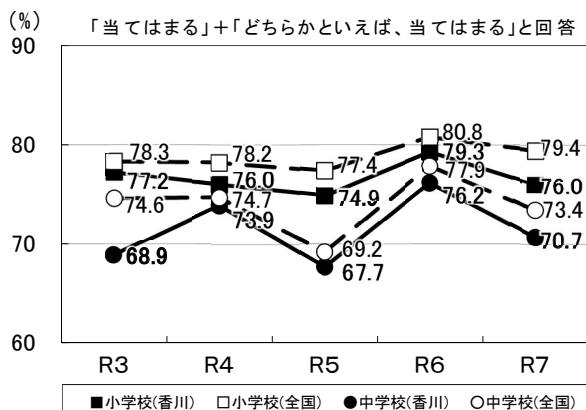
□16 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか

【児童生徒質問調査】



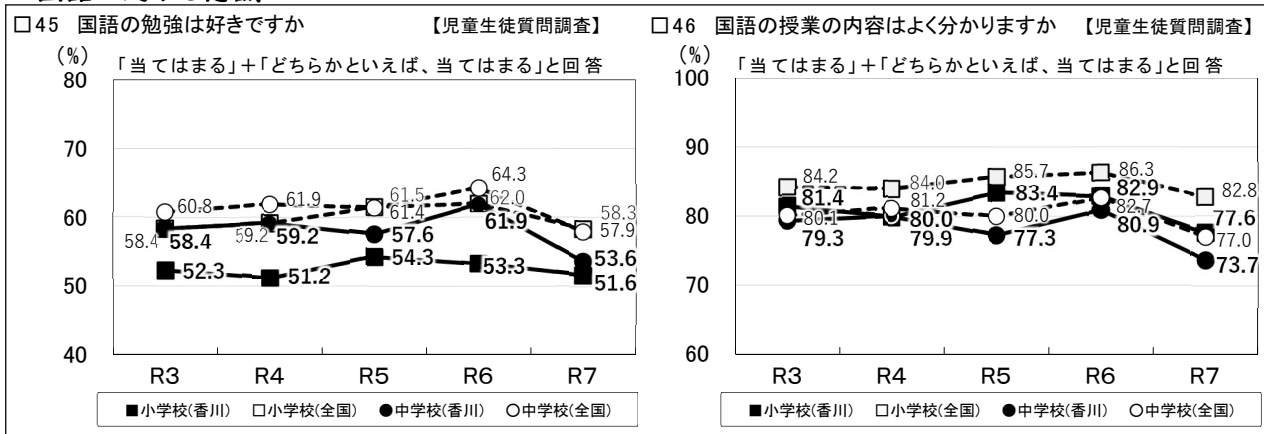
□36 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

【児童生徒質問調査】

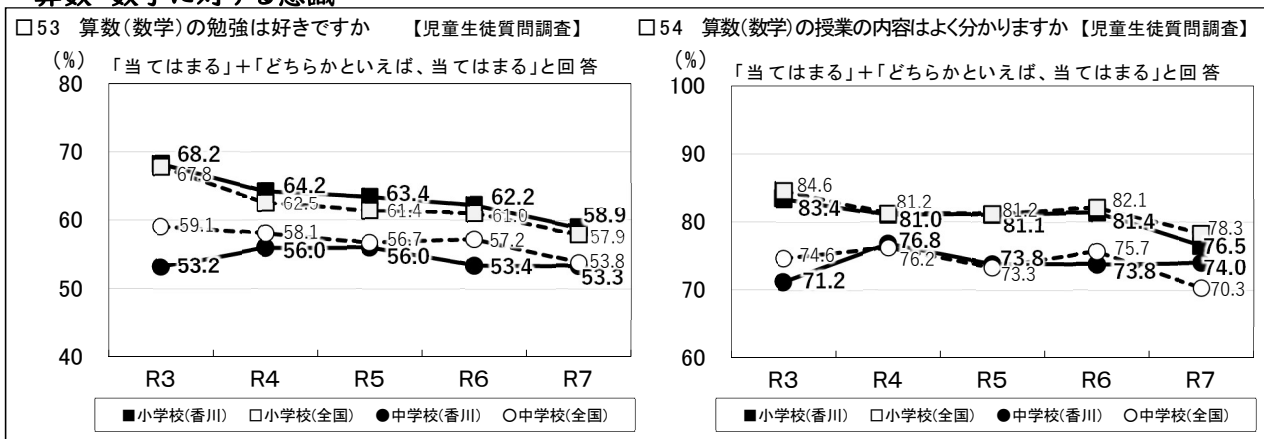


教科の学習について、「勉強が好き」「授業の内容がよく分かる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全体的に減少傾向が見られる。一方で、「⁵⁴算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか」の質問について、中学校で肯定的に回答した生徒の割合は、全国は減少している中、わずかではあるが増加した。

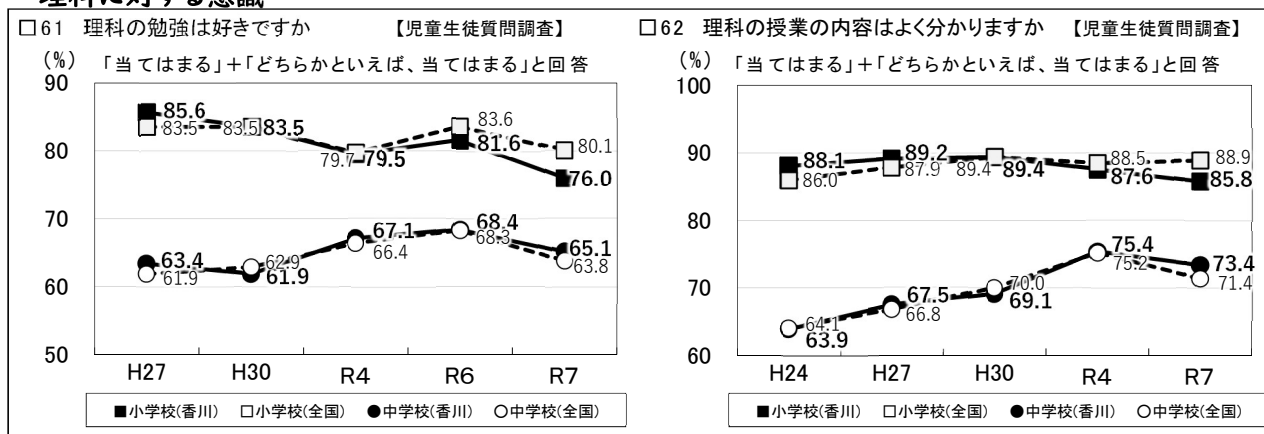
国語に対する意識



算数・数学に対する意識



理科に対する意識



Column

児童生徒の学習意欲を高めるためには、一人一人が主体的・対話的に学習に取り組み、自らの学びを振り返って次の学びへとつなげられる授業づくりが必要です。さらに、各教科の学習において「分かった」と実感できる経験が、「好き」や「得意」につながっていくでしょう。児童生徒の学び力を信じて任せるとともに、必要に応じて支え、成長を丁寧に見取り、価値付ける姿勢を大切にしていきたいものです。

Question 2 言語活動 に関わる 質問項目

「言語活動」に関わる質問項目について、どのような回答状況が見られたか。

Answer

1. 相手意識や目的意識を明確にした言語活動に関わる質問について

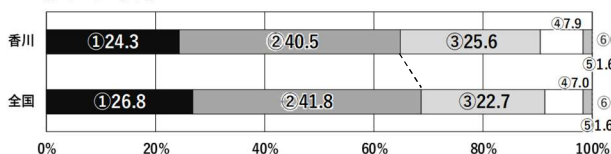
- 「□31 自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校で全国を下回った。また、学校質問紙における同様の質問に、肯定的に回答した学校の割合は、小学校で全国をわずかに上回り、中学校で下回った。
- 「□35 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国をわずかに下回った。また、「■31 児童（生徒）が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫していますか」の質問に、肯定的に回答した学校の割合は、小・中学校で全国を下回った。特に、「よく行った」と回答した学校の割合は、全国と顕著な差が見られている。

(1) 工夫して発表することへの意識

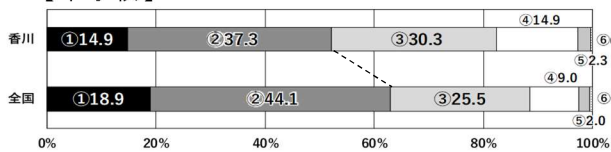
児童生徒の意識

□31 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
【児童生徒質問調査】

【小学校】



【中学校】

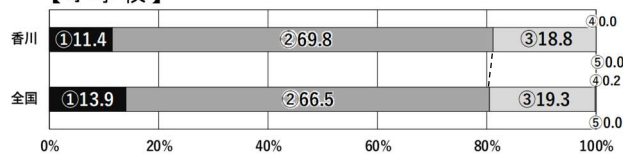


① 発表していた ② どちらかといえば、発表していた
③ どちらかといえば、発表していなかった ④ 発表していなかった
⑤ 考えを発表する機会はなかった ⑥ その他・無回答

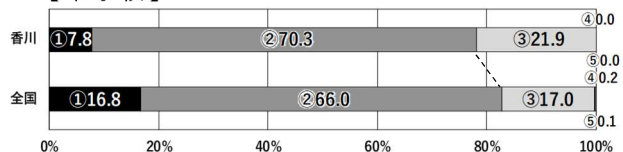
教師の意識

■26 調査対象学年の児童(生徒)は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか
【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】

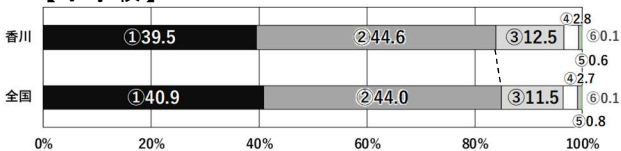


① そう思う ② どちらかといえば、そう思う
③ どちらかといえば、そう思わない ④ そう思わない
⑤ その他・無回答

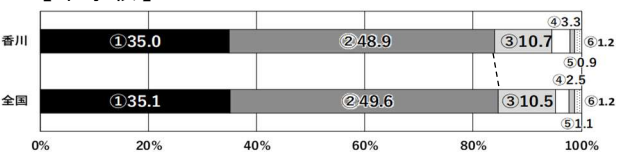
(2) 自分の考えの深化・拡張

□35 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
【児童生徒質問調査】

【小学校】



【中学校】

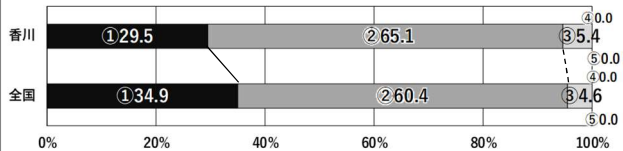


① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない ④ 当てはまらない
⑤ 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を行っていない
⑥ その他・無回答

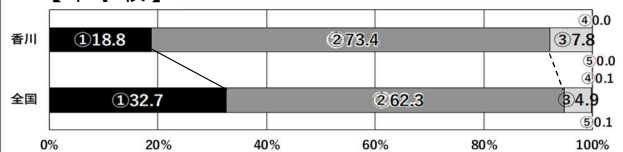
(3) 教師の学習課題や活動の工夫

■31 前年度までに、学習指導において、児童(生徒)が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか
【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】



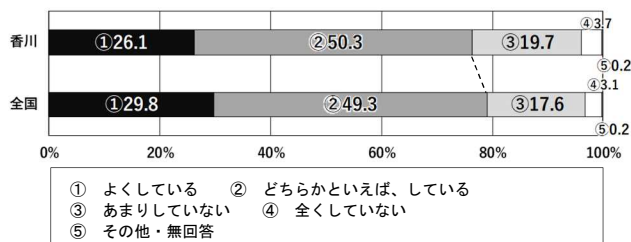
① よく行った ② どちらかといえば、行った
③ あまり行わなかった ④ 全く行わなかった
⑤ その他・無回答

Answer 2. 各教科の「読解力」に関わる質問について

各教科の読解力に関わる「□51/*国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか」、「□*/59 文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができていますか」のそれぞれの質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均を下回った。

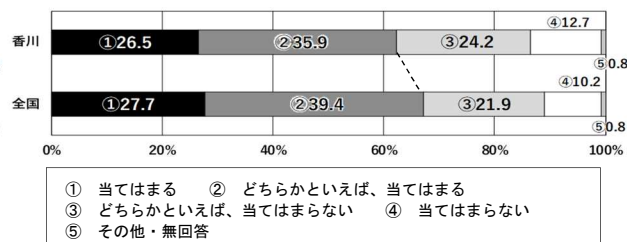
(小学校のみ)

□51/* 国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか 【児童生徒質問調査】



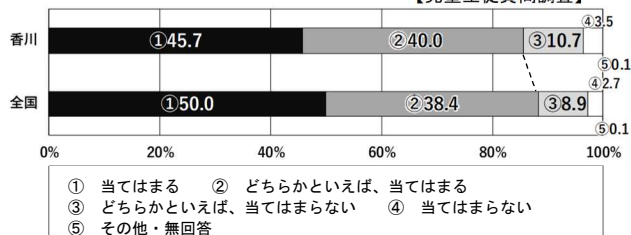
(中学校のみ)

□*/59 文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができていますか 【児童生徒質問調査】



(小学校のみ)

□69/* 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか 【児童生徒質問調査】



工夫して発表することについての児童生徒と教師の意識の差を埋めるには、どのような働きかけが必要なのだろうか？

読解力等、児童生徒が、各教科で確かな学力を身に付けることができるようにするためには、どのような言語活動を設定すればよいのだろうか？



Column

本年度の学校質問調査では、国語科、算数・数学科、理科の指導法について、新たに質問項目が追加されました。例えば、国語科では、次のような項目が追加されました。

国語科	
小・中共通	■42/42 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、国語の授業で、児童（生徒）に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることを行いましたか
小学校	調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、 ■43 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか ■44 目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる指導を行いましたか
中学校	調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、 ■43 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるような指導を行いましたか ■44 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるような指導を行いましたか

質問項目には、各教科でどのような点に留意して指導すればよいかが示されています。これらを参考に、各教科で育成したい資質・能力や児童生徒の実態に応じて、適切な言語活動を設定していくことが大切です。その際には、国語科に限らず、「相手の立場に立って考えること」「自分の考えの根拠を明確にすること」「既習の知識や他の考え方と関連付けて捉えること」といった視点を大切に、活動を構成していく必要があります。さらに、設定した活動における児童生徒の取組を丁寧に見取り、価値付けることで、読解力等の育成とともに、「できた」という手ごたえや自信を育むことにもつながるのではないのでしょうか。

Question 3 学習習慣 に関わる 質問項目

「学習習慣」に関わる質問項目について、どのような回答状況の変化が見られたか。

Answer

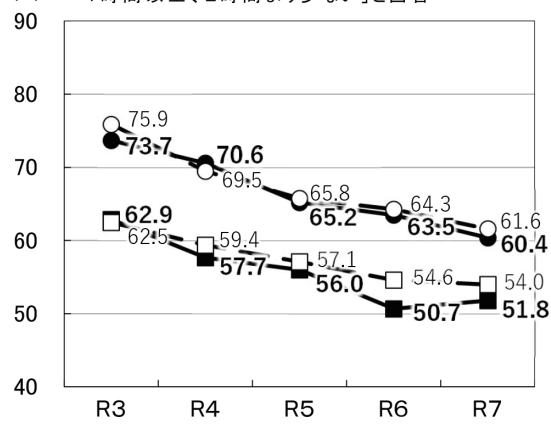
1. 平日1日当たりの勉強時間に関わる質問について

「¹⁷学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問について、「1時間以上」と回答した児童生徒の割合は、小学校で増加し、中学校で減少した。

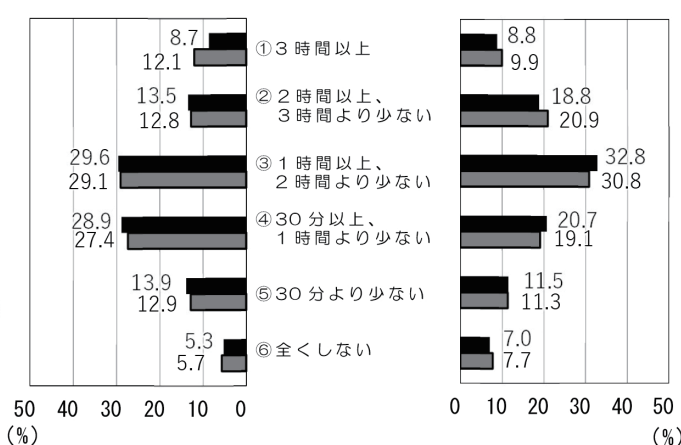
□17 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

【児童生徒質問調査】

「3時間以上」+「2時間以上、3時間より少ない」
（%）
+「1時間以上、2時間より少ない」と回答



家庭学習の時間の分布状況



Answer

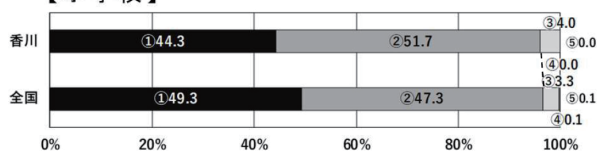
2. 家庭での学習方法等の指導に関わる質問について

- 「⁸⁰前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか」の質問について、肯定的に回答した学校の割合は、小学校は96.0%で、全国をわずかに下回り、中学校は87.5%で、全国を下回った。
- 「⁸¹家庭学習について、児童（生徒）が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか」の質問について、肯定的に回答した学校の割合は、小学校は91.3%で、全国をわずかに上回ったが、中学校は、70.3%で、全国を大きく下回った。

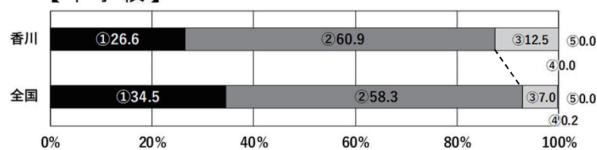
■80 前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか

【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】

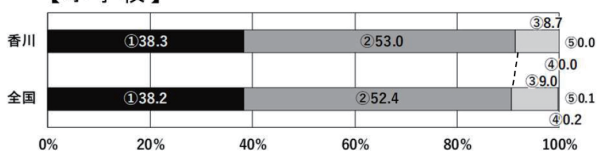


- ① よく行った ② どちらかといえば、行った
③ あまり行わなかった ④ 全く行わなかった
⑤ その他・無回答

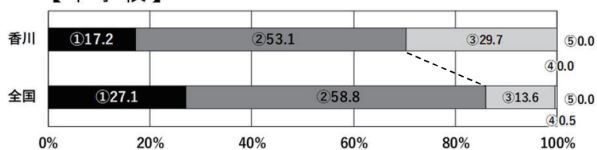
■81 前年度までに、家庭学習について、児童（生徒）が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか

【学校質問調査】

【小学校】



【中学校】

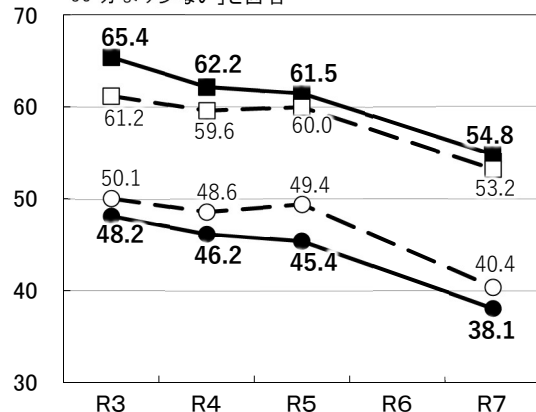


- ① よく行った ② どちらかといえば、行った
③ あまり行わなかった ④ 全く行わなかった
⑤ その他・無回答

- 「□21 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」の質問について、「10分以上」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに令和5年度より減少した。「全くしない」と回答した児童生徒は、小学校では28.7%で全国を下回ったが、中学校では45.8%で全国を4.0pt上回った。
- 「□24 読書は好きですか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに令和5年度より減少した。

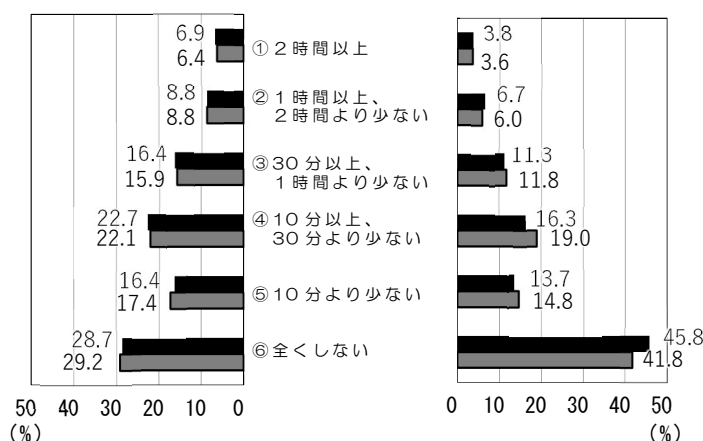
□21 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） 【児童生徒質問調査】

「2時間以上」+「1時間以上、2時間より少ない」
+「30分以上、1時間より少ない」+「10分以上、
30分より少ない」と回答



■小学校(香川) □小学校(全国) ●中学校(香川) ○中学校(全国)

読書の時間の分布状況



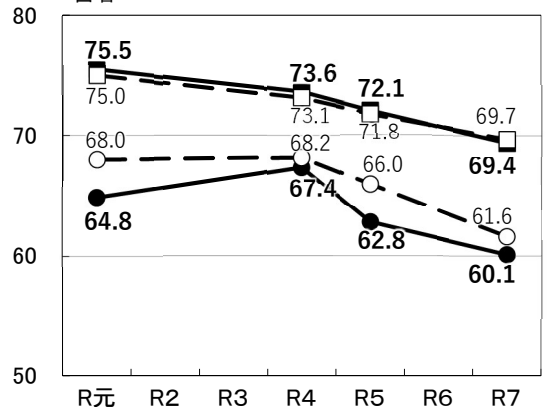
■小学校(香川) ■小学校(全国)

■中学校(香川) ■中学校(全国)

□24 読書は好きですか

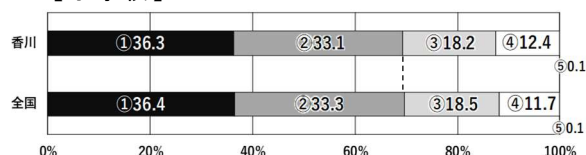
【児童生徒質問調査】

「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答

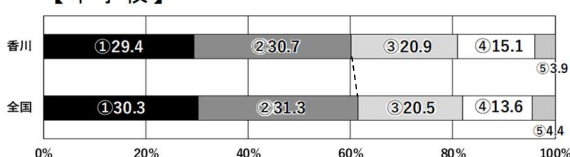


■小学校(香川) □小学校(全国) ●中学校(香川) ○中学校(全国)

【小学校】



【中学校】



① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない ④ 当てはまらない
⑤ その他・無回答

Column

近年、家庭学習の在り方については、「やらされるもの」から「自分で考え取り組むもの」へと転換が見られます。一方で、家庭学習時間が減少傾向にあることから、学力低下を懸念し、かつて行っていたような一律的な宿題や反復学習に戻すべきだという声もあります。しかし、むしろ、児童生徒の興味・関心に応じて主体的に学べる環境づくりこそが、今後は一層重要だと考えます。

例えば、香川県教育委員会では、児童生徒の「確かな学力」の土台となる「学びに向かう力」の育成を目指し、民間事業者と連携して、土曜日や長期休業中に、学校のカリキュラム外で知的好奇心を刺激する複数のテーマによる講座等を開催しています。このような機会を、学校や地域の取組と併せて活用することは、児童生徒の主体的な学びを支える有効な選択肢のひとつだと言えるでしょう。

Question 4 自己有用感等 に関わる質問項目

「自己有用感等」に関わる質問項目について、どのような回答状況の変化が見られたか。

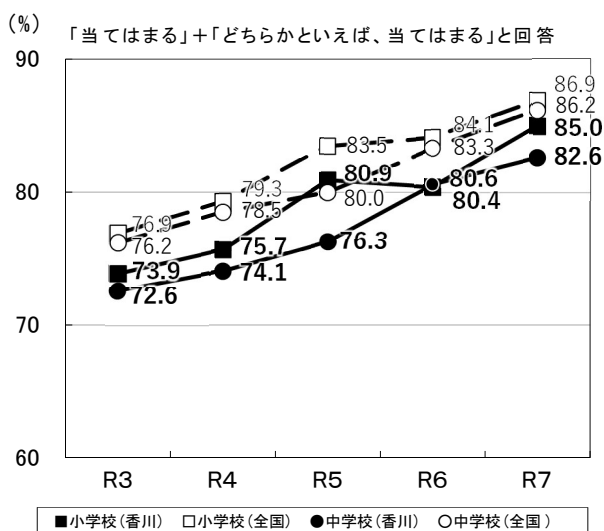
Answer 1. 自己有用感に関わる質問について

- 「☐5 自分には、よいところがあると思いますか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに増加傾向にある。また、「☐6 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに、90%を超え、令和4年度以降で最も高い割合となった。
- 「☐7 将来の夢や目標を持っていますか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校は、全国と比較して高く、増加傾向にある。中学校は、令和5年度より減少傾向にある。

(1) 自分のよさ

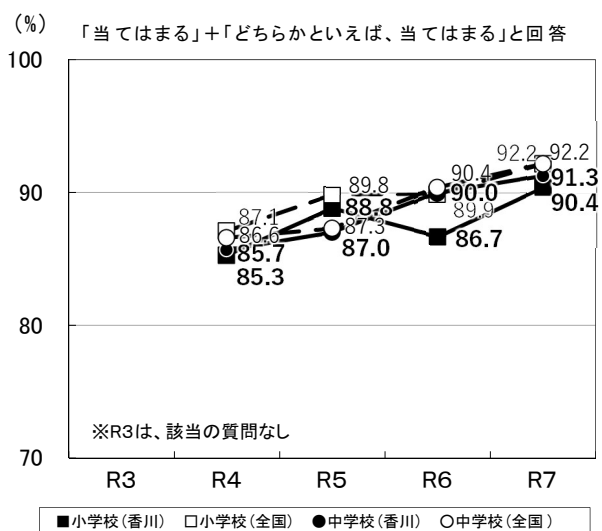
☐5 自分には、よいところがあると思いますか

【児童生徒質問調査】



☐6 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

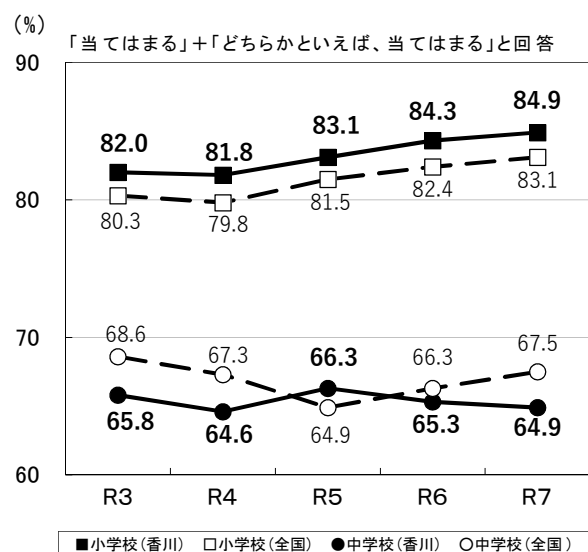
【児童生徒質問調査】



(2) 将来の夢や目標

☐7 将来の夢や目標を持っていますか

【児童生徒質問調査】



Column

先生方の日々の取組は、児童生徒の自己有用感の醸成につながっています。香川県教育委員会では、児童生徒の自己有用感をさらに高めるために、次の3つの視点を大切にしたい関わりを推進しています。

- 傾聴**…児童生徒一人一人にとって、安心・安全な居場所をつくるために、小さな変化を見逃さず、ありのままの声を聞く
- 受容**…児童生徒の思いや願いから活動をスタートさせ、児童生徒とともに考え悩みながら、導く
- 共感**…児童生徒の実際の取組に向き合い、その工夫や努力の過程を認めて、褒める



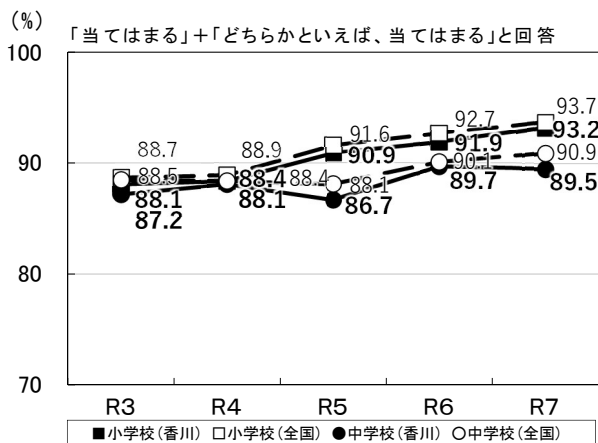
このような関わりを積み重ねていくことが、児童生徒との信頼関係を深め、ひいては自己有用感の向上につながります。

Answer 2. 社会への貢献意欲に関わる質問について

- 「☐8 人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校は 93.2%、中学校は 89.5%と、全国と同等の高い水準で推移している。
- 「☐11 人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに増加傾向にあり、令和 3 年度以降で最も高い割合となっている。

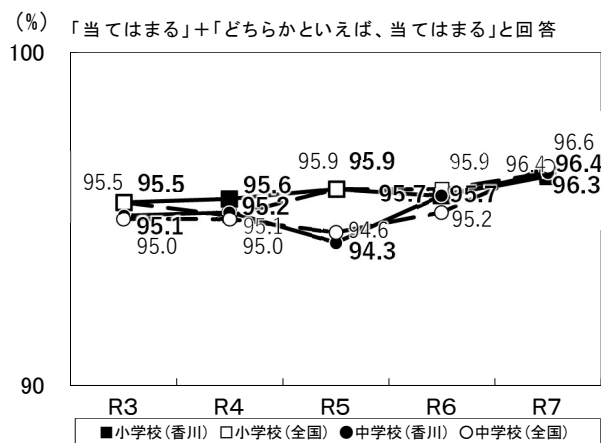
□8 人が困っているときは、進んで助けていますか

【児童生徒質問調査】



□11 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

【児童生徒質問調査】



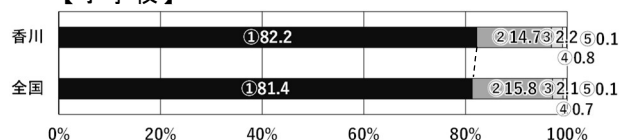
Answer 3. いじめに関わる質問について

「☐9 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問について、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校は 82.2%、中学校は 77.7%と、全国をわずかに上回る割合で推移している。

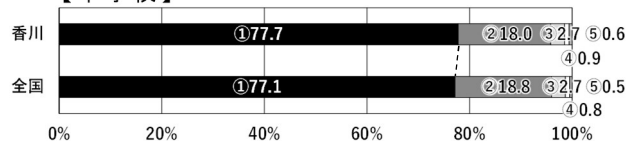
□9 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

【児童生徒質問調査】

【小学校】

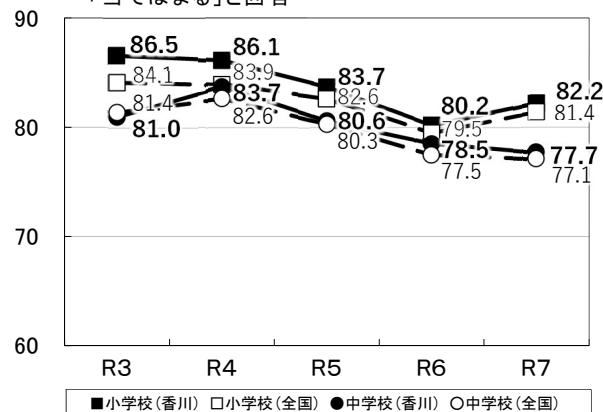


【中学校】



- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない
④ 当てはまらない ⑤ その他・無回答

「当てはまる」と回答



Column

令和 7 年度は、3 年に一度の「いじめゼロ子どもサミット」開催の年です。当日は、各校から参加した実行委員を中心に、「I LOVE ME」を合言葉に、自分自身を好きになることから始め、人と温かい気持ちで接することができる人を増やしたい。そして、香川県のいじめを少しでも減らしたい。」と、主体的に活動に取り組む様子が見られました。このような児童生徒主体の取組が、「相手の立場に立って考えよう」「どんな理由があってもいじめはいけない」という規範意識の醸成につながっているのかもしれない。実行委員となった児童生徒の手で、取組が各校へと広がっていくことに期待します。

Question 5 学校生活 に関わる 質問項目

「学校生活」に関わる質問項目について、どのような回答状況の変化が見られたか。

Answer

1. 学校に対する意識や相談体制に関わる質問について

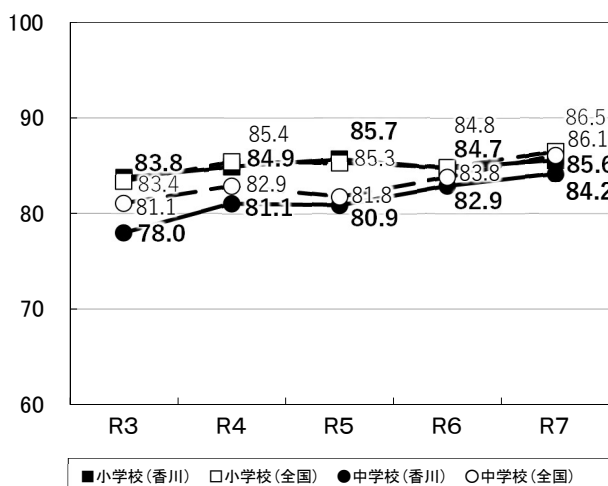
- 「□¹² 学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校では 0.9pt、中学校では 1.3pt 増加した。一方で、帯グラフを見ると、小・中学校で約 15% の児童生徒が、否定的な回答をしていると分かる。
- 「□¹⁰ 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校では 2.7pt、中学校では 5.5pt 増加した。一方で帯グラフを見ると、小学校で約 30% の児童が、中学校で約 25% の生徒が、否定的な回答をしていると分かる。

(1) 学校に対する意識

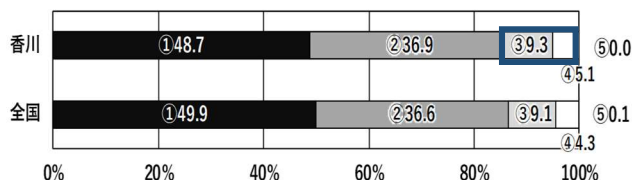
□¹² 学校に行くのは楽しいと思いますか

【児童生徒質問調査】

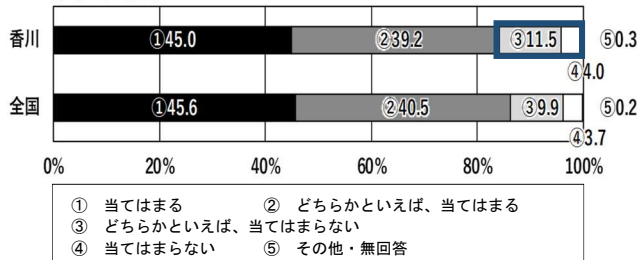
(%) 「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答



【小学校】



【中学校】

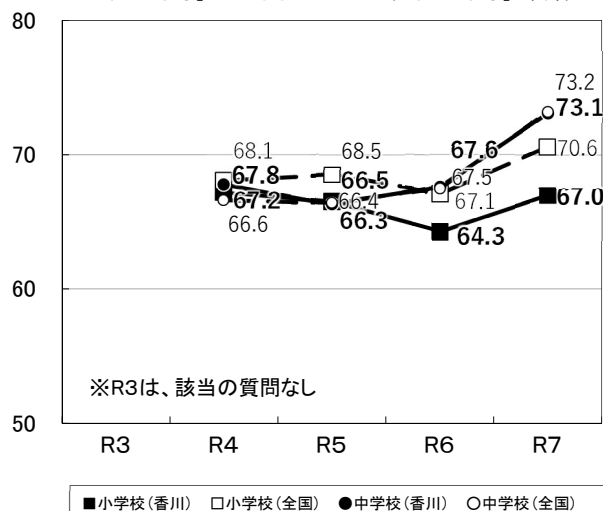


(2) 相談体制

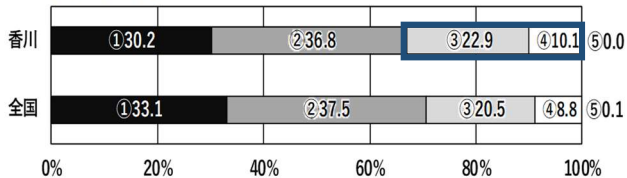
□¹⁰ 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

【児童生徒質問調査】

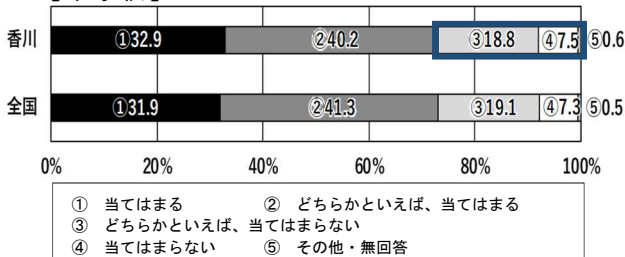
(%) 「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答



【小学校】



【中学校】



Answer

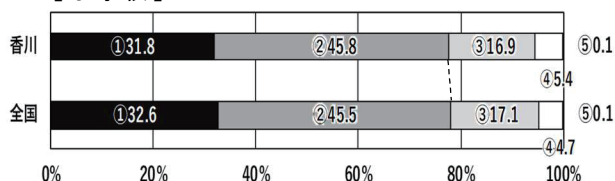
2. 学級での話合いや友達関係に関わる質問について

- ・ 「□13 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校は 77.6%、中学校は 78.2%であり、全国をわずかに下回った。
- ・ 「□14 友達関係に満足していますか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校は 91.6%、中学校は 91.6%であり、全国とほぼ同等の割合であった。
- ・ 「□41 あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校は 84.0%、中学校は 82.0%で、中学校で全国をやや下回った。
- ・ 「□42 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の質問について、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校は 79.4%、中学校は 74.5%であり、全国を下回った。

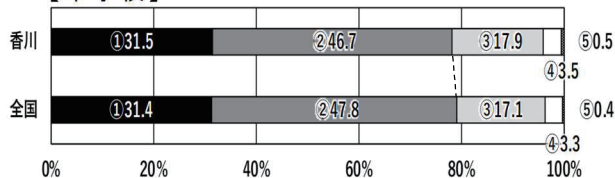
□13 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか

【児童生徒質問調査】

【小学校】



【中学校】

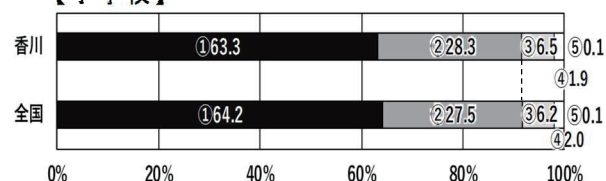


- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない
④ 当てはまらない ⑤ その他・無回答

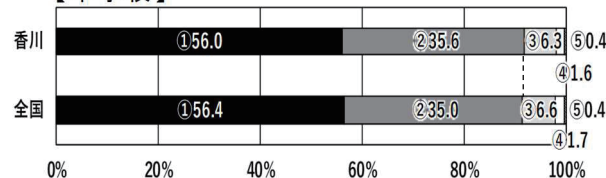
□14 友達関係に満足していますか

【児童生徒質問調査】

【小学校】



【中学校】

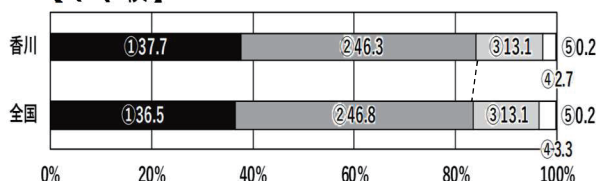


- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない
④ 当てはまらない ⑤ その他・無回答

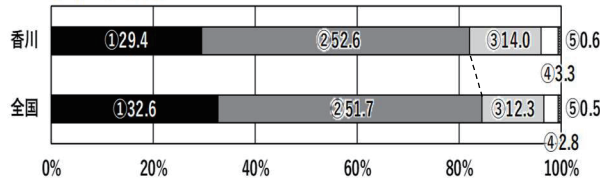
□41 あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

【児童生徒質問調査】

【小学校】



【中学校】

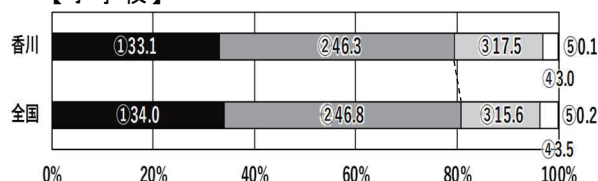


- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない
④ 当てはまらない ⑤ その他・無回答

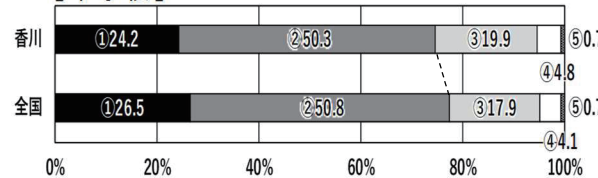
□42 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか

【児童生徒質問調査】

【小学校】



【中学校】



- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない
④ 当てはまらない ⑤ その他・無回答

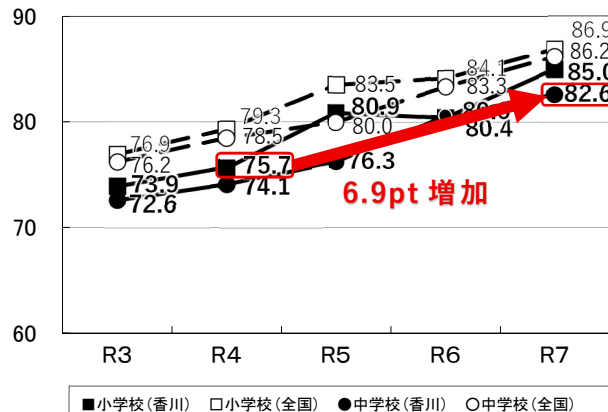
Column

生徒指導提要では、児童生徒による自治的な活動を学校生活の充実と向上につながる重要な教育活動として位置付けています。学級、学校の実態や、発達段階によって対象は変わりますが、自分たちの手でルールを改善したり、行事等を企画・運営したりすることは、「学校が楽しい」という思いを高めます。

あのときの6年生は今？

□5 自分には、よいところがあると思いますか 【児童生徒質問調査】

(%) 「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答



◆ 折れ線グラフの見方を変えると・・・

経年比較の折れ線グラフについて、R4年度の小学校6年生と、R7年度の中学校3年生に着目してみると、同一児童生徒で比較することができます。例えば、左のグラフであれば、「□5 自分には、よいところがあると思いますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、75.7%から82.6%に6.9pt増加していることが分かります。

このような視点で、児童生徒質問調査結果を分析したとき、次の質問事項で、3pt 以上割合が増加していました。

質問事項		R4	R7	差
5	自分には、よいところがあると思いますか 「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答	75.7	82.6	+6.9pt
6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか 「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答	85.3	91.3	+6.0pt
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか 「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答	67.2	73.1	+5.9pt
13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか 「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答	73.6	78.2	+4.6pt
19	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらい時間、勉強をしますか 「4時間以上」+「3時間以上、4時間より少ない」+「2時間以上、3時間より少ない」と回答	24.3	29.3	+5.0pt
25	これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか 「よくしていた」+「ときどきしていた」と回答	64.3	76.1	+11.8pt
35	学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか 「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答	78.8	83.9	+5.1pt
41	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか 「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答	75.1	82.0	+6.9pt
43	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか 「当てはまる」+「どちらかといえば、当てはまる」と回答	80.4	90.7	+10.3pt

この結果から、香川県の小・中学校では、児童生徒一人一人の自己有用感を育み、互いを認め高め合う学級風土を醸成するとともに、家庭と連携して個々の興味・関心を伸ばす指導に力が注がれていたことが伺えます。

その背景には、小・中学校が緊密に連携し、9年間を見通して子どもの情報を共有することで、その健やかな成長を支えようとする先生方の熱意があったことでしょう。

これは大きな成果であり、今後も子どもたち一人一人に寄り添うこの指導が大切にされることを期待しています。

IV 教科に関する調査結果及び分析

1 小学校国語

概 要

国語について、平均正答率は、おおむね全国と同等である。

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」で上回っている。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で下回っている。

■令和7年度の香川県と全国の調査結果

小学校国語	児童数	学校数	平均正答数 / 設問数	平均正答率 (%)
香川 (公立)	7,441	149	9.4 / 14	67
全国 (公立)	936,137	18,265	9.4 / 14	67 (66.8)

■令和3～7年度の香川県と全国の調査結果

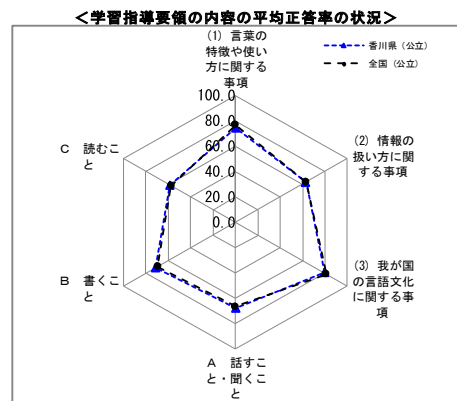
小学校国語					
調査年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
香川 (公立) 平均正答率 (%)	63	67	67	67	67
全国 (公立) 平均正答率 (%)	65 (64.7)	66 (65.6)	67 (67.2)	68 (67.7)	67 (66.8)
香川と全国との差 (pt)	▲2	1	0	▲1	0

■令和３～７年度の内容別調査結果

小学校国語							
学習指導要領の内容		思考力、判断力、表現力等			知識及び技能		
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や使い 方に関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文 化に関する事項
令和七年度	香川（公立） 平均正答率（％）	67.3	71.0	58.5	74.2	63.0	79.3
	全国（公立） 平均正答率（％）	66.3	69.5	57.5	76.9	63.1	81.2
	香川と全国との差 （pt）	1.0	1.5	1.0	▲2.7	▲0.1	▲1.9
令和六年度	香川（公立） 平均正答率（％）	59.6	68.6	72.5	60.7	86.7	77.2
	全国（公立） 平均正答率（％）	59.8	68.4	70.7	64.4	86.9	74.6
	香川と全国との差 （pt）	▲0.2	0.2	1.8	▲3.7	▲0.2	2.6
令和五年度	香川（公立） 平均正答率（％）	74.0	29.9	71.4	69.3	65.9	
	全国（公立） 平均正答率（％）	72.6	26.7	71.2	71.2	63.4	
	香川と全国との差 （pt）	1.4	3.2	0.2	▲1.9	2.5	
令和四年度	香川（公立） 平均正答率（％）	69.6	48.7	66.1	69.8		82.3
	全国（公立） 平均正答率（％）	66.2	48.5	66.6	69.0		77.9
	香川と全国との差 （pt）	3.4	0.2	▲0.5	0.8		4.4
令和三年度	香川（公立） 平均正答率（％）	77.0	56.9	44.5	67.9		
	全国（公立） 平均正答率（％）	77.8	60.7	47.2	68.3		
	香川と全国との差 （pt）	▲0.8	▲3.8	▲2.7	▲0.4		

■ 問題別調査結果【国語】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				香川県(公立)	全国(公立)
全体			14	67	66.8
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	74.2	76.9
		(2) 情報の扱いに関する事項	1	63.0	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	79.3	81.2
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	67.3	66.3
		B 書くこと	3	71.0	69.5
		C 読むこと	4	58.5	57.5
評価の観点	知識・技能	4	72.7	74.5	
	思考・判断・表現	10	64.9	63.8	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	9	64.7	64.7	
	短答式	3	76.5	78.5	
	記述式	2	63.9	58.8	



問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			知識及び技能			思考力、判断力、 表現力等			知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習 に取り組む 態度	選択 式	短答 式	記述 式	香 川 県 (公立)	全 国 (公立)	香 川 県 (公立)	全 国 (公立)
			(1) 言葉 の特徴 や使い 方に 関する 事項	(2) 情報 の扱い に 関する 事項	(3) 我が 国の 言語 文化 に 関する 事項	A 話す こと・ 聞く こと	B 書く こと	C 読む こと										
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5・6 ア				○		○			57.3	53.3	0.4	0.5
1二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		5・6 イ						○		○			63.0	63.1	0.4	0.5
1三 (1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部Aのように発言した目的として適切なものを選択する	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる				5・6 エ				○		○			74.2	71.8	0.5	0.6
1三 (2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				5・6 エ				○		○			70.4	73.7	0.5	0.6
2一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる					3・4 イ			○		○			64.3	65.5	0.8	0.8
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6 エ			○		○			81.3	81.8	0.8	0.8
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6 ウ			○			○		67.3	61.3	3.1	5.0
2四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す(二のみ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ							○		○			81.0	81.6	4.8	7.2
2四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す(あついで)		5・6 エ							○		○			67.5	72.1	3.5	4.3
3一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる			5・6 ウ					○		○			79.3	81.2	1.0	1.3
3二 (1)	【木村さんのメモ】の空欄Aに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる						1・2 ア		○		○			81.1	81.6	1.9	2.9
3二 (2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる					5・6 ア			○		○			51.2	51.3	1.6	2.4
3三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる					5・6 ウ			○		○			41.2	40.8	2.2	3.4
3三 (2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる					5・6 ウ			○			○		60.6	56.3	10.1	16.2

■正答率が全国より3pt 以上高い問題

【小学校国語】（全14問中3問）

問題 番号	問題の概要	内容	評価 観点	問題 形式	香川 正答率 (%)	香川 無解答率 (%)	全国の 正答率 との差 (pt)
1 一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	話聞	思判表	選択	57.3	0.4	4.0
2 三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	書く	思判表	記述	67.3	3.1	6.0
3 三 (2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】【資料3】【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	読む	思判表	記述	60.6	10.1	4.3

■正答率が全国より3pt 以上低い問題

【小学校国語】（全14問中2問）

問題 番号	問題の概要	内容	評価 観点	問題 形式	香川 正答率 (%)	香川 無解答率 (%)	全国の 正答率 との差 (pt)
1 三 (2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話聞	思判表	選択	70.4	0.5	▲3.3
2 四 イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す（あつい日）	言葉	知技	短答	67.5	3.5	▲4.6

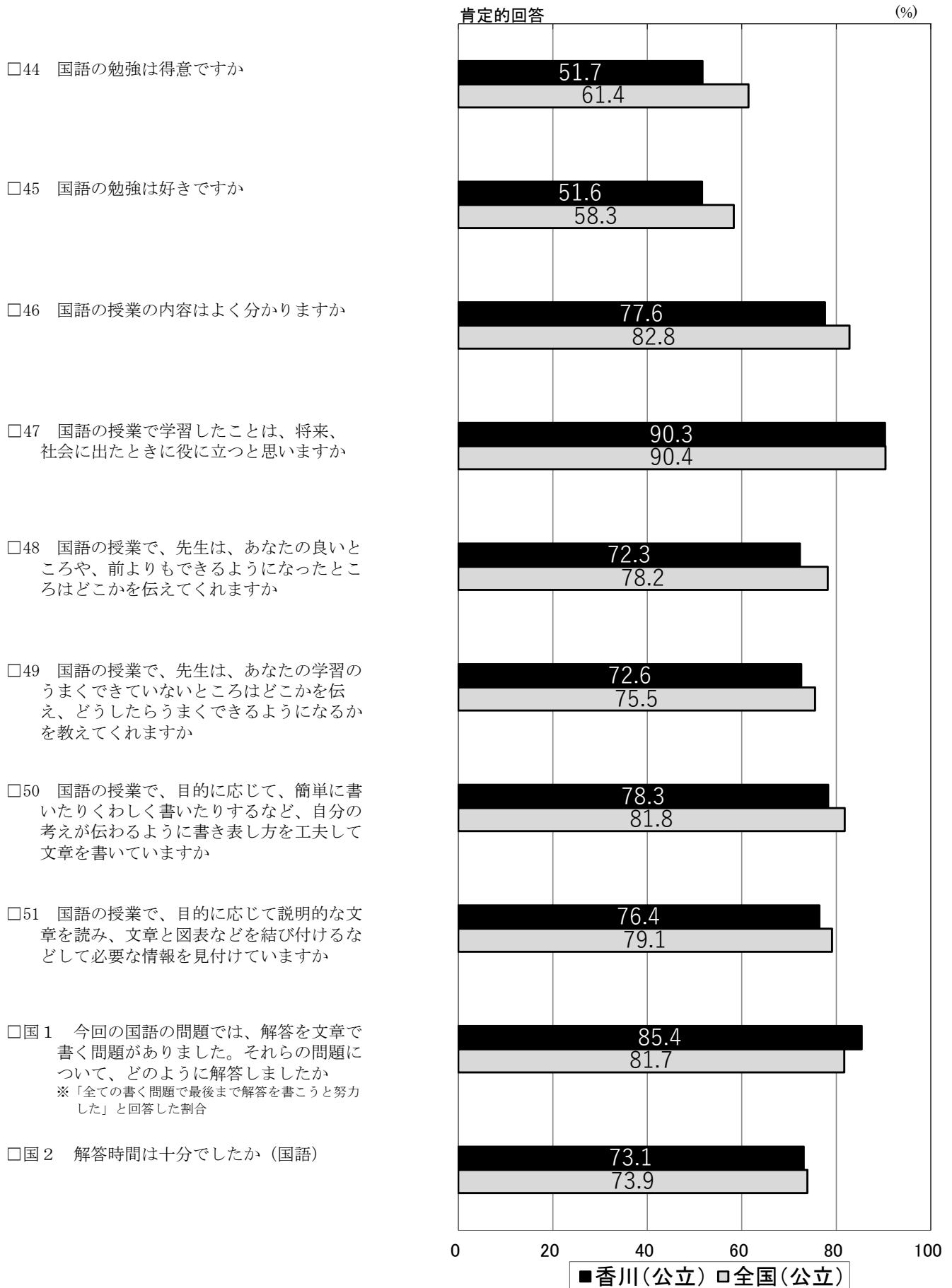
■正答率が低い問題（50%未満）

【小学校国語】（全14問中1問）

問題 番号	問題の概要	内容	評価 観点	問題 形式	香川 正答率 (%)	香川 無解答率 (%)	全国の 正答率 との差 (pt)
3 三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	読む	思判表	選択	41.2	2.2	0.4

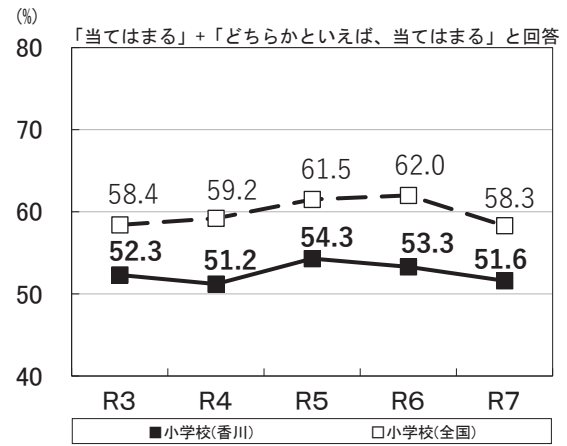
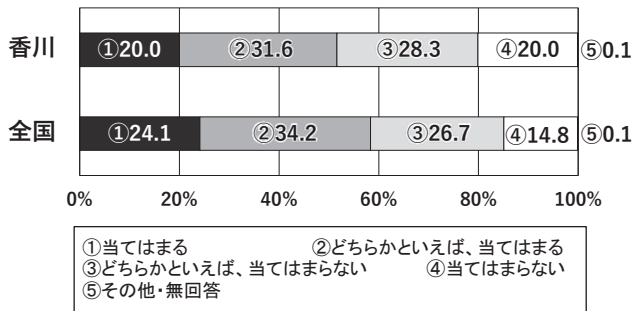
【内容】	【評価観点】	【問題形式】
話すこと・聞くこと : 話聞 書くこと : 書く 読むこと : 読む 言葉の特徴や使い方に関する事項 : 言葉 情報の扱い方に関する事項 : 情報 我が国の言語文化に関する事項 : 言文	知識・技能 : 知技 思考・判断・表現 : 思判表 主体的に取り組む態度 : 主体	選択式 : 選択 短答式 : 短答 記述式 : 記述

■小学校国語に関わる質問の全国との比較

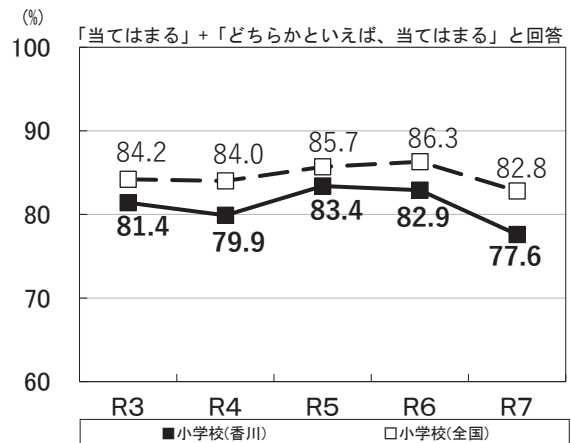
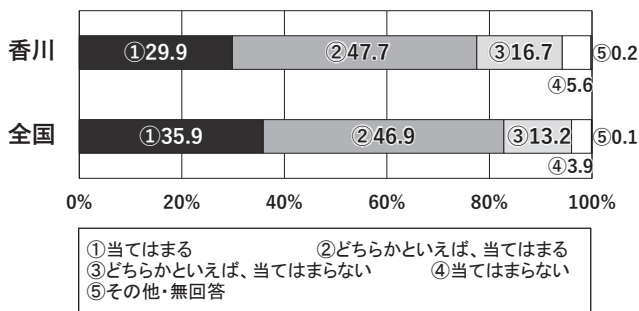


※肯定的回答とは、回答選択肢 1 + 2 を指す。（回答選択肢一覧…P104）

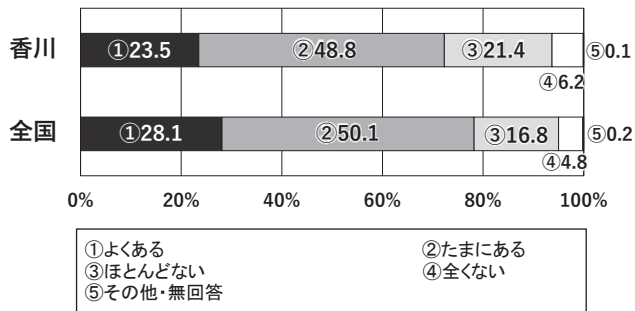
□45 国語の勉強は好きですか



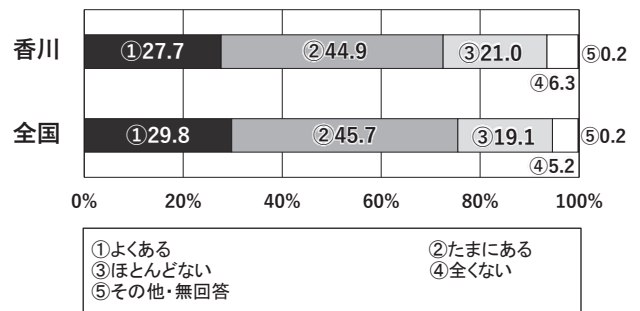
□46 国語の授業の内容はよく分かりますか



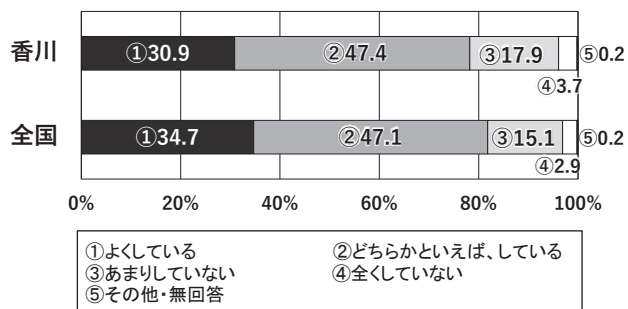
□48 国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか



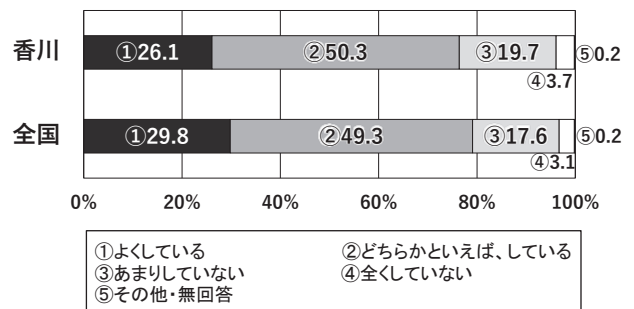
□49 国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてください



□50 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか



□51 国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか



小学校国語

調査結果から授業改善へ

目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 国語 1 一

- 一 【話し合いの様子】の小森さんは、インタビューをどのように進めようと考えて、部の発言をしましたか。最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 1 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。
 - 2 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、相手が答えやすい内容を選べるようにしている。
 - 3 複数の質問を関連づけて聞くことで、相手が答えやすい内容を選べるようにしている。
 - 4 複数の質問を関連づけて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。

【話し合いの様子】

小森さん 質問することを整理するために、話し合ったことを記録するね。私は、運転士さんがどんなことを大切にしているかを知りたいな。きつと、乗客の安全を大切にしていると思うな。

清川さん ぼくがよく乗るバスはいつも時間どおりに来るよ。時間を守ることも大切にしていると思うな。

町田さん 安全を考えながら時間を守ることは、大変そうだな。

小森さん 確かに、大変そうだね。『仕事で大切にしていること』で話してくれたことをきいて、『仕事で大切なこと』を聞くことができるかもしれないよ。

清川さん バスの運転士は、楽しそうだなと思っていただけ、大変なこともあるそうだね。大変なことがあっても仕事を続けている理由も聞きたいな。

町田さん きつと仕事にやりがいがあるからだよ。

清川さん ぼくもそう思うな。大切にしていることとやりがいについては、働くことについて考えるためにもぜひ聞きたいね。

小森さん うん、そうしよう。ここまでの話し合いの記録をこんなふうにまとめたよ。この進め方でいいかな。

① 小森さんの学級では、働くことについて考えるために、自分たちの興味のある仕事をしている人にインタビューをすることにしました。バスの運転士に興味のある小森さんたちは、インタビューで質問することを話し合っています。

問題番号	解答類型	香川 反応率(%)	全国 反応率(%)	正答
1 一	1 1 と解答しているもの	8.6	9.0	
	2 2 と解答しているもの	9.1	10.8	
	3 3 と解答しているもの	24.4	26.2	
	4 4 と解答しているもの	57.3	53.3	◎
	99 上記以外の解答	0.2	0.1	
	0 無解答	0.4	0.5	
正答率		57.3	53.3	

分析・考察

- 本問題は、自分の目的や意図に応じて、相手から聞きたいことを引き出すために、質問したいことを分類したり関係付けたりして、インタビューの進め方を考えることができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は57.3%で、全国と同様に6割を下回っている。
- 約25%の児童が、誤答として解答類型3を選んでいて、小森さんが、複数の質問の違いを関連付けていると捉えることはできているが、働くことについて考えるために、聞きたいことを相手から引き出そうとしていると捉えることができていると考えられる。

授業改善のポイント

【目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討する力を育む】

「自分の目的や意図に応じて、相手から聞きたいことを引き出す」というインタビューの目的を意識させながら、授業の中や普段の活動等で実際にインタビューする活動を仕組むことが大切である。その際には、複数の「聞きたいこと（知りたいこと）」をただ羅列して聞くのではなく、分類したり関係付けたりして、どのようにインタビューを進めたらよいかを考えることが重要である。児童にとってインタビューすること自体がその目的とならないよう、教師が示すグッドモデルや、模範となる児童たちのインタビュー内容を取り上げ、そのようにインタビューしようとした意図を捉えさせながら学習を進めたい。そうすることで、聞く目的を意識しつつ、内容を検討する力が高められると考える。また、「どのような意図で、そのように話そうとしているのか」と考えることは、全国の正答率を3.3pt 下回る結果となった①三(2)話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる手立てにもなる。

調査結果から授業改善へ

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 国語 3 三 (1)

[illegible]

分析・考察

- 本問題は、読む目的を明確にし、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりすることができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は41.2%で、全国と同様、課題がある。
- 正答の次に反応率が高い、解答類型2の児童は、直前の田中さんと木村さんの会話の中から、世代によって「雨模様」の意味の捉え方に違いがあることを捉えてはいるが、そのまま【資料1】の「『本来の意味』『本来とは違う使い方』といった言い方にとどめています。」と結び付けて捉えていると考えられる。この中には、田中さんが【資料4】を読み取り、「人によって言葉の意味の捉え方が違うと、伝え合うときに困ると思う。」ということが、「コミュニケーションが食い違う」ということと結び付いていることを捉えられていない児童もいたと考えられる。

授業改善のポイント

【目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける力を育む】

目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つける力を育むには、まずは、図表などが何を表しているのかを捉えることが大切である。その上で、その図表などが表していることと、同じこと（関連していること）を表している文章はどこかを捉えていくとよい。こうした力は、本出題場面のように協働的な学びの中で図表や文章を示しながら、文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすることや、そう考えた理由を説明したり尋ね合ったりすることで育成される。「なぜそう考えたのか」「どこからそう感じたのか」等、その理由を問ひかけ、文章や図表などの複数の情報を行き来する時間を保証する授業を目指したい。

2 小学校算数

概 要

算数について、平均正答率は、おおむね全国と同等である。

- 「図形」「測定」「データの活用」で上回っている。
- 「数と計算」「変化と関係」で下回っている。

■令和7年度調査結果の集計値

小学校算数	児童数	学校数	平均正答数 / 設問数	平均正答率 (%)
香川 (公立)	7,443	149	9.5 / 16	59
全国 (公立)	936,399	18,265	9.3 / 16	58 (58.0)

■令和3年度～令和7年度の香川県と全国の調査結果

小学校算数					
調査年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
香川 (公立) 平均正答率 (%)	71	65	63	64	59
全国 (公立) 平均正答率 (%)	70 (70.2)	63 (63.2)	63 (62.5)	63 (63.4)	58 (58.0)
香川と全国との差 (pt)	1	2	0	1	1

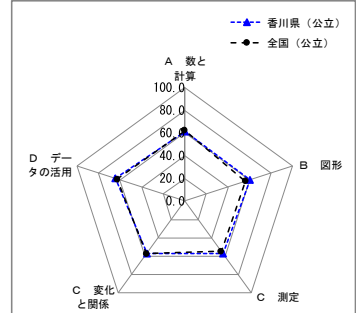
■令和３～７年度の領域別調査結果

小学校算数						
学習指導要領の領域		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
令和七年度	香川（公立） 平均正答率（％）	61.5	60.1	57.0	56.7	64.6
	全国（公立） 平均正答率（％）	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6
	香川と全国との差 （pt）	▲0.8	3.9	2.2	▲0.8	2.0
令和六年度	香川（公立） 平均正答率（％）	68.7	66.2		51.2	62.8
	全国（公立） 平均正答率（％）	66.0	66.3		51.7	61.8
	香川と全国との差 （pt）	2.7	▲0.1		▲0.5	1.0
令和五年度	香川（公立） 平均正答率（％）	68.3	46.1		70.6	66.8
	全国（公立） 平均正答率（％）	67.3	48.2		70.9	65.5
	香川と全国との差 （pt）	1.0	▲2.1		▲0.3	1.3
令和四年度	香川（公立） 平均正答率（％）	71.3	69.4		51.3	70.7
	全国（公立） 平均正答率（％）	69.8	64.0		51.3	68.7
	香川と全国との差 （pt）	1.5	5.4		0.0	2.0
令和三年度	香川（公立） 平均正答率（％）	65.8	58.0	76.5	76.9	75.6
	全国（公立） 平均正答率（％）	63.1	57.9	74.8	75.9	76.0
	香川と全国との差 （pt）	2.7	0.1	1.7	1.0	▲0.4

■問題別調査結果【算数】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			香川県(公立)	全国(公立)
全体		16	59	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	61.5	62.3
	B 図形	4	60.1	56.2
	C 測定	2	57.0	54.8
	C 変化と関係	3	56.7	57.5
	D データの活用	5	64.6	62.6
評価の観点	知識・技能	9	66.1	65.5
	思考・判断・表現	7	50.2	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	6	67.7	67.2
	短答式	6	63.7	64.0
	記述式	4	39.4	34.9

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



(注)「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	香川県(公立)	全国(公立)	香川県(公立)	全国(公立)
1(1)	2022年の全国のブロックリーの出荷量が2022年の全国のブロックリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)				3(1) ア(イ)	○			○			78.9	78.7	0.4	0.4
1(2)	都道府県Aのブロックリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) ア(イ) エ(イ) イ(ア)	○				○		39.6	31.0	0.4	0.9
1(3)	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる					3(1) ア(ア)	○			○			72.5	71.6	2.5	3.5
1(4)	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロックリー4個の重さを求める式と答えを書く	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる	4(6) ア(ア) イ(ア)						○			○		74.9	74.5	1.8	2.6
2(1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる		4(1) ア(イ)				○				○		62.2	58.3	0.6	1.2
2(2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) ア(イ)				○			○			59.3	50.2	0.6	0.7
2(3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる		4(8) ア(ア)				○			○			76.3	79.3	1.0	1.0
2(4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる							○			○		42.7	37.0	1.6	2.7
3(1)	0.4+0.05について、整数の加法で考えときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	4(4) ア(イ) ア(ア)					○				○		70.6	74.1	1.8	2.8
3(2)	3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5(6) ア(ア) イ(ア)					○				○		24.4	23.0	10.0	15.7
3(3)	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	3(6) ア(ア) ア(イ)					○				○		30.6	35.0	5.4	7.8
3(4)	1/2+1/3を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	5(6) ア(ア)					○				○		80.9	81.3	3.0	4.1
4(1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)			4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)	○			○			81.1	82.8	1.9	2.6
4(2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3(4) ア(ア)		3(1) ア(ア)	4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)	○				○		50.8	48.7	2.3	3.4
4(3)	はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる			3(1) ア(イ)			○				○		63.2	60.9	3.2	4.2
4(4)	10%増量したためかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる				5(3) イ(ア)		○				○		38.1	40.9	3.4	4.1

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をもつために用いる知識及び技能を示している。

■正答率が全国より 3 pt 以上高い問題

【小学校算数】（全 16 問中 4 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(2)	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	デ活	思判表	記述	39.6	0.4	8.6
2(1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	図形	知技	短答	62.2	0.6	3.9
2(2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	図形	知技	選択	59.3	0.6	9.1
2(4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	図形	思判表	記述	42.7	1.6	5.7

■正答率が全国より 3 pt 以上低い問題

【小学校算数】（全 16 問中 3 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
2(3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	図形	知技	選択	76.3	1.0	▲3.0
3(1)	0.4 + 0.05 について、整数の加法で考えるとときの共通する単位を書く	計算	知技	短答	70.6	1.8	▲3.5
3(3)	数直線上に示された数を分数で書く	計算	知技	短答	30.6	5.4	▲4.4

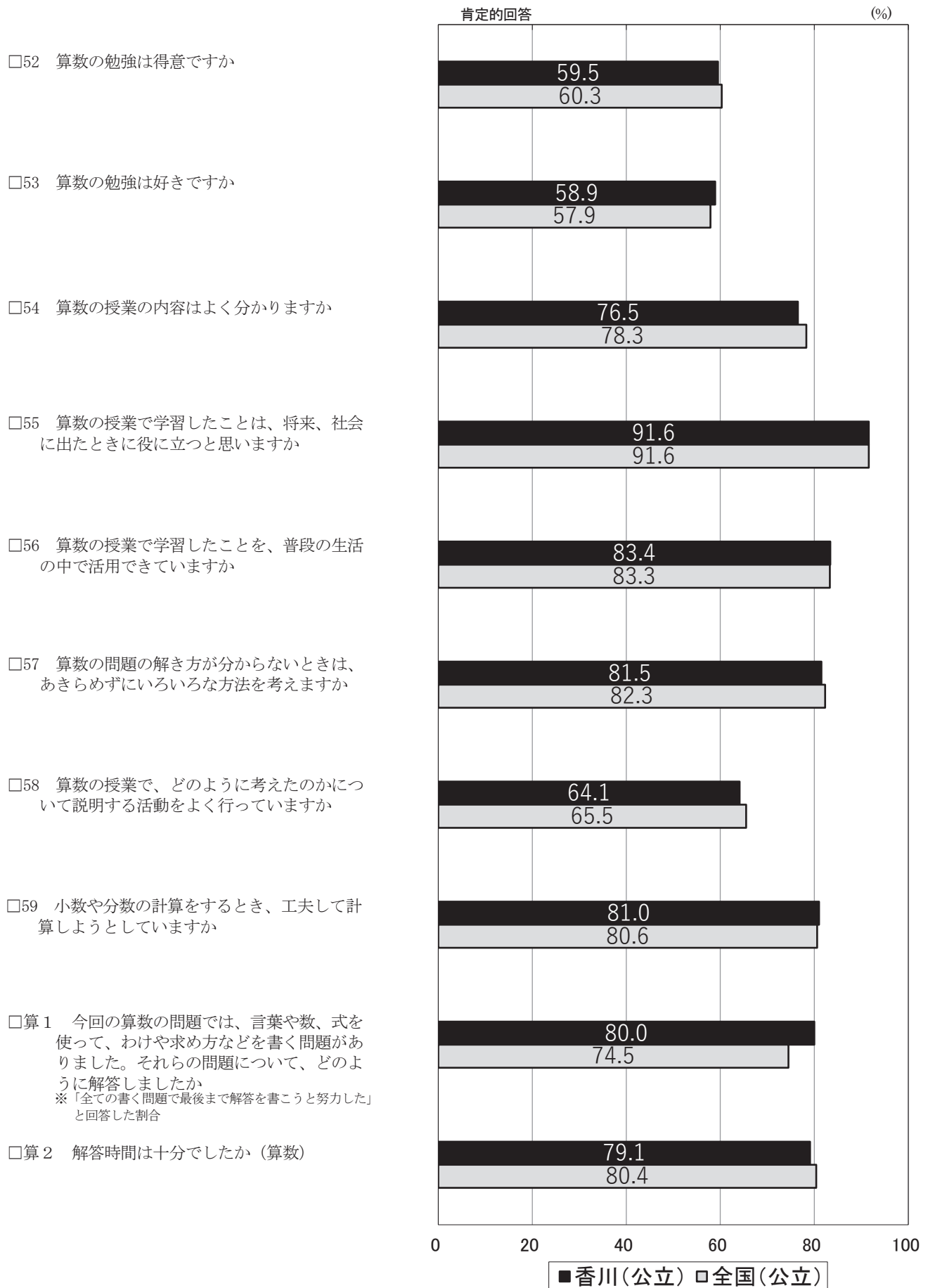
■正答率が低い問題（50%未満）

【小学校算数】（全 16 問中 5 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(2)	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	デ活	思判表	記述	39.6	0.4	8.6
2(4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	図形	思判表	記述	42.7	1.6	5.7
3(2)	$3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	計算	思判表	記述	24.4	10.0	1.4
3(3)	数直線上に示された数を分数で書く	計算	知技	短答	30.6	5.4	▲4.4
4(4)	10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	変関	思判表	選択	38.1	3.4	▲2.8

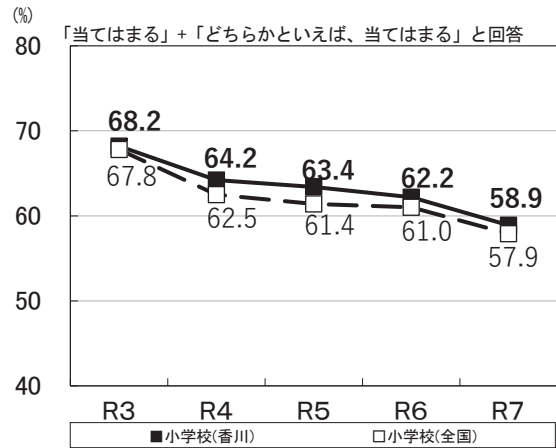
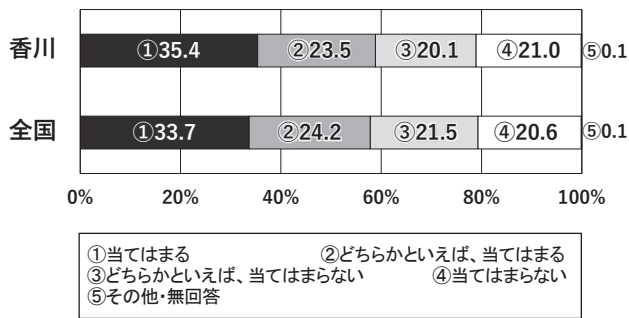
【領域】	【評価観点】	【問題形式】
数と計算 : 計算 図形 : 図形 測定 : 測定 変化と関係 : 変関 データの活用 : デ活	知識・技能 : 知技 思考・判断・表現 : 思判表 主体的に取り組む態度 : 主体	選択式: 選択 短答式: 短答 記述式: 記述

■小学校算数に関わる質問の全国との比較

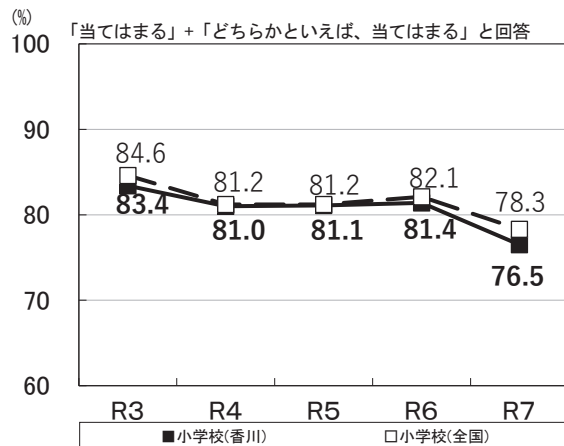
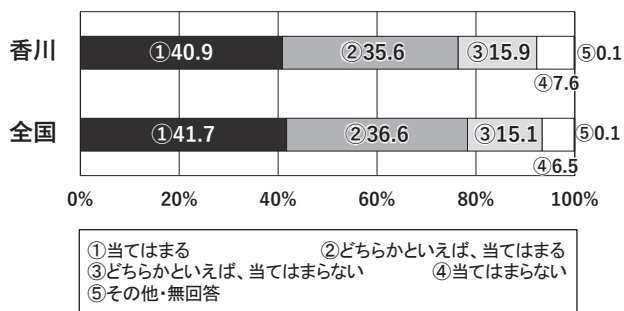


※肯定的な回答とは、回答選択肢1+2を指す。(回答選択肢一覧…P104)

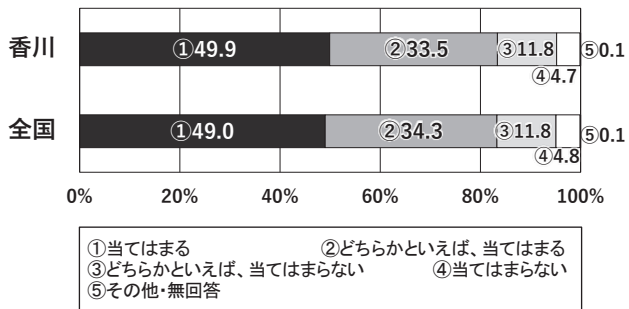
□53 算数の勉強は好きですか



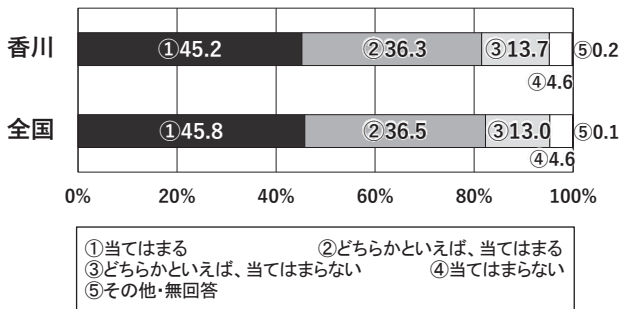
□54 算数の授業の内容はよく分かりますか



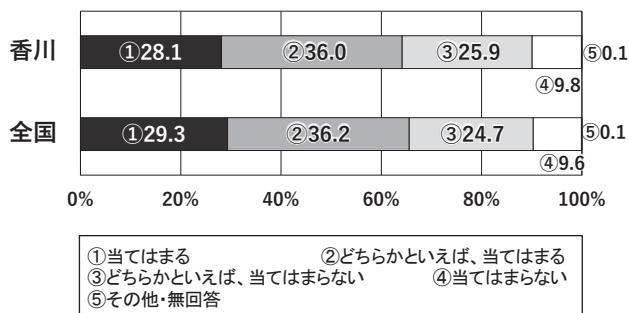
□56 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか



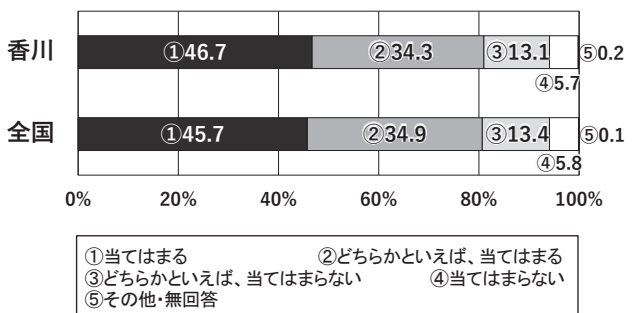
□57 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか



□58 算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか



□59 小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか



小学校算数

調査結果から授業改善へ

数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数や整数の計算の仕方について統一的・発展的に考察することができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 算数 3(1)(2)

3

ひろとさんたちは、小数や分数のたし算についてふり返っています。

(1) ひろとさんは、 $0.4 + 0.3$ についてまとめています。



0.4 は 0.1 の 4 個分、0.3 は 0.1 の 3 個分です。
0.1 を ① として下の図のように表します。



0.4 + 0.3 の計算は、0.1 をもとにすると、4 + 3 を使って考えることができます。

$0.4 + 0.3$ は、0.1 をもとにする数にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、 $0.4 + 0.05$ について同じようにまとめます。

0.4 は ② の 40 個分、0.05 は ② の 5 個分です。
 $0.4 + 0.05$ の計算は、② をもとにすると、40 + 5 を使って考えることができます。

上の②にはすべて同じ数が入ります。②に入る数を書きましょう。

(2) ひろとさんたちは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 2 個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の 1 個分です。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、2 + 1 を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

問題番号	解答類型	香川 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正 答
1	0.01 と解答しているもの	70.6	74.1	◎
2	0.1 と解答しているもの	9.0	8.5	
3	1 と解答しているもの	1.6	1.4	
3 (1)	4 10 と解答しているもの	3.1	2.4	
99	上記以外の解答	13.9	10.7	
0	無解答	1.8	2.8	
	正答率	70.6	74.1	

(正答の条件) 次の①、②、③の全てを書いている。 ① $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ に共通する単位分数が、 $\frac{1}{12}$ であることを表す数や言葉 (分母が 12 の倍数の単位分数を含む) ② $\frac{3}{4}$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉 ③ $\frac{2}{3}$ が共通する単位分数の幾つ分かを表す数や言葉				
問題番号	解答類型	香川 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正 答
1	①、②、③の全てを書いているもの	24.4	23.0	◎
2	②、③を書いているもの	0.3	0.3	
3	①、②を書いているもの ①、③を書いているもの	0.5	0.5	
4	①を書いているもの	6.0	6.1	
5	②を書いているもの ③を書いているもの	0.9	1.0	
3 (2)	6 通分について書いているもの	29.2	26.2	
7	$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分であること、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分であることの 両方、又はどちらか一方を書いているもの	6.7	4.4	
99	上記以外の解答	22.1	22.8	
0	無解答	10.0	15.7	
	正答率	24.4	23.0	

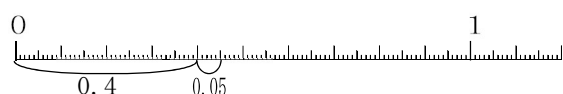
- ③(1)は、小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は70.6%であり、全国の正答率を3.5pt下回っている。全国と比較して、本県では、小数の場合に、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることに難しさを感じている児童が多いことが分かる。
- ③(2)は、分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題である。全国と比べて上回っているものの、本県の正答率は24.4%であり、30%を下回っている。解答類型をみると、通分について書いているものが29.2%と最も多くなっていることから、異分母分数の加法について、通分をすれば計算できることは分かっているが、単位分数をそろえて計算する意義についての理解が不十分であったのではないかと推察する。

授業改善のポイント

【異なる単位どうしの加法も、単位をそろえれば計算できることを理解できるようにする】

小数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して計算の仕方を考えるためには、その仕組みについて理解しておくことが前提となる。そのため、第4学年「小数」の学習において、単元の学習を通して、液量図、数直線、位取り板などといった、様々な数学的な表現方法を用いて、小数の仕組みを捉えられるようにする。例えば、③(1)の問題のような数の相対的な大きさを用いて共通する単位を捉える力を身に付けさせるためには、計算の仕方を学習する前の大きさ比べの学習場面で、全ての児童が数直線を使って数の大きさを視覚的に捉える経験をする。

本設問の指導に当たっては、 $0.4 + 0.05$ について、その経験を踏まえ、もとにする数を幾つにすれば、既習の整数の加法に帰着できるか考察する活動を設定する。言葉だけの説明では分かりにくいと感じている児童も、数直線を用いて考えることで、0.01を共通する単位として、 $40 + 5$ という既習の整数の加法に帰着して考えることができるだろう。このような数の仕組みに基づいた系統的な指導は、③(3) 数直線上に示された分数を読み取る場面においても有効である。

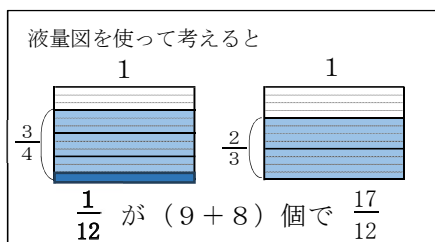


数直線をみると、0.4は0.01を40個、0.05は0.01を5個集めた数だと分かるよ。0.01をもとにすると、 $40 + 5$ で計算できるのだね。

【既習事項とつないで、解決に用いた数学的な考え方を自覚させる】

③(2)の問題を解決できるようにするためには、形式的に通分をして計算するのではなく、通分によって単位分数をそろえ、その幾つ分で考えれば整数の計算に帰着できることに気付けるようにすることが大切である。例えば、本設問を用いて授業を行う際には、児童の多様な考えをもとに話し合う活動を充実させることが考えられる。

(例)



通分して考えると

$$\begin{aligned}\frac{3}{4} &= \frac{3 \times 3}{4 \times 3} = \frac{9}{12} \\ \frac{2}{3} &= \frac{2 \times 4}{3 \times 4} = \frac{8}{12} \\ \frac{9}{12} + \frac{8}{12} &= \frac{17}{12}\end{aligned}$$

考え方の共通点を問う

2つの考え方の共通点はありますか？

そのように考えた理由を問う

なぜ、分母を12にそろえたのですか？

これまで学習してきたこととのつながりを問う

これまでの勉強と同じところはありますか？

どちらの考えも、分母を12にそろえて計算しています。

どちらも、 $\frac{1}{12}$ の幾つ分で考えています。

分数はもとになる分数を同じにするとただの $9 + 8$ で計算できるからです。

もとにする数をそろえることが同じだね。

小数や分母が同じ分数のたし算でも、同じように考えたね。

全体で

共通する単位を考えることは、加法や減法の計算の基本になる考え方である。児童がその大切さを自覚し、「これも同じだ」と統合的に考察したり、「この場合も計算できるかな」と発展的に考察したりできるように、教師は系統性を意識し、板書や発問等の指導を工夫していくことが大切である。

3 小学校理科

概 要

理科について、平均正答率は、おおむね全国と同等である。

- 「『粒子』を柱とする領域」「『地球』を柱とする領域」で上回っている。
- 「『生命』を柱とする領域」は同等である。
- 「『エネルギー』を柱とする領域」で下回っている。

■令和7年度調査結果の集計値

小学校理科	児童数	学校数	平均正答数 / 設問数	平均正答率 (%)
香川 (公立)	7,433	148	9.7 / 17	57
全国 (公立)	936,576	18,150	9.7 / 17	57 (57.1)

■平成24・27・30・令和4・7年度の香川県と全国の調査結果

小学校理科					
調査年度	H24	H27	H30	R 4	R 7
香川 (公立) 平均正答率 (%)	64.3	62.3	60	63	57
全国 (公立) 平均正答率 (%)	60.9	60.8	60 (60.3)	63 (63.3)	57 (57.1)
香川と全国との差 (pt)	3.4	1.5	0	0	0

■令和４・７年度の区分・領域別調査結果

	小学校理科				
	学習指導要領の区分・領域	A区分		B区分	
		「エネルギー」を 柱とする領域	「粒子」を 柱とする領域	「生命」を 柱とする領域	「地球」を 柱とする領域
令和七年度	香川（公立） 平均正答率（％）	45.8	52.3	52.0	66.9
	全国（公立） 平均正答率（％）	46.7	51.4	52.0	66.7
	香川と全国との差（pt）	▲0.9	0.9	0.0	0.2
令和四年度	香川（公立） 平均正答率（％）	51.6	59.5	75.6	64.0
	全国（公立） 平均正答率（％）	51.6	60.4	75.0	64.6
	香川と全国との差（pt）	0.0	▲0.9	0.6	▲0.6

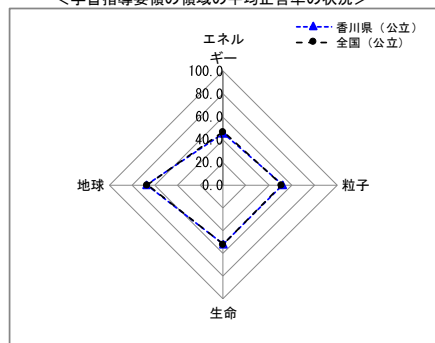
■平成24・27・30年度の区分・内容別調査結果

	小学校理科				
	学習指導要領の区分・内容	A区分		B区分	
		エネルギー	物質	生命	地球
平成三十年代	香川（公立） 平均正答率（％）	53.9	58.5	71.6	49.4
	全国（公立） 平均正答率（％）	53.1	59.8	73.6	49.5
	香川と全国との差（pt）	0.8	▲1.3	▲2.0	▲0.1
平成二十七年度	香川（公立） 平均正答率（％）	66.5	58.5	63.4	58.7
	全国（公立） 平均正答率（％）	65.6	57.4	61.2	57.8
	香川と全国との差（pt）	0.9	1.1	2.2	0.9
平成二十四年度	香川（公立） 平均正答率（％）	65.7	65.3	70.1	53.5
	全国（公立） 平均正答率（％）	59.8	61.4	68.6	50.6
	香川と全国との差（pt）	5.9	3.9	1.5	2.9

問題別調査結果【理科】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
全体			17	57	57.1
学習指導 要領の 区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	45.8	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	52.3	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	52.0	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	66.9	66.7
評価の観点		知識・技能	8	55.2	55.3
		思考・判断・表現	9	59.2	58.7
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	11	54.8	54.7
		短答式	4	69.6	69.7
		記述式	2	46.8	45.2

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



(注) 「学習指導要領の区分・領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			A区分		B区分		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	香川県 (公立)	全国 (公立)	香川県 (公立)	全国 (公立)
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域										
1 (1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる			4 B (3)ア (イ)※			○			○		76.3	79.5	1.4	2.5
1 (2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる			4 B (3)ア (イ)※			○				○	64.4	60.5	4.5	8.5
1 (3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる			4 B (3)ア (イ)※			○		○			77.4	77.8	0.6	0.9
2 (1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	3 A (5)ア (イ)※	3 A (4)ア (イ)※			○			○			11.2	10.6	0.4	0.6
2 (2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	3 A (5)ア (イ)※					○		○			42.5	42.9	0.3	0.6
2 (3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	5 A (3)ア (イ)				○				○		78.4	78.0	1.4	2.7
2 (4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列につなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	4 A (3)ア (イ)				○			○			51.1	55.1	0.5	0.8
3 (1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる		5 B (1)ア (エ)			○				○		70.2	70.7	0.9	1.5
3 (2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる		5 B (1)ア			○			○			47.0	45.6	0.6	0.8
3 (3)	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる		5 B (1)ア (イ)※				○		○			61.6	62.0	1.0	1.7
3 (4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる		5 B (1)イ				○			○		29.1	29.9	6.2	11.4
4 (1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)※					○			○		53.4	50.6	3.3	6.1
4 (2) イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)※	4 B (4)ア (イ)			○			○			64.8	64.2	0.9	1.3
4 (2) エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)※	4 B (4)ア (イ)			○			○			56.4	57.5	1.0	1.5
4 (3) カ	海にある水がとけることについて、水が氷になる温度を根拠に予想しているものを選ぶ	水が氷になる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)※					○		○			59.7	59.8	1.5	2.3
4 (3) キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ	水がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる		4 B (3)ア (イ)			○			○			62.4	60.9	1.5	2.4
4 (3) ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	4 A (2)ア (イ)※					○		○			68.4	65.6	1.5	2.5

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等を見るために用いる知識及び技能を示している。

■正答率が全国より 3pt 以上高い問題

【小学校理科】（全 17 問中 1 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	地球	思判表	記述	64.4	4.5	3.9

■正答率が全国より 3pt 以上低い問題

【小学校理科】（全 17 問中 2 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	地球	思判表	短答	76.3	1.4	▲3.2
2(4)	乾電池 2 個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	エネ	知技	選択	51.1	0.5	▲4.0

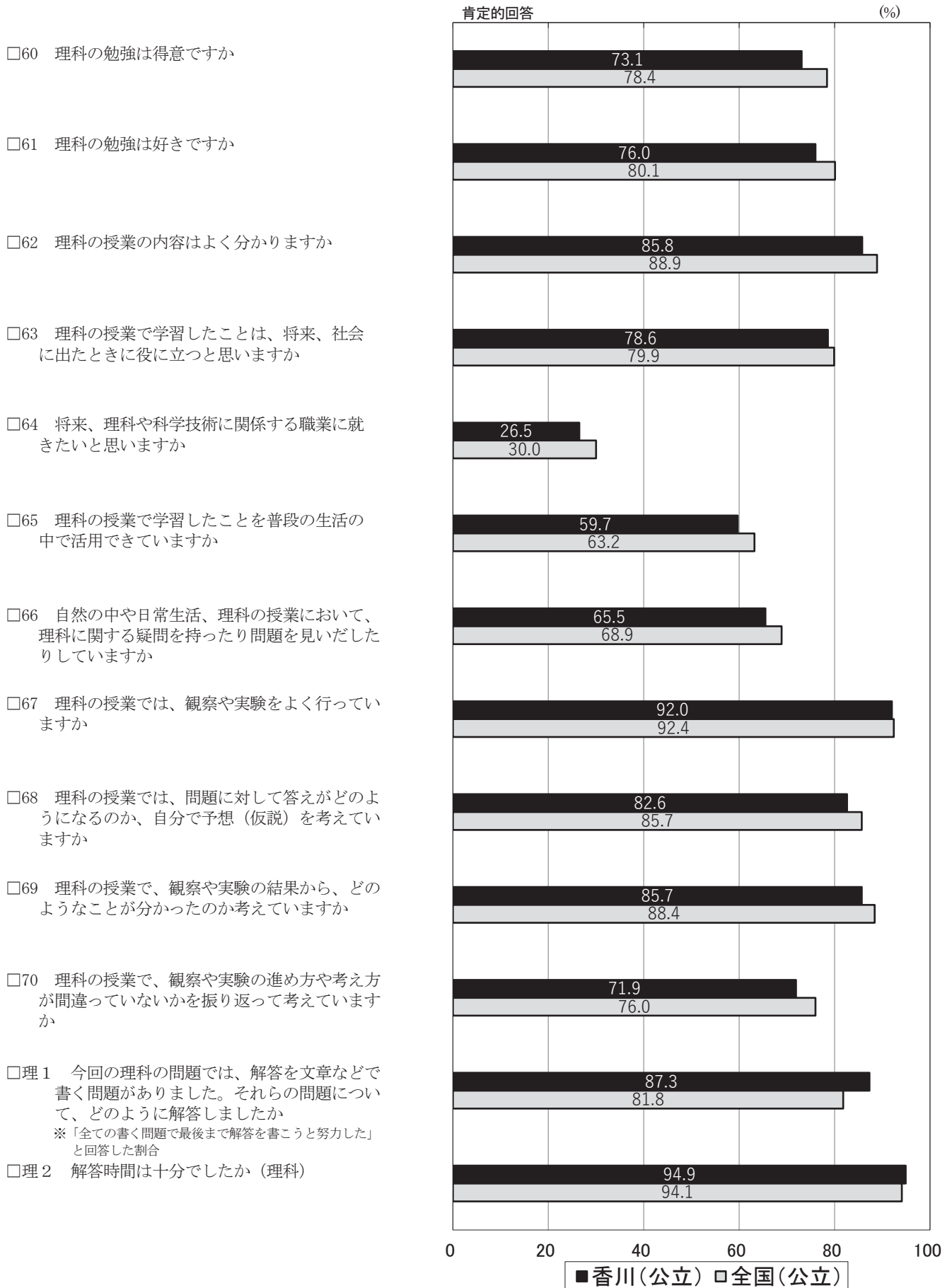
■正答率が低い問題（50%未満）

【小学校理科】（全 17 問中 4 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
2(1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	エネ 粒子	知技	選択	11.2	0.4	0.6
2(2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	エネ	思判表	選択	42.5	0.3	▲0.4
3(2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	生命	知技	選択	47.0	0.6	1.4
3(4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く	生命	思判表	記述	29.1	6.2	▲0.8

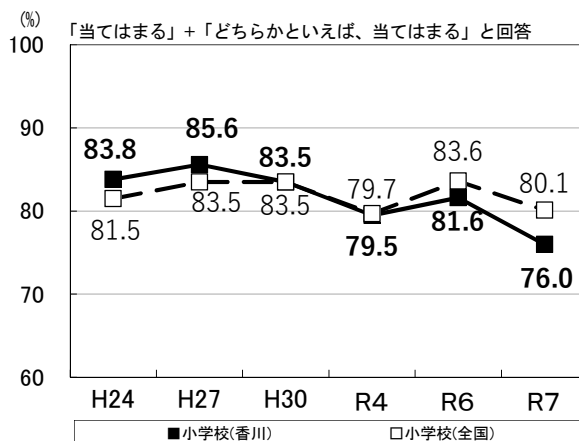
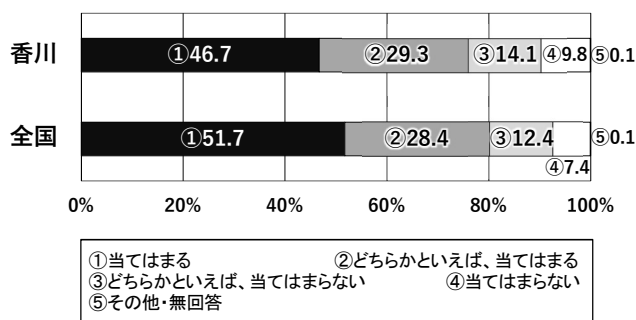
【領域】	【評価観点】	【問題形式】
エネルギー 粒子 生命 地球	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に取り組む態度	選択式：選択 短答式：短答 記述式：記述

■小学校理科に関わる質問の全国との比較

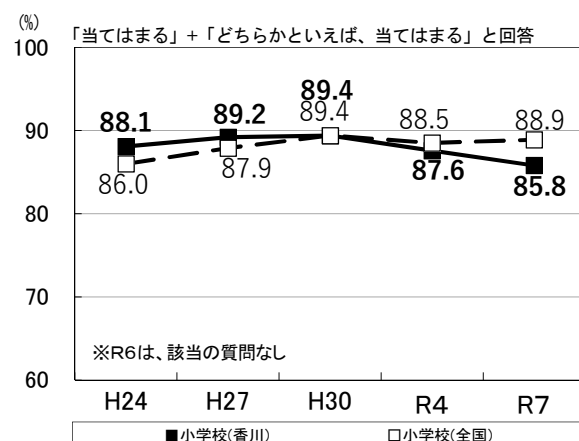
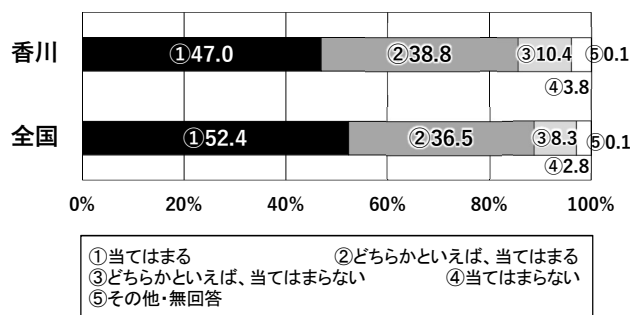


※肯定的な回答とは、回答選択肢1+2を指す。(回答選択肢一覧…P104)

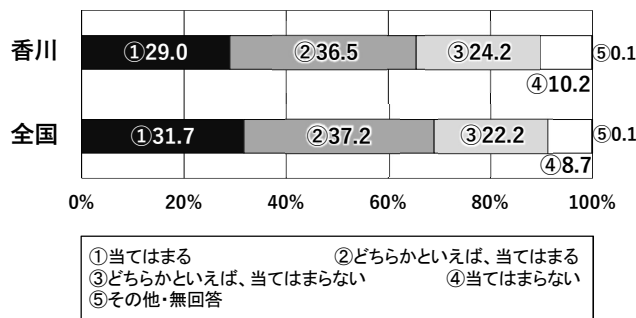
□61 理科の勉強は好きですか



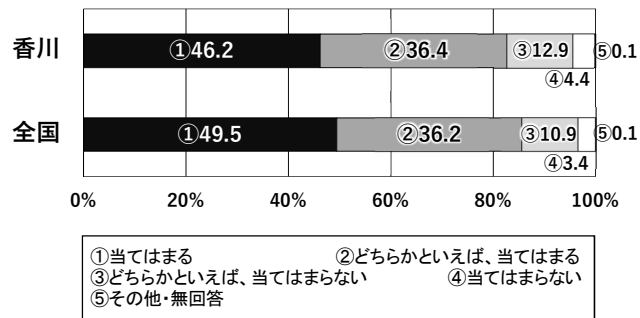
□62 理科の授業の内容はよく分かりますか



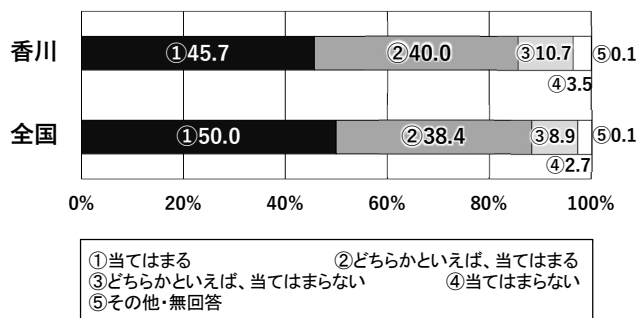
□66 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか



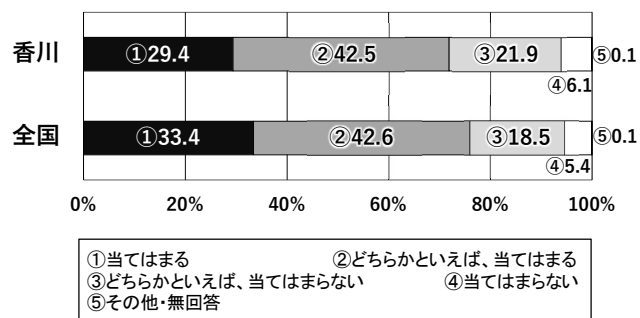
□68 理科の授業では、問題に対して答えがどのようなになるのか、自分で予想(仮説)を考えていますか



□69 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか



□70 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか



小学校理科

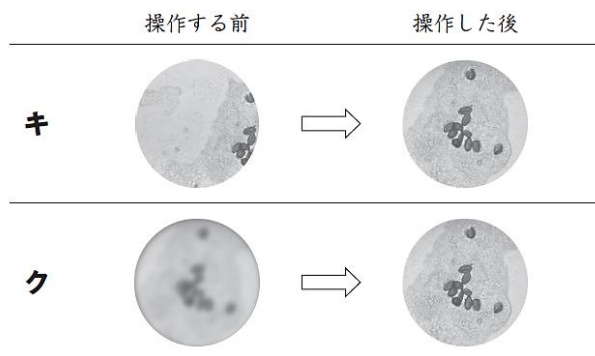
調査結果から授業改善へ

器具や機器の操作にどのような意味があるのかを理解し、実験の目的に応じて正しく取り扱うことができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 理科 3(2)

3 (2) けんび鏡を操作したとき、キとクのように、操作する前と後で見え方が変化しました。キとクはどのような操作をしたのか、下の1から4の中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。



- 1 対物レンズをちがう倍率のものにした
- 2 プレパラートを動かした
- 3 明るさを調節した
- 4 調節ねじを回した

	香川 反応率(%)	全国 反応率(%)	解答類型
正答率	47.0	45.6	1
キの正答率	87.6	85.7	1 と 2
クの正答率	49.4	48.1	1 と 3
無解答	0.6	0.8	0

分析・考察

- 本問題の本県の正答率は、47.0%であり、全国の正答率を1.4pt上回っている。キ、クそれぞれの正答率も全国の正答率を少し上回っている。
- キの「プレパラートを動かした」の正答率は87.6%であるが、クの「調節ねじを回した」の正答率は49.4%と低い。これは、調節ねじがピントを調整するものか、明るさを調整するものか、倍率を調整するものか混同していると考えられる。

授業改善のポイント

【個々が器具や機器の操作の意味と正しい扱い方を理解した上で操作技能を高められるようにする】

児童に器具や機器を操作させる活動では、正しい扱い方だけでなく、その操作の意味も理解させることが重要である。また、グループ毎に実験を行わせる場合、一部の限られた児童のみが器具や機器を扱うことがないよう留意する必要がある。

例えば、顕微鏡の使い方も習得するために、【①顕微鏡を置く②接眼レンズをのぞきながら鏡を調節し光を入れる③プレパラートをステージにのせる④横から見ながらプレパラートと対物レンズ（低倍率）を近づける⑤接眼レンズをのぞきながら調節ねじを回してピントを合わせる】を繰り返して指導し、それぞれの操作と順序が、意味があるということを経験によって理解させることが重要である。操作方法を一斉指導する際には、操作方法を解説したデジタルコンテンツ（動画等）を活用すると短時間で効率よく説明できる。さらに一人一台端末と併せて活用すれば、児童が手元で必要な時に何度も繰り返して操作方法を確認できる。

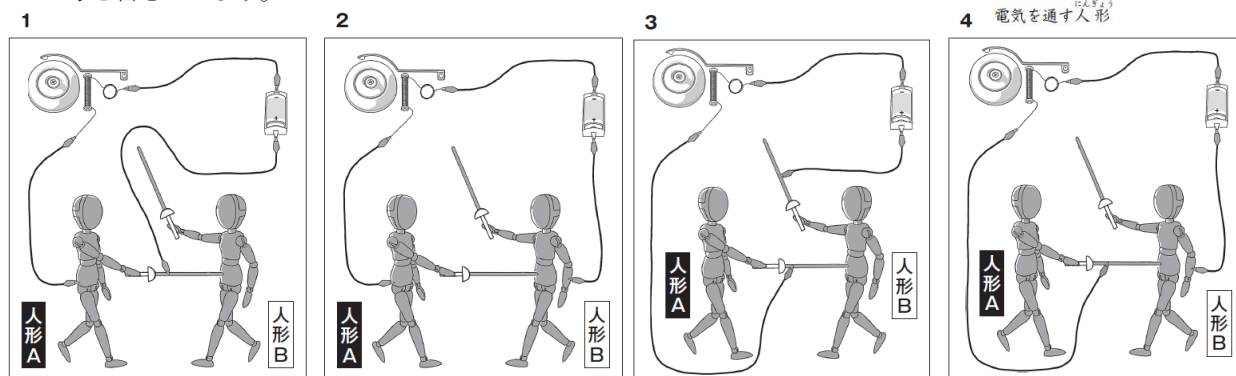
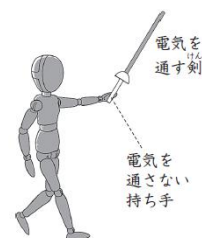
また、器具や機器を扱う機会を全員にできるだけ多く確保するためには、観察・実験を行うグループをできるだけ少人数に設定する方法が考えられる。その他、あいまいな結果を検証するための観察・実験や児童の新たな気付きや疑問に応じた追加の観察・実験を設定することも考えられる。観察・実験の回数が増えることでデータも増えるが、これらを効率よく短時間で整理する際にも ICT は効果的に活用できる。

理科学習で得た概念を使い、ものづくりや追加の実験を発想し、表現できるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 理科 2(2)

- 2 (2) 「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね（ベル）が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の1から4までのの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



		解答類型			
		1	2	3	4
		1と解答しているもの	2と解答しているもの	3と解答しているもの	4と解答しているもの
反 率 %	香川	7.2	19.6	30.2	42.5
	全国	7.2	18.9	30.1	42.9

分析・考察

- 本問題の本県の正答率は、42.5%であり、全国の正答率を0.4pt下回っている。理科学習で得た概念を使い、ものづくりや追加の実験を発想し、表現することに課題がある。
- 1を選んだ7.2%の児童は、人形Aだけの回路であり、「人形Aの剣を人形Bに当てたとき」と関係ない回路となっている。このことから、電気を通すつなぎ方に関する知識を身に付けることと、目的に沿った観察、実験の計画を発想し、表現することに課題があると考えられる。
- 2を選んだ19.6%の児童と3を選んだ30.2%の児童は、「電気を通さない持ち手」が回路の一部に含まれている回路を選んでおり、「持ち手」が回路を断っていることに思い至っていない。このことから、電気を通すつなぎ方に関する知識を身に付けることに課題があると考えられる。

授業改善のポイント

【児童の興味を引きだし、主体的な問題解決を進める】

理科では、学習者主体の問題解決学習が重要である。こうした問題解決学習を支える教材として、本設問のような実験装置やものづくりが考えられる。その際には、「〇〇だから、きっと△△になるだろう」という個の思考を大切に自分なりに表現させることが重要である。

【つく、つかない事実と回路の概念を繰り返し体感させる】

回路に電気が流れるかどうかを確かめる実験装置はクリップの位置を変えることによって、様々な回路を自由につくることができる。電気が流れる、流れない事実と回路の概念をつないで繰り返し考えることを大切にしたい。その際、豆電球や乾電池、スイッチなどを並べた回路の図や写真に線を書き入れ、電流の流れが輪になることを押さえたい。

【日常生活にも広がるようにする】

私たちの生活は電気製品にあふれている。停電、断線、接触不良などにより使用できなくなることもある。その際、回路の概念とつないで「どこかで、回路が途切れているのだろう」と考えられるようにしたい。

4 中学校国語

概 要

国語について、平均正答率は、おおむね全国と同等である。

○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」で下回っている。

■令和7年度調査結果の集計値

中学校国語	生徒数	学校数	平均正答数 / 設問数	平均正答率 (%)
香川 (公立)	7,095	64	7.4 / 14	53
全国 (公立)	870,560	9,244	7.6 / 14	54 (54.3)

■令和3年度～7年度の香川県と全国の調査結果

中学校国語					
調査年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
香川 (公立) 平均正答率 (%)	64	70	70	57	53
全国 (公立) 平均正答率 (%)	65 (64.6)	69 (69.0)	70 (69.8)	58 (58.1)	54 (54.3)
香川と全国との差 (pt)	▲1	1	0	▲1	1

■令和４～７年度の内容別調査結果

中学校国語							
学習指導要領の内容		思考力、判断力、表現力等			知識及び技能		
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や使い 方に関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の言語文 化に関する事項
令和七年度	香川（公立） 平均正答率（％）	51.8	52.6	59.9	47.4		
	全国（公立） 平均正答率（％）	53.2	52.8	62.3	48.1		
	香川と全国との差 （pt）	▲1.4	▲0.2	▲2.4	▲0.7		
令和六年度	香川（公立） 平均正答率（％）	56.5	64.3	46.7	59.4	58.5	72.7
	全国（公立） 平均正答率（％）	58.8	65.3	47.9	59.2	59.6	75.6
	香川と全国との差 （pt）	▲2.3	▲1.0	▲1.2	0.2	▲1.1	▲2.9
令和五年度	香川（公立） 平均正答率（％）	81.8	62.8	63.8	64.4	64.5	77.4
	全国（公立） 平均正答率（％）	82.2	63.2	63.7	67.5	63.4	74.7
	香川と全国との差 （pt）	▲0.4	▲0.4	0.1	▲3.1	1.1	2.7
令和四年度	香川（公立） 平均正答率（％）	65.7	50.3	67.5	73.3	50.3	70.2
	全国（公立） 平均正答率（％）	63.9	46.5	67.9	72.2	46.5	70.2
	香川と全国との差 （pt）	1.8	3.8	▲0.4	1.1	3.8	0.0

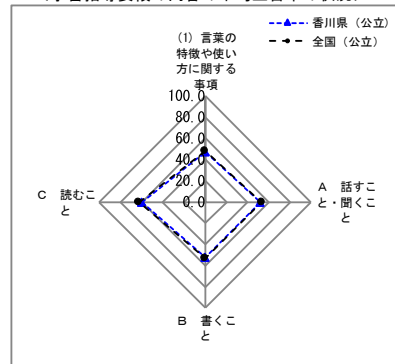
■令和３年度の領域等別調査結果

中学校国語					
学習指導要領の領域等		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項
令和三年度	香川（公立） 平均正答率（％）	79.0	56.2	48.3	76.4
	全国（公立） 平均正答率（％）	79.8	57.1	48.5	75.1
	香川と全国との差 （pt）	▲0.8	▲0.9	▲0.2	▲0.5

問題別調査結果【国語】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				香川県(公立)	全国(公立)
全体			14	53	54.3
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	47.4	48.1
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	51.8	53.2
		B 書くこと	5	52.6	52.8
		C 読むこと	3	59.9	62.3
評価の観点		知識・技能	2	47.4	48.1
		思考・判断・表現	12	54.1	55.3
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	8	62.2	63.9
		短答式	2	73.9	73.6
		記述式	4	24.8	25.3

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			知識及び技能			思考力、判断力、 表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	香川県 (公立)	全国 (公立)	香川県 (公立)	全国 (公立)
			(1) 言葉の特徴や使い方に に関する事項	(2) 情報の扱い方に に関する事項	(3) 我が国の言語文化に に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと										
1一	変換した漢字として適切なものを選択する (かいしん)	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	2ウ						○			○			31.3	35.2	0.3	0.2
1二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる				1ア			○			○			81.0	82.5	0.3	0.2
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる				1イ			○			○			60.8	63.3	0.5	0.5
1四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる				1ウ			○				○		29.9	31.0	1.7	1.6
2一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				2ウ			○			○			38.1	38.1	0.5	0.3
2二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				1ウ			○			○			77.8	77.9	0.5	0.3
2三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる				2イ			○			○			69.0	73.4	0.8	0.6
2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				2ウ			○				○		22.2	23.2	4.1	4.0
3一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる					1エ		○			○			76.2	80.0	0.8	0.5
3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる					2ア		○				○		87.5	89.9	5.1	4.0
3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる	1ウ						○			○			63.5	61.0	1.1	0.8
3四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそうように考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる					1エ		○				○		16.1	17.1	28.5	28.1
4一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる				1エ			○				○		60.4	57.3	31.0	33.5
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見つけて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる				1エ			○				○		30.8	30.1	17.9	19.1

■正答率が全国より 3 pt 以上高い問題

【中学校国語】（全 14 問中 1 問）

問題番号	問題の概要	内容	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
4 一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する	書く	思判表	短答	60.4	31.0	3.1

■正答率が全国より 3 pt 以上低い問題

【中学校国語】（全 14 問中 3 問）

問題番号	問題の概要	内容	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1 一	変換した漢字として適切なものを選択する（ <u>かいしん</u> ）	言葉	知技	選択	31.3	0.3	▲3.9
2 三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	話聞	思判表	選択	69.0	0.8	▲4.4
3 一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	読む	思判表	選択	76.2	0.8	▲3.8

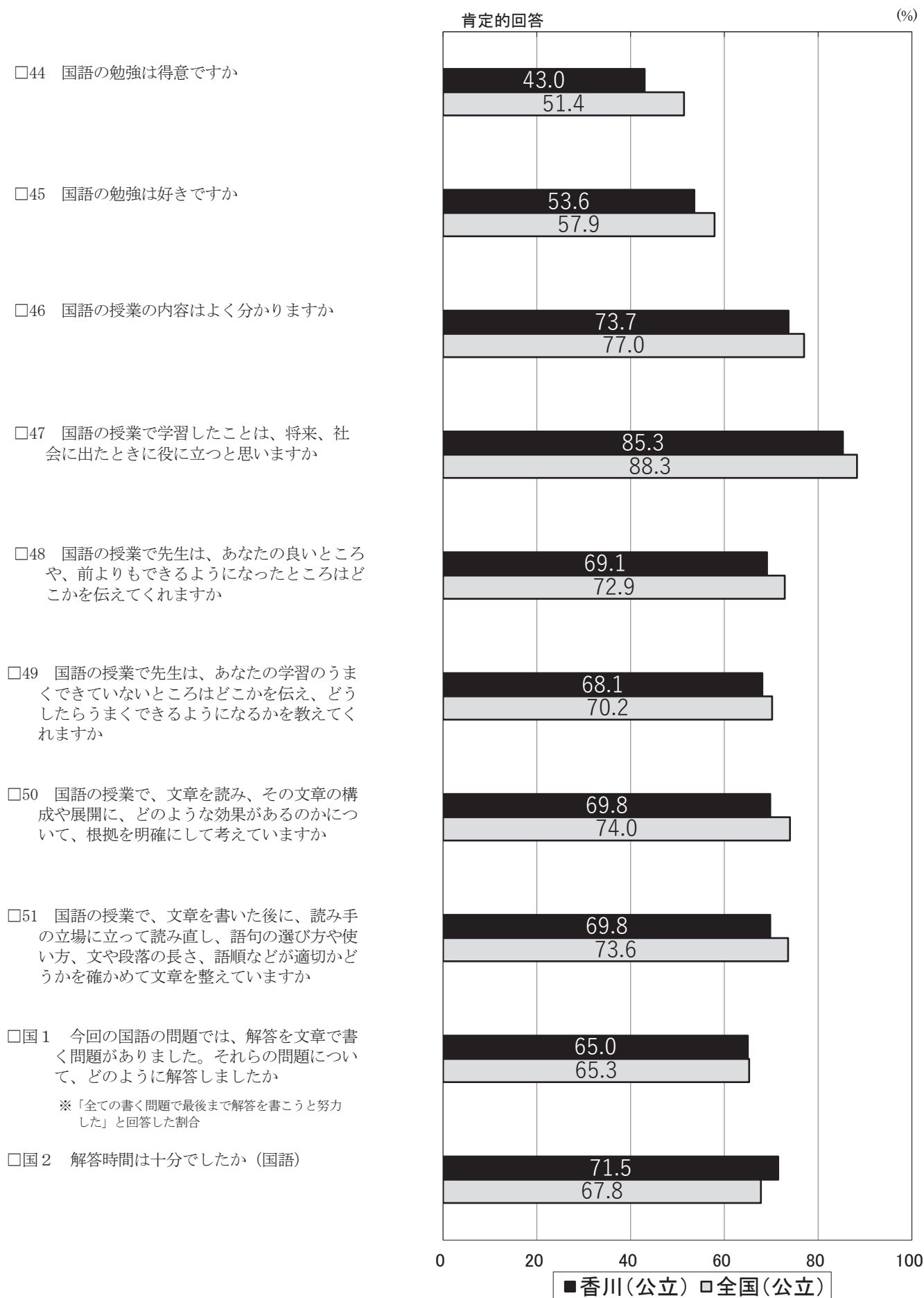
■正答率が低い問題（50%未満）

【中学校国語】（全 14 問中 6 問）

問題番号	問題の概要	内容	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1 一	変換した漢字として適切なものを選択する（ <u>かいしん</u> ）	言葉	知技	選択	31.3	0.3	▲3.9
1 四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	書く	思判表	記述	29.9	1.7	▲1.1
2 一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	話聞	思判表	選択	38.1	0.5	0.0
2 四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	話聞	思判表	記述	22.2	4.1	▲1.0
3 四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く	読む	思判表	記述	16.1	28.5	▲1.0
4 二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	書く	思判表	記述	30.8	17.9	0.7

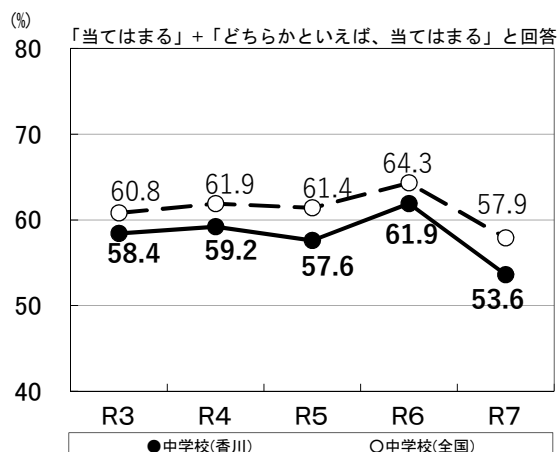
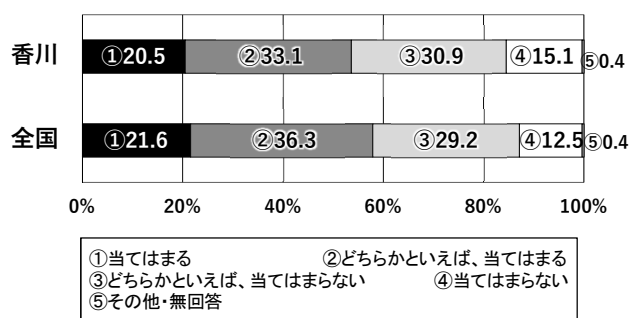
【内容】	【評価観点】	【問題形式】
話すこと・聞くこと : 話聞 書くこと : 書く 読むこと : 読む 言葉の特徴や使い方に関する事項 : 言葉 情報の扱い方に関する事項 : 情報 我が国の言語文化に関する事項 : 言文	知識・技能 : 知技 思考・判断・表現 : 思判表 主体的に取り組む態度 : 主体	選択式 : 選択 短答式 : 短答 記述式 : 記述

■中学校国語に関わる質問の全国との比較

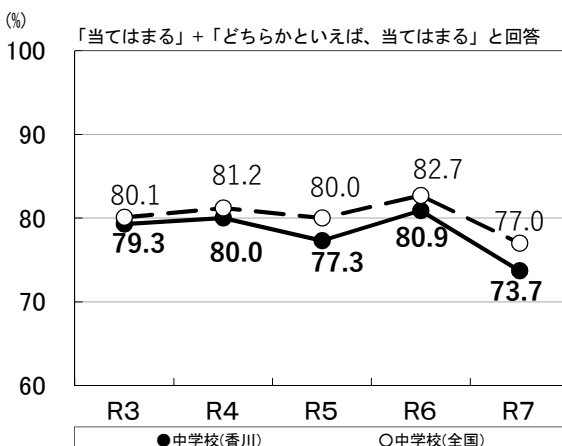
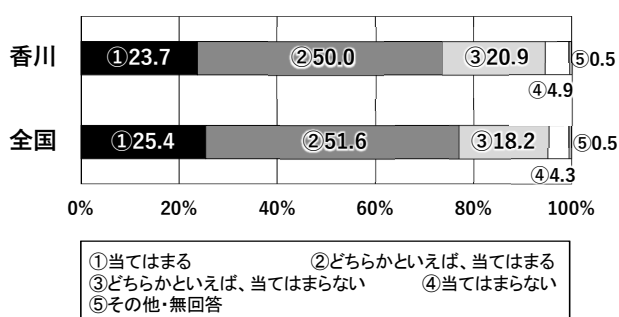


※肯定的な回答とは、回答選択肢 1 + 2 を指す。（回答選択肢一覧…P104）

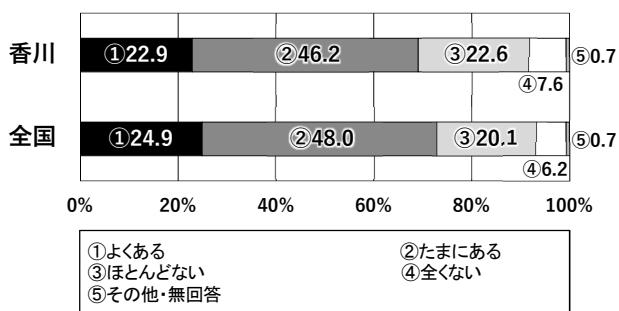
□45 国語の勉強は好きですか



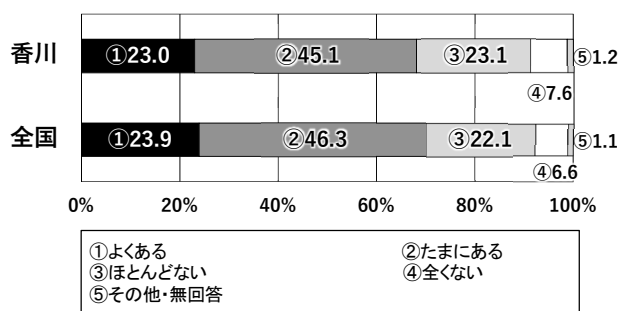
□46 国語の授業の内容はよく分かりますか



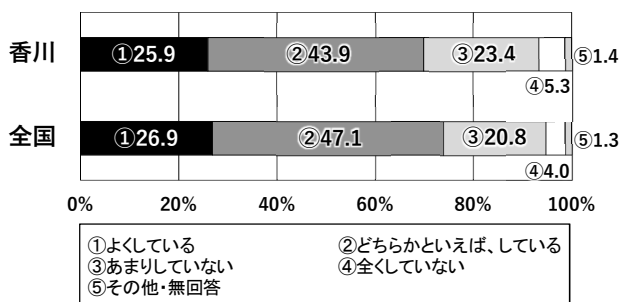
□48 国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか



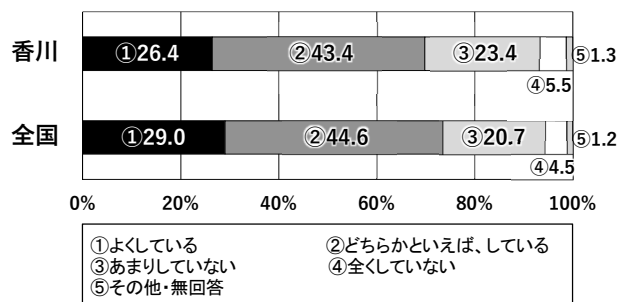
□49 国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくださいますか



□50 国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか



□51 国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか



中学校国語

調査結果から授業改善へ

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 国語 1 四

1 第一中学校では、毎年、美術の時間につくった作品を展示する美術展を行っています。今年は、昨年美術展に来場した小学生の感想をもとに、内容を工夫して開催します。実行委員の中井さんは、地域の小学校6年生に向けて、来場を促すためのちらしを作成することにしました。

四 今年美術展では、昨年美術展に来場した小学生の感想をもとに内容を工夫しています。中井さんは、そのことを【ちらし】(更新版②)の□の部分に書き加えることにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 今年美術展の【工夫】のA、Bから1つ選び(どちらを選んでもかまいません。)、それと結び付く小学生の【感想の一部】をアからウまでの中から1つ選び、それぞれ塗りつぶすこと。

条件2 条件1で選んだ、今年美術展の【工夫】と小学生の【感想の一部】との関係が分かるように、接続する語句や指示する語句を使って書くこと。

【工夫】

- A 作品に込めた思いや作品をつくる過程について、中学生が、来場者の求めに応じて説明する。
B 昨年はおみやげにしていたペン立てを、今年は体験コーナーを設けて、小学生につくってもらう。中学生は、美術の時間に学んだことを生かし、手助けや助言をする。

【感想の一部】

- ア どうやってあんなすばらしい作品をつくったのか知りたくなりました。美術でどんなことを学べるのが楽しみです。
イ いろいろな作品が展示されていて楽しかったです。思いのこもった作品が多いように感じました。
ウ おみやげにペン立てをもらえてよかったです。手づくりだと聞いてびっくりしました。私もつくってみたいです。

問題番号	解答類型	県 反応率(%)	全国 反応率(%)	正答
1 四	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 【工夫】のいずれか一方と、【感想の一部】のいずれか一方を選んで、選んだ記号を塗り潰している。 ② 選んだ【工夫】に結び付く【感想の一部】を選んでいる。 ③ 選んだ【工夫】の内容と【感想の一部】の内容を適切に取り上げて書いている。 ④ 接続する語句や指示する語句を用いて、選んだ【工夫】と【感想の一部】とを適切に関係付けて書いている。			
	1 条件①、②、③、④を満たして解答しているもの	29.9	31.0	◎
	2 条件①、②、③を満たし、条件④を満たさないで解答しているもの	7.6	8.2	
	3 条件①、②、④を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0.2	0.2	
	99 上記以外の解答	60.5	59.0	
	0 無解答	1.7	1.6	
正答率		29.9	31.0	

【ちらし】(更新版③)

第一中学校 美術展

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれも思いのこもった作品です。

今年、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。

日時 令和7年11月15日(土) 10時～16時

場所 第一中学校 体育館

会場

受付
↓
1年生の作品
(水彩画)

2年生の作品
(ポスター)

体験コーナー
(ペン立てづくり)

3年生の作品
(彫刻)

体験できる時間(各回30分間)
◎10時～ ◎11時～ ◎12時～ ◎13時～
中学生と一緒に、好きな色のタイルを貼って自分だけのペン立てをつくるができます。

第一小学校6年生のみみなさんへ

分析・考察

- 本問題は、読み手に向けて、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は、29.9%で全国の正答率を1.1pt下回っている。
- 解答類型2、3の反応率の合計は、7.8%で、解答類型99の反応率は、60.5%である。特に、解答類型99の生徒は、選んだ【工夫】に結び付く【感想の一部】を選ぶことができなかったり、条件1、2で示された複数の情報を漏れなく選択し、再構成することができなかったりしたと考えられる。

授業改善のポイント

【実生活での活用を意識できる言語活動を設定し、読み手からのフィードバックを生かしてねらいに迫る】

授業においては、総合的な学習の時間や学校の教育活動全体との関連を図り、実際に自分が書いた文章で相手に伝えたり、相手の反応を受け取ったりできる言語活動を設定したい。

その際、「知識及び技能」の(2)ア「原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。」との関連を図り、「誰に(相手)」「何を(事柄)」「何のために(目的)」伝えるのか情報を項目ごとに分類・整理した上で、情報の根拠を明確にして、自分の考えが伝わる文章にする必要がある。また、友人と互いに書いたものを読み合い、読み手にとって必要な情報が入っているかということや書き手の意図が伝わるか等を確認することで、自分の文章を振り返ることにもつなげたい。

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 国語 3 四

問題 番号	解答類型	県 反応率(%)	全国 反応率(%)	正答
3 四	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① どのような効果があるかを書いている。 ② ①について考えた理由を、「破線囲みの部分のような『あとに続く話』が『一 榎木の実』にはあるが、『二 釣の話』にはない」という展開を踏まえて書いている。 ③ ②について、物語の内容を適切に取り上げて書いている。			
	1 条件①、②、③を満たして解答しているもの	16.1	17.1	◎
	2 条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0.1	0.1	
	3 条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	32.7	34.2	
	99 上記以外の解答	22.6	20.5	
	0 無解答	28.5	28.1	
	正答率	16.1	17.1	

3 次（の）文章は、島崎藤村が書いた「二人の兄弟」という物語です。この物語は、「一 榎木の実」、「二 釣の話」で構成されています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

四 「――」で囲まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面（の）あとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「二 榎木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

分析・考察

- 本問題は、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は、16.1%で全国（の）正答率を1.0pt下回っている。また、本県の無解答率も28.5%と他の問題と比較しても高い数値である。
- 解答類型3の反応率は、32.7%である。解答類型3の生徒は、物語の内容を根拠として作品の展開の効果を考えることはできるが、理由を考える際、『一 榎木の実』と『二 釣の話』の物語の展開を比較したことを踏まえて書くことができていないと考えられる。

授業改善のポイント

【複数の文章を読み比べることを通して読みを深め、読書活動の充実につなげる】

表現の効果について考えるときには、表現が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要である。また、自分の考えを支える根拠も明確に示すことが求められる。本設問のように、二つの文章を読み比べることで、それぞれの文章の表現の特徴が捉えやすくなり、読みを深めることにつながる。読み比べる際には、既習事項を生かし、登場人物・出来事・結末・情景描写等の比較の観点を定めて類似点や相違点を考えることも大切である。表現の効果についての自分の考えが定まった後は、共有する時間を持ちたい。それぞれの作品の類似点や相違点を具体的に示しながら、互いに自分の考えを伝えることで、他者の考えやその根拠等を基に、さらに自分の考えを広げたり、深めたりすることにつなげたい。

今回のように章段が異なる同一作品を授業で扱う際には、扱う作品以外の同一作者の作品を生徒の実態に応じて紹介することも考えられる。このように、「知識及び技能」の(3)オ「読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。」と関連を図ることで、生徒が読書の範囲を広げるきっかけになると考えられる。

5 中学校数学

概 要

数学について、平均正答率は、おおむね全国と同等である。

- 「図形」「関数」「データの活用」で上回っている。
- 「数と式」で下回っている。

■令和7年度調査結果の集計値

中学校数学	生徒数	学校数	平均正答数 / 設問数	平均正答率 (%)
香川 (公立)	7,098	64	7.3 / 15	49
全国 (公立)	871,097	9,243	7.2 / 15	48 (48.3)

■令和3年度～7年度の県と全国の調査結果

中学校数学					
調査年度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
香川 (公立) 平均正答率 (%)	56	55	53	53	49
全国 (公立) 平均正答率 (%)	57 (57.2)	51 (51.4)	51 (51.0)	53 (52.5)	48 (48.3)
香川と全国との差 (pt)	▲1	4	2	0	1

■令和４～７年度の領域別調査結果

中学校数学					
学習指導要領の領域		数と式	図形	関数	データの活用
令和七年度	香川（公立） 平均正答率（％）	43.2	47.8	48.7	59.0
	全国（公立） 平均正答率（％）	43.5	46.5	48.2	58.6
	香川と全国との差 （pt）	▲0.3	1.3	0.5	0.4
令和六年度	香川（公立） 平均正答率（％）	52.8	39.9	60.7	55.6
	全国（公立） 平均正答率（％）	51.1	40.3	60.7	55.5
	香川と全国との差 （pt）	1.7	▲0.4	0.0	0.1
令和五年度	香川（公立） 平均正答率（％）	64.4	34.8	51.9	52.3
	全国（公立） 平均正答率（％）	63.0	33.2	51.2	48.5
	香川と全国との差 （pt）	1.4	1.6	0.7	3.8
令和四年度	香川（公立） 平均正答率（％）	64.8	44.5	47.2	57.8
	全国（公立） 平均正答率（％）	57.4	43.6	43.6	57.1
	香川と全国との差 （pt）	7.4	0.9	3.6	0.7

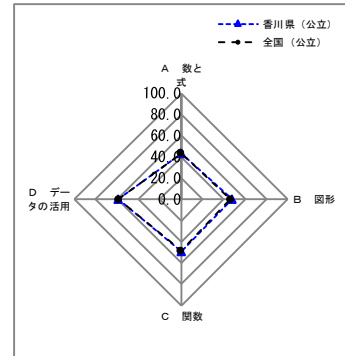
■令和３年度の領域等別調査結果

中学校数学					
学習指導要領の領域等		数と式	図形	関数	資料の活用
令和三年度	香川（公立） 平均正答率（％）	64.0	49.8	54.9	54.3
	全国（公立） 平均正答率（％）	64.9	51.4	56.4	53.8
	香川と全国との差 （pt）	▲0.9	▲1.6	▲1.5	0.5

■問題別調査結果【数学】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			香川県 (公立)	全国 (公立)
全体		15	49	48.3
学習指導要領 の領域	A 数と式	5	43.2	43.5
	B 図形	4	47.8	46.5
	C 関数	3	48.7	48.2
	D データの活用	3	59.0	58.6
評価の観点	知識・技能	9	55.0	54.4
	思考・判断・表現	6	39.2	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	3	53.4	54.0
	短答式	7	53.1	52.0
	記述式	5	39.7	39.6

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			A 数と 式	B 図形	C 関数	D データの 活用	知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習 に取り組 む態度	選択 式	短答 式	記述 式	香 川 県 (公 立)	全 国 (公 立)	香 川 県 (公 立)	全 国 (公 立)
1	1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	1 (1) ア (ア)					○		○			32.6	31.8	0.7	0.7
2	果汁 4.0% の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を、a を用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	1 (2) ア (エ)					○			○		53.3	51.9	6.1	7.3
3	△ABC において、∠A の大きさが 50° のときの頂点 A における外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる		2 (1) ア (イ)				○			○		63.7	58.1	2.2	2.0
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる			2 (1) ア (ア)			○			○		37.7	34.7	8.2	8.0
5	ある学級の生徒 40 人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、2.0 m 以上 2.5 m 未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる				1 (1) ア (ア)		○			○		44.5	42.5	8.6	9.4
6 (1)	連続する二つの 3 の倍数の和が 9 の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる	2 (1) ウ (イ)					○			○		58.9	62.8	4.7	4.6
6 (2)	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの 3 の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2 (1) イ (イ)					○				○	25.4	25.7	24.7	24.9
6 (3)	連続する三つの 3 の倍数の和が、9 の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2 (1) イ (イ)					○				○	45.9	45.2	20.9	20.2
7 (1)	A の手元のカードが 3 枚とも「グー」、B の手元のカードが 3 枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの 1 回目をを行うとき、1 回目 A が勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる				2 (2) ア (ア)		○			○		76.5	77.4	3.8	3.2
7 (2)	A の手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の 4 枚、B の手元のカードが「グー」、「チョキ」の 2 枚のとき、A と B の勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2 (2) イ (イ)		○				○	55.8	55.9	2.5	2.2
8 (1)	A 駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を读み取れば C 駅と D 駅間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる				1 (1) ア (ウ)		○			○		70.1	71.9	2.7	2.3
8 (2)	A 駅から 6.0、0 km 地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				1 (1) イ (イ)		○				○	38.2	38.0	34.4	35.0
9 (1)	四角形 AECF が平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる			2 (2) ア (イ)			○			○		57.6	58.5	1.7	1.1
9 (2)	平行四辺形 ABCD の辺 CB、AD を延長した直線上に BE = DF となる点 E、F を取っても、四角形 AECF は平行四辺形となることの証明を完成する	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる			2 (2) イ (ア)			○				○	36.8	36.3	7.3	7.2
9 (3)	平行四辺形 ABCD の辺 BC、DA を延長した直線上に BE = DF となる点 E、F を取り、辺 AB と線分 FC の交点を G、辺 DC と線分 AE の交点を H としたとき、四角形 AGCH が平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる			2 (2) イ (イ)			○				○	33.2	33.2	34.7	31.5

■正答率が全国より 3 pt 以上高い問題

【中学校数学】（全 15 問中 2 問）

問題 番号	問題の概要	領域	評価 観点	問題 形式	香川 正答率 (%)	香川 無解答率 (%)	全国の 正答率 との差 (pt)
3	$\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	図形	知技	短答	63.7	2.2	5.6
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める	関数	知技	短答	37.7	8.2	3.0

■正答率が全国より 3 pt 以上低い問題

【中学校数学】（全 15 問中 1 問）

問題 番号	問題の概要	領域	評価 観点	問題 形式	香川 正答率 (%)	香川 無解答率 (%)	全国の 正答率 との差 (pt)
6(1)	連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	数式	知技	短答	58.9	4.7	▲3.9

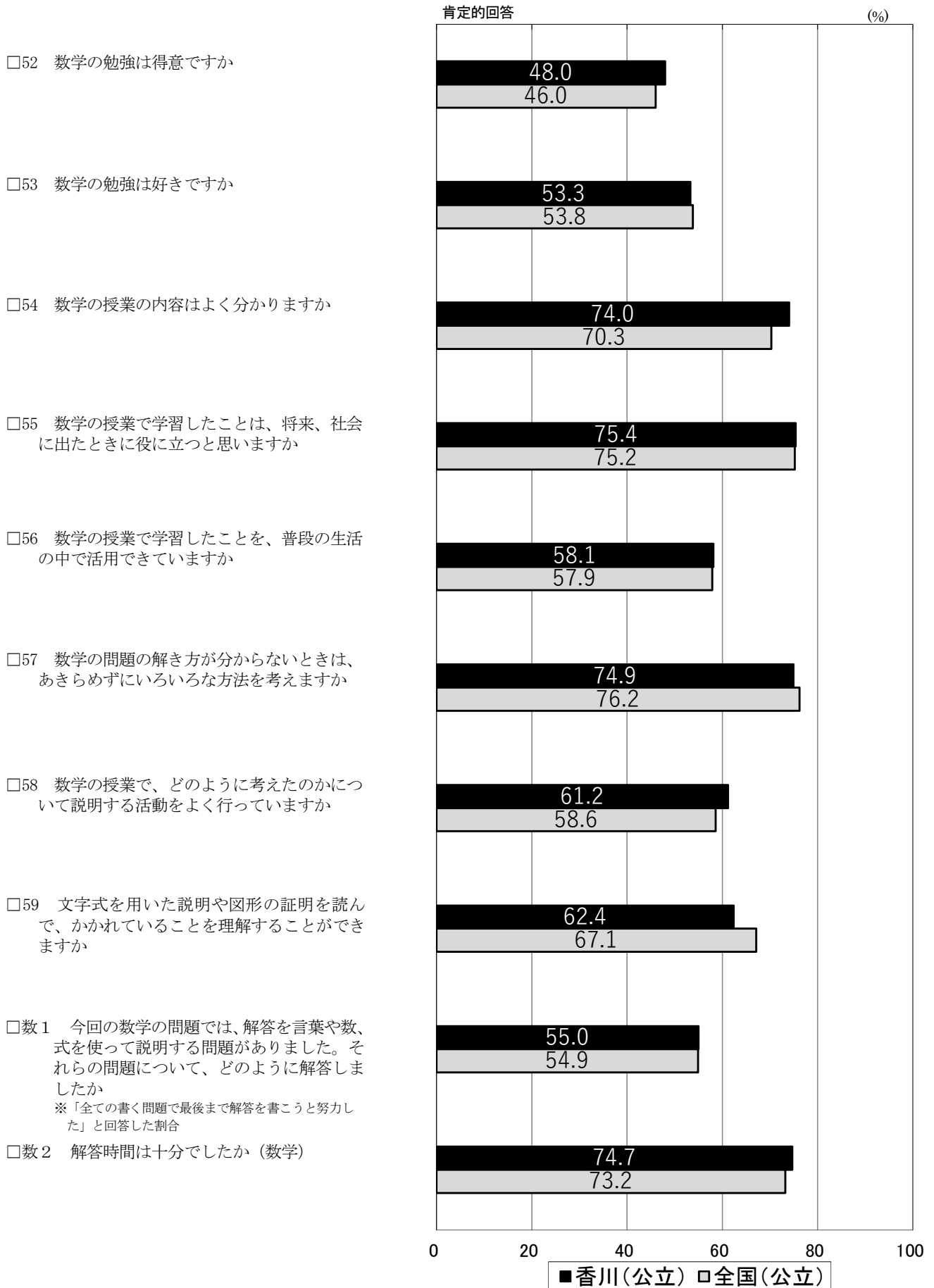
■正答率が低い問題（50%未満）

【中学校数学】（全 15 問中 8 問）

問題 番号	問題の概要	領域	評価 観点	問題形式	香川 正答率 (%)	香川 無解答率 (%)	全国の 正答率 との差 (pt)
1	1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ	数式	知技	選択	32.6	0.7	0.8
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求める	関数	知技	短答	37.7	8.2	3.0
5	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める	デ活	知技	短答	44.5	8.6	2.0
6(2)	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する	数式	思判表	記述	25.4	24.7	▲0.3
6(3)	連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する	数式	思判表	記述	45.9	20.9	0.7
8(2)	A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	関数	思判表	記述	38.2	34.4	0.2
9(2)	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上に $BE=DF$ となる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する	図形	思判表	短答	36.8	7.3	0.5
9(3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に $BE=DF$ となる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	図形	思判表	記述	33.2	34.7	0.0

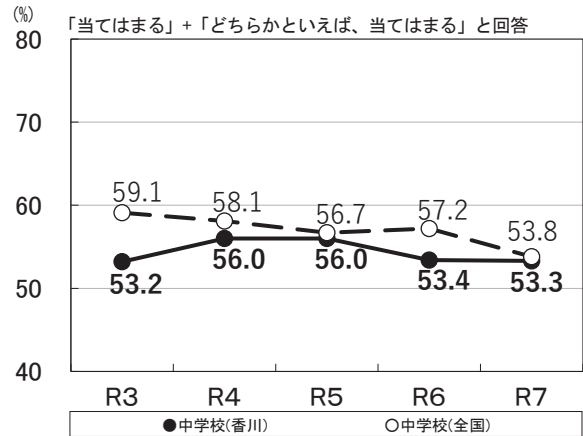
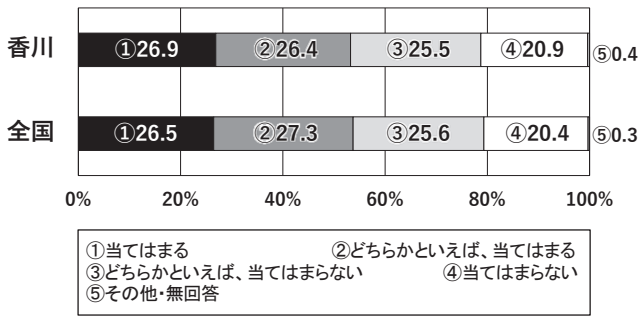
【領域】	【評価観点】	【問題形式】
数と式 図形 関数 データの活用	: 数式 : 図形 : 関数 : デ活	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に取り組む態度
	: 知技 : 思判表 : 主体	選択式: 選択 短答式: 短答 記述式: 記述

■中学校数学に関わる質問の全国との比較

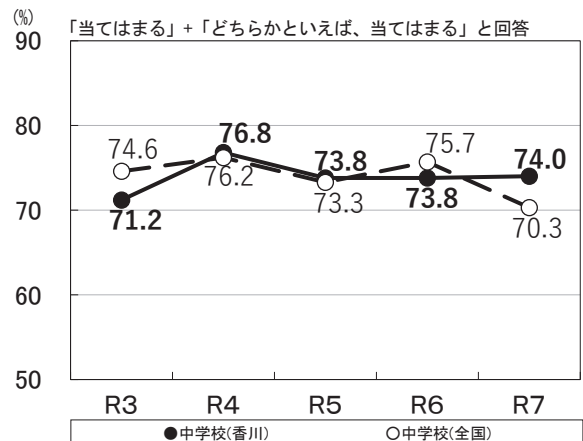
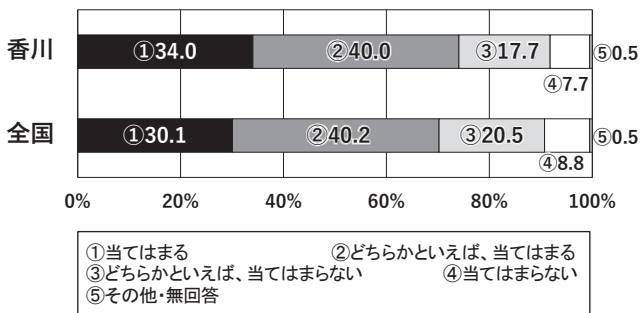


※肯定的な回答とは、回答選択肢1+2を指す。(回答選択肢一覧…P104)

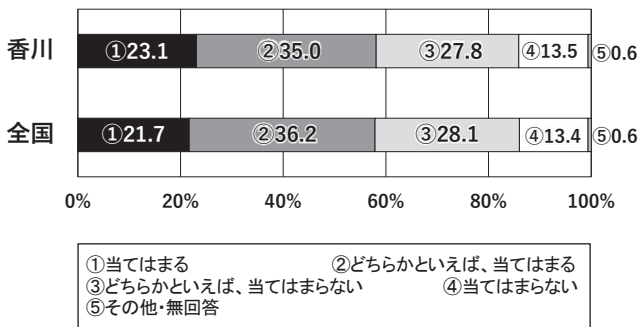
□53 数学の勉強は好きですか



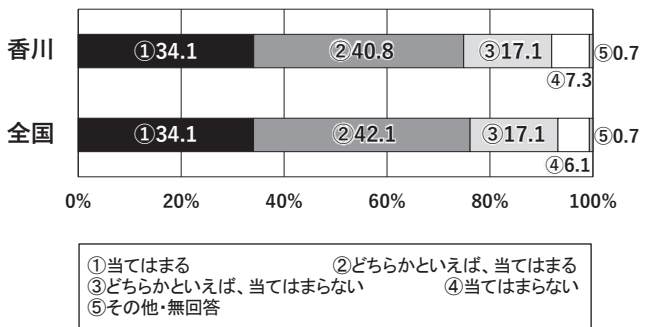
□54 数学の授業の内容はよく分かりますか



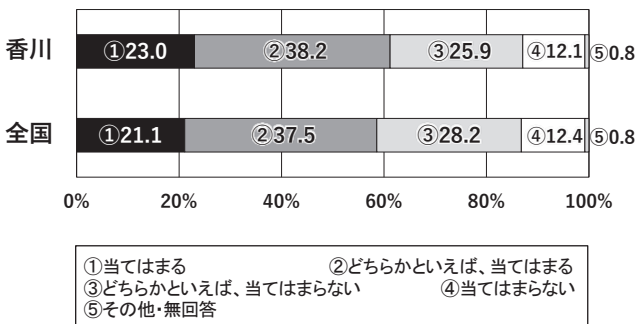
□56 数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか



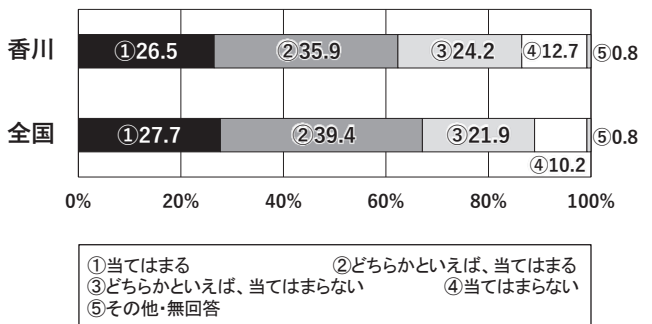
□57 数学の問題の解き方が分からないときは、あらかじめいろいろな方法を考えますか



□58 数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか



□59 文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか

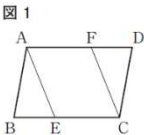


見通しをもって構想に基づいて証明することや条件が変わった場合について統合的・発展的に考察することができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

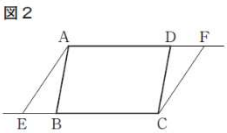
中学校 数学 9 (2) (3)

- 9 右の図1のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DA上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。
- このとき、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。



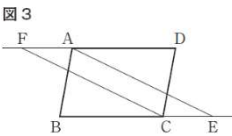
(途中省略)

- (2) 次の図2のように、平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとつても、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、前ページの証明1の一部を書き直すことで証明できます。書き直すが必要な部分を、下のアからオまでの中から1つ選び、正しく書き直さない。



ア	平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、 $AD \parallel BC$ よって、 $AF \parallel EC$ ……①
イ	平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、 $AD = BC$ ……②
ウ	仮定より、 $DF = BE$ ……③
エ	②、③より、 $AD - DF = BC - BE$ ……④
オ	④より、 $AF = EC$ ……⑤
	①、⑤より、 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、 四角形AECFは平行四辺形である。

- (3) 次の図3のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上に、 $BE = DF$ となる点E、Fをそれぞれとります。



このとき、四角形FCEAは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。

証明2

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
 $AD \parallel BC$
よって、 $FA \parallel CE$ ……①
平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
 $AD = BC$ ……②
仮定より、
 $DF = BE$ ……③
②、③より、
 $DF - AD = BE - BC$ ……④
④より、
 $FA = CE$ ……⑤
①、⑤より、
1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
四角形FCEAは平行四辺形である。

問題番号	解答類型	香川 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正答
1	エを選択 ②、③より、 $AD + DF = BC + BE$ …④と記述しているもの。(AF=ECが導けるものを含む)	36.8	36.3	◎
2	上記以外の解答	12.1	12.5	
3	無解答	6.1	6.0	
4	オを選択 AF=ECが成り立つ根拠を記述し、 AF=EC…⑤と記述しているもの。	0.0	0.0	◎
5	上記以外の解答	4.0	4.2	
6	無解答	3.0	2.8	
7	アを選択し、記述しているもの。	6.5	6.2	
8	イを選択し、記述しているもの。	7.3	8.4	
9	ウを選択し、記述しているもの。	5.9	5.3	
10	ア、イ、ウのいずれかを選択し、無解答であるもの。	10.6	10.7	
99	上記以外の解答	0.4	0.5	
0	無解答	7.3	7.2	
	正答率	36.8	36.3	

問題番号	解答類型	香川 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正答
	(正答の条件) 次の(a)、(b)、(c)、とそれぞれの根拠を記述し、証明しているもの。 (a) $AG \parallel HC$ (b) $GC \parallel AH$ (c) 四角形AGCHは平行四辺形である。			
1	(a)、(b)、(c)とそれぞれの根拠を記述しているもの。	17.3	16.7	◎
2	(a)、(b)、(c)について記述しているが、表現が十分でないもの。	7.9	7.5	○
3	上記1、2以外で、正しく証明しているもの。	3.4	3.5	◎
4	上記3について、表現が十分でないもの。	4.6	5.5	○
5	(a)、(b)、(c)について記述しているが、証明に誤りを含んでいるもの。	1.0	1.0	
6	(a)、(b)について記述しているもの。	2.9	3.3	
7	(c)のみを記述しているもの。	9.4	9.5	
8	上記6、7について、証明に誤りを含んでいるもの。	1.9	2.1	
99	上記以外の解答	16.9	19.5	
0	無解答	34.7	31.5	
	正答率	33.2	33.2	

さらに、次の図4のように、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとすると、四角形AGCHも平行四辺形になります。

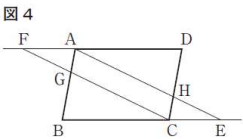


図4において、四角形AGCHが平行四辺形になることは、2組の向かい合う辺がそれぞれ平行であることを示すことで証明できます。四角形AGCHが平行四辺形になることを証明しなさい。ただし、四角形FCEAが平行四辺形であることはすでにわかっていることとします。

- [9](2)は統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は36.8%であり、全国の正答率を0.5pt上回っているが、低い状況にあり、課題がある。誤答の中では、解答類型2、3の「エを選択しているが $AF=EC$ が導けていないもの（無解答を含む）」の反応率の合計が18.2%と高い。元の証明を振り返って、書き直すことが必要な部分は捉えているが、変えた条件を書き直すことができなかった生徒がいると考えられる。平成30年度【中学校】数学B[4](2)は同じ趣旨の問題で本県の正答率は43.0%であった。また、今回の解答類型2、3と同じ趣旨の解答類型2、3の反応率の合計は15.9%と同様の傾向が見られる。よって、引き続き、条件を的確にとらえ、それを表現する力を育成する指導の充実を図る必要があると考えられる。
- [9](3)はある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は33.2%であり、全国の正答率と同等であるが、低い状況にあり、課題がある。誤答の中では、解答類型7の平行四辺形 $AGCH$ が平行四辺形であることのみを記述しているものの反応率が9.4%と高い。問題文の中から結論を見つけることはできるが、根拠を記述することが苦手な生徒がいると考えられる。また、本県の無解答率は34.7%で、他の問題と比較しても高い数値である。

授業改善のポイント

【条件を変えた場合について、元の証明を振り返りながら見通しをもって証明できるようにする】

問題に示された条件を変えた図形の性質を考察する場合、元の問題の証明を振り返りながら、見通しをもって証明する場面を設けることが大切である。

[9](2)を使って授業を行う際には、「四角形 $AECF$ は平行四辺形になる」という結論を示すために必要な条件や性質を捉えて、元の証明を振り返って共通点、類似点、相違点を見つけることで、見通しをもって証明する場面を設定することが考えられる。その際、一人一台端末でデジタル教材や作図ツールを活用して、元からの条件である $BE=DF$ は変えないとすると、点をとる位置を変えても四角形 $AECF$ は平行四辺形になることを確認する活動を設定することも有効である。このように、ICT機器等を用いて図形を動的に動かすことで、変化するものと変化しないものを視覚的に見いだしていく活動が大切である。

【条件を変える前と後の2つの証明を比べ、条件の違いに着目し、2つの図形の違いを考察できるようにする】

証明を読み、結論を導くために必要な条件や性質を生徒が捉えることができる場面を設定し、問題の条件を変えて、発展的に考えることができるように指導することが大切である。

[9](2)を使って授業を行う際には、「平行四辺形 $ABCD$ の辺 BC 、 DA 上に $BE=DF$ となる点 E 、 F をそれぞれとる」から「平行四辺形 $ABCD$ の辺 CB 、 AD を延長した直線上に $BE=DF$ となる点 E 、 F をそれぞれとる」という条件に変えることで、四角形 $AECF$ がどのような四角形となるかを明らかにする場面を設定する。点 E 、 F を辺上にとるか延長線上にとるかという条件の違いに着目することで、その違いが図や証明の中でどのように表れているか確認する活動を取り入れることが考えられる。その際、条件を変えても、図の中で変わらない部分を確認し、その上で、 $AF=EC$ であることの根拠を示すために、「 $AD-DF=BC-BE$ 」から「 $AD+DF=BC+BE$ 」に変えなくてはならないことや他の部分は変えなくてもよいことを確認できるようにすることが大切である。

このような過程を生徒が経験することで、書いた証明を振り返り、ある条件に着目して「～でないならどうなるのか」と意図的に条件を変える発展的に考察する機会になると考えられる。

【付加された条件から新たな事柄を見つけ、構想に基づいて証明できるようにする】

新たに条件を加えた際に、前提に当たる条件と、それによって説明される結論を明確にする活動を取り入れ、付加した条件から見つけた事柄を数学的に表現するためには、成り立つ事柄とその根拠を理解することが大切である。

[9](3)を使って授業を行う際には、平行四辺形 $FCEA$ から見つけられる新たな性質である $GC \parallel AH$ が成り立つことを確認し、平行四辺形 $AGCH$ を証明するために必要なもう1つの根拠である $AG \parallel HC$ とともに説明し伝え合う活動を取り入れることが考えられる。その際、前提である「平行四辺形 $ABCD$ 」「 $BE=DF$ 」「平行四辺形 $FCEA$ 」やその性質を明確にし、結論である「四角形 $AGCH$ は平行四辺形」をどのような筋道を立てて考えるかについて話し合わせたい。

また、(1)、(2)の問題と関連付けて条件や図形の共通点や相違点に触れることで、問題状況の構造を統合的に考察することが大切である。

6 中学校理科

概 要

理科について、平均 IRT スコアは、おおむね全国と同等である。

■令和 7 年度平均正答数の集計値

【1】

中学校理科	生徒数	平均正答数 / 設問数	標準偏差
香川（公立）	6,909	2.9 / 6	1.4
全国（公立）	864,634	2.9 / 6	1.4

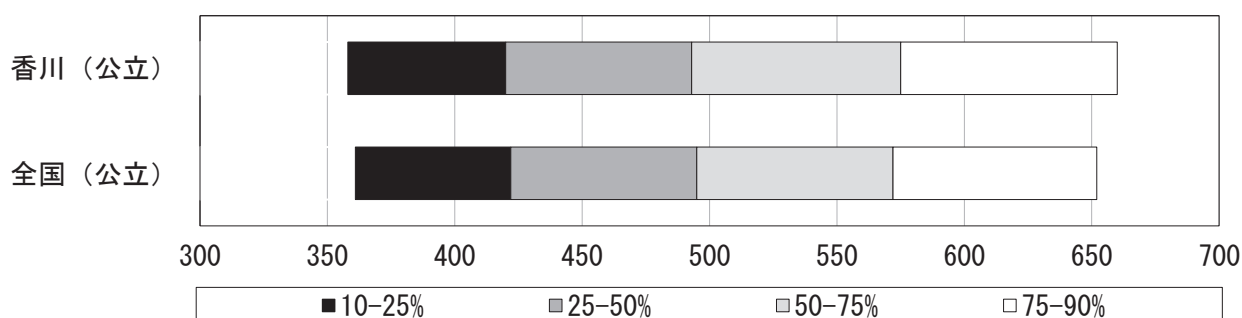
【2】～【9】

中学校理科	【2】、【9】	【5】、【8】	【3】、【6】	【4】、【7】
香川（公立）	2.0 / 4	1.8 / 4	2.3 / 4	2.3 / 4
全国（公立）	2.0 / 4	1.9 / 4	2.3 / 4	2.3 / 4

■令和 7 年度 IRT スコアの集計値

中学校理科	平均 IRT スコア	標準偏差	パーセンタイル値				
			10%	25%	50%	75%	90%
香川（公立）	504	128.5	358	420	493	575	660
全国（公立）	503	124.0	361	422	495	572	652

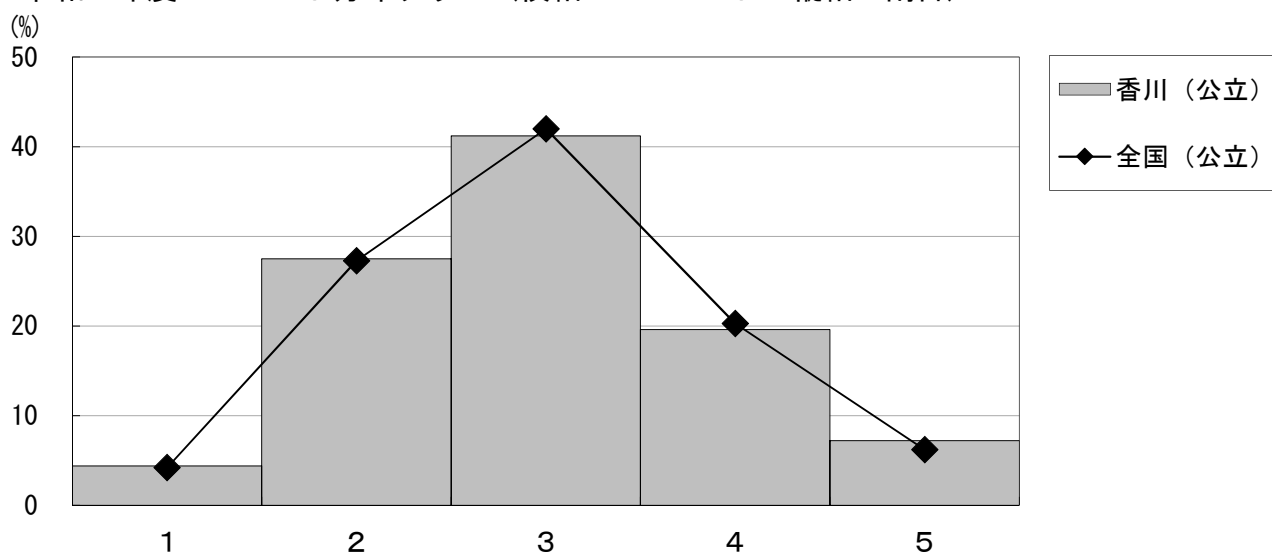
■令和 7 年度 IRT スコア分布グラフ（パーセンタイル値：10%、25%、50%、75%、90%）



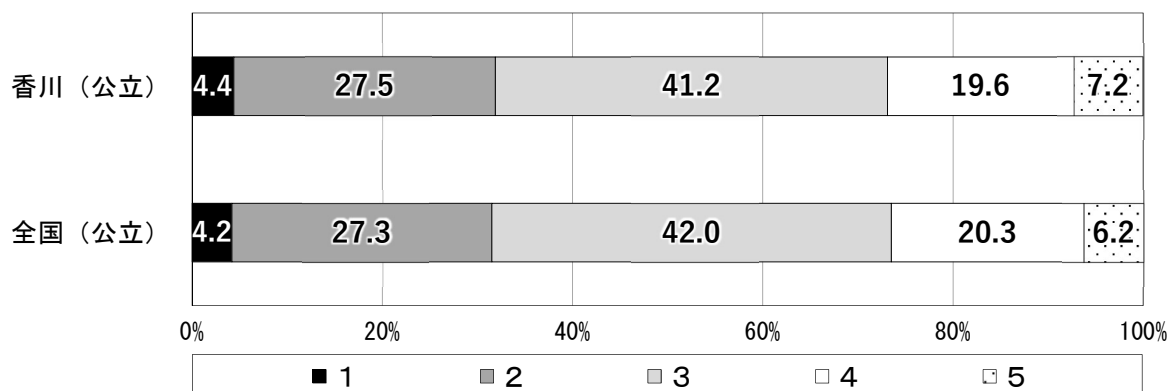
■令和7年度 IRT バンド集計値

IRT バンド	生徒数	割合 (%)	
	香川（公立）	香川（公立）	全国（公立）
5	500	7.2	6.2
4	1,351	19.6	20.3
3	2,849	41.2	42.0
2	1,903	27.5	27.3
1	306	4.4	4.2

■令和7年度 IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド 縦軸：割合）



■令和7年度 IRT バンド分布比較



問題別調査結果【理科】

問題別集計結果（公開問題）

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		問 題 の 難 易 度	対象生徒数	
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	香川県（公立）	全国（公立）	香川県（公立）	全国（公立）		香川県（公立）	全国（公立）
1 (1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ㊦				○			○			51.7	51.9	0.2	0.2	5	6,909	864,634
1 (2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる	(2) (7) ㊦					○				○	50.2	46.2	6.3	8.0	5	6,909	864,634
1 (3)	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	露頭のどの位置から水が染み出するかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる				(2) (7) ㊦		○		○			36.0	36.2	0.7	0.6	5	6,909	864,634
1 (4)	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる		(3) (7) ㊦			○			○			33.9	29.7	0.3	0.2	5	6,909	864,634
1 (5)	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ㊦				○				○		42.8	44.9	7.3	8.5	4	6,909	864,634
1 (6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる	(2) (7) ㊦					○				○	80.1	79.4	8.3	9.9	3	6,909	864,634
2 (1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	(1) (7) ㊦					○				○	12.5	14.0	2.0	1.9	5	1,785	203,127
2 (2)	「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめるを行う学習活動の場で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) ㊦				○			○			93.4	94.6	0.3	0.1	2	1,785	203,127
3 (1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	(3) (7) ㊦					○		○			38.4	34.9	0.3	0.2	5	1,789	220,884
3 (2)	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ㊦				○			○			84.1	85.2	0.2	0.1	2	1,789	220,884
4 (1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大きさを判断し、小さい順に並べる	ガス管輸送の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる	(2) (7) ㊦					○		○			49.4	50.4	0.1	0.1	4	1,673	220,314
4 (2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(2) (7) ㊦				○			○			91.4	92.8	0.1	0.1	2	1,673	220,314
5 (1)	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	加熱を伴う実験における実験器具の操作に関する技能が身に付いているかどうかを見る	(2) (7) ㊦				○			○			92.4	93.0	0.1	0.1	1	1,662	220,309
5 (2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる	(4) (4) ㊦					○				○	35.4	35.6	3.9	4.6	4	1,662	220,309
6 (1)	牧野富太郎の「ノジグク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) ㊦				○			○			61.0	65.9	0.3	0.2	4	1,789	220,884
6 (2)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる	(3) (4) ㊦					○		○			44.9	41.9	0.3	0.1	4	1,789	220,884
7 (1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる	(3) (7) ㊦					○		○			35.0	34.8	0.3	0.2	5	1,673	220,314
7 (2)	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されること、同じ化学変化であるものを選択する	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ㊦	(3) (7) ㊦			○			○			53.7	51.6	0.0	0.2	5	1,673	220,314
8 (1)	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分ればよいか」に着目して記述する	地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる			(2) (4) ㊦			○				○	38.7	42.2	3.1	3.2	4	1,662	220,309
8 (2)	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる		(2) (4) ㊦			○			○			16.8	18.1	1.0	1.1	5	1,662	220,309
9 (1)	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見過しについて分析して解釈できるかどうかをみる		(4) (7) ㊦			○			○			33.9	31.8	0.4	0.3	5	1,785	203,127
9 (2)	クリーンルームのほかに気圧を利用している身近な事象を選択する	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ㊦				○			○			58.8	58.1	0.7	0.3	4	1,785	203,127

■正答率が全国より 3 pt 以上高い問題

【中学校理科】（公開問題 22 問中 4 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	粒子	思判表	記述	50.2	6.3	4.0
1(4)	生物 1 から生物 4 までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	生命	知技	選択	33.9	0.3	4.2
3(1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	エネ	思判表	選択	38.4	0.3	3.5
6(2)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	生命	思判表	選択	44.9	0.3	3.0

■正答率が全国より 3 pt 以上低い問題

【中学校理科】（公開問題 22 問中 2 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
6(1)	牧野富太郎の「ノジギク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	生命	知技	選択	61.0	0.3	▲4.9
8(1)	大地の変化に関する言い伝えを 1 つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する	地球	思判表	記述	38.7	3.1	▲3.5

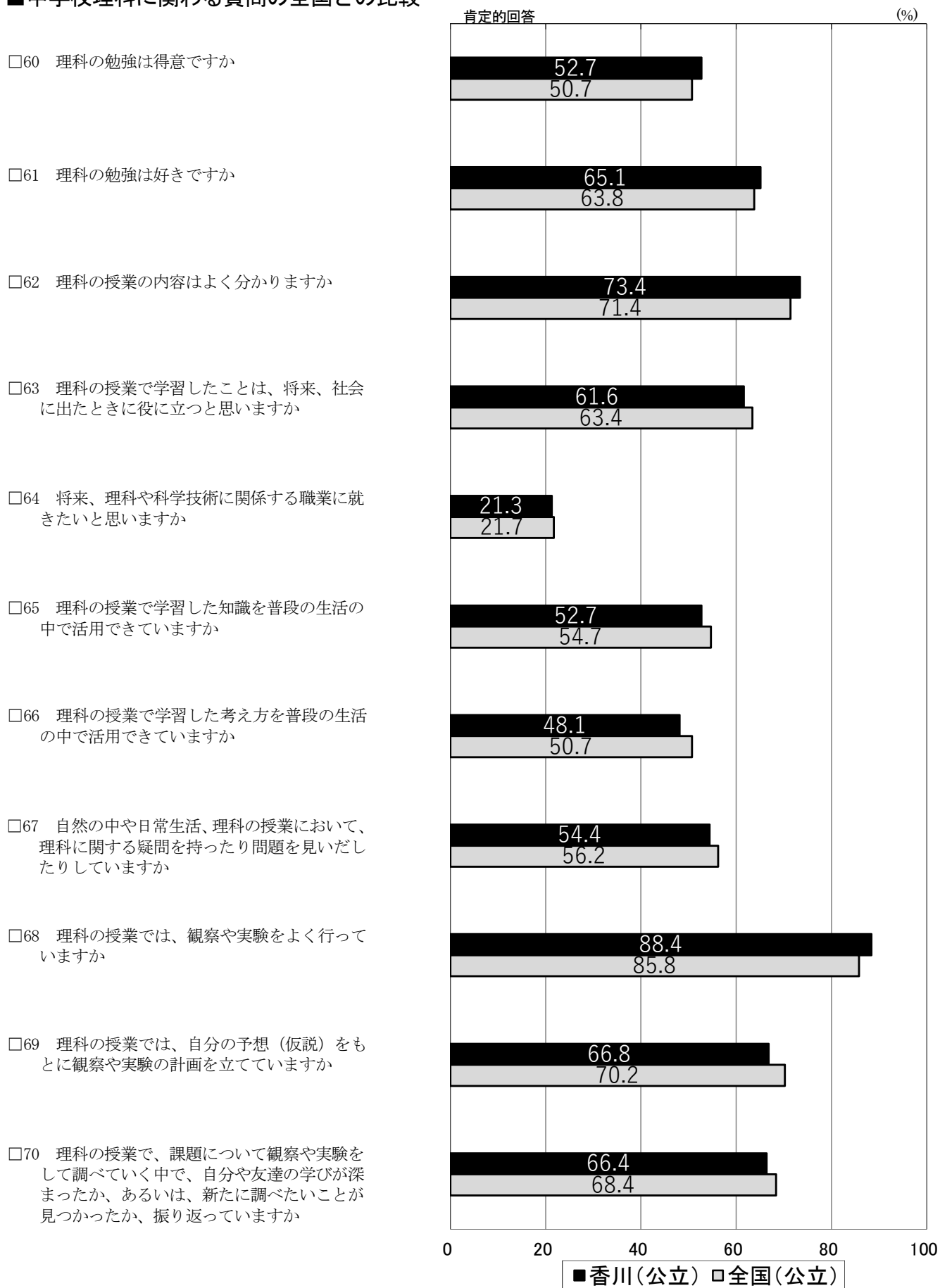
■正答率が低い問題（50%未満）

【中学校理科】（公開問題 22 問中 12 問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	香川正答率(%)	香川無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(3)	地層 1 から地層 4 までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	地球	思判表	選択	36.0	0.7	▲0.2
1(4)	生物 1 から生物 4 までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	生命	知技	選択	33.9	0.3	4.2
1(5)	塩素の元素記号を記述する	粒子	知技	短答	42.8	7.3	▲2.1
2(1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	エネ	思判表	記述	12.5	2.0	▲1.5
3(1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	エネ	思判表	選択	38.4	0.3	3.5
4(1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の実験の密度の大小を判断し、小さい順に並べる	粒子	思判表	選択	49.4	0.1	▲1.0
5(2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	粒子	思判表	記述	35.4	3.9	▲0.2
6(2)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	生命	思判表	選択	44.9	0.3	3.0
7(1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	生命	思判表	選択	35.0	0.3	0.2
8(1)	大地の変化に関する言い伝えを 1 つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分かればよいか」に着目して記述する	地球	思判表	記述	38.7	3.1	▲3.5
8(2)	A さんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	地球	思判表	記述	16.8	1.0	▲1.3
9(1)	【予想】から学習した内容が反映された A さんの【振り返り】を読み、A さんの【予想】を判断し、選択する	地球	思判表	選択	33.9	0.4	2.1

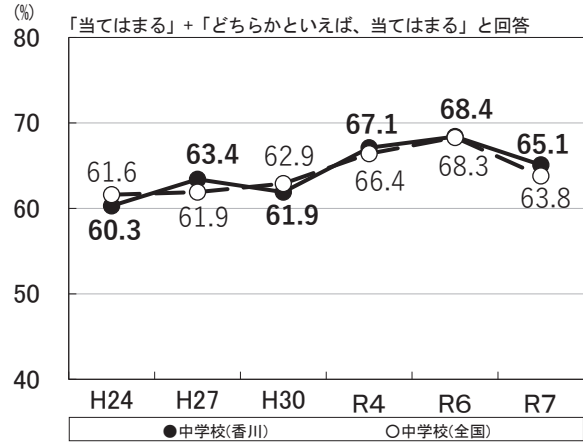
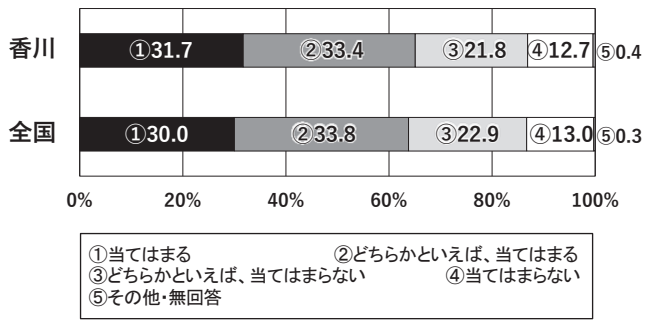
【領域】	【評価観点】	【問題形式】
エネルギー 粒子 生命 地球	：エネ ：粒子 ：生命 ：地球	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に取り組む態度
	：知技 ：思判表 ：主体	選択式：選択 短答式：短答 記述式：記述

■中学校理科に関わる質問の全国との比較

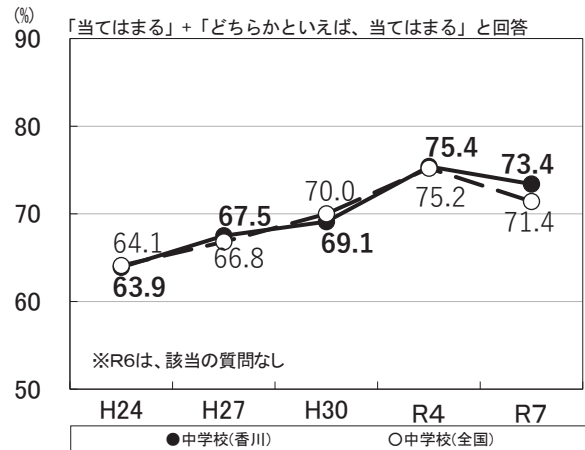
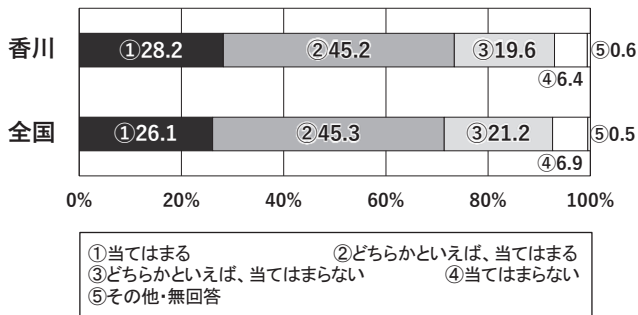


※肯定的な回答とは、回答選択肢 1 + 2 を指す。(回答選択肢一覧…P104)

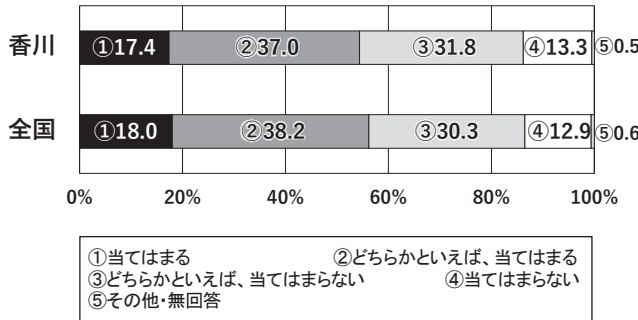
□61 理科の勉強は好きですか



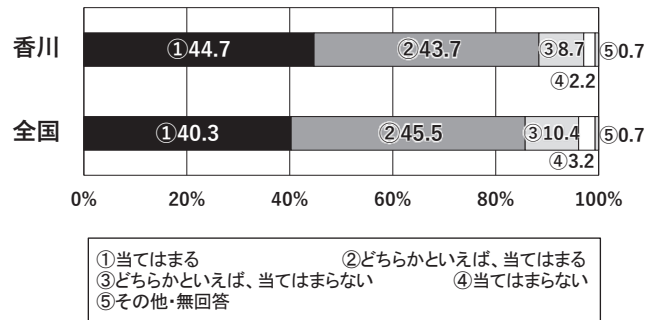
□62 理科の授業の内容はよく分かりますか



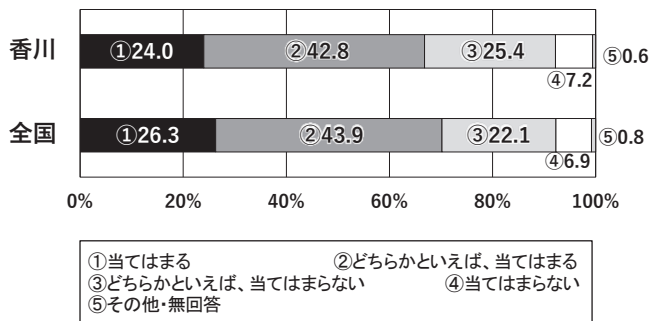
□67 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか



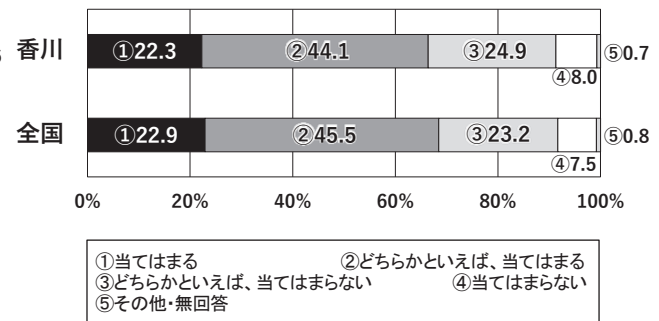
□68 理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか



□69 理科の授業では、自分の予想(仮説)をもとに観察や実験の計画を立てていますか



□70 理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか



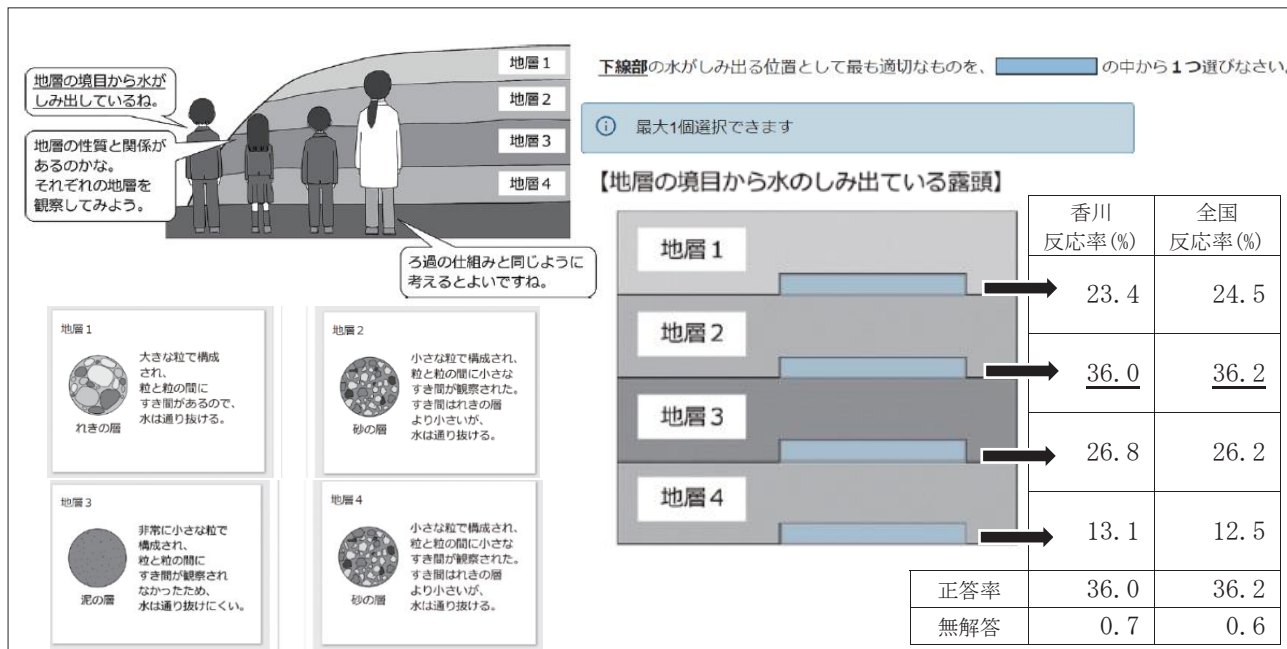
中学校理科

調査結果から授業改善へ

身に付けた知識を身近な現象で活用できる程度に概念を理解できるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 理科 1 (3)



分析・考察

- 本問題は露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識・技能を関係付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる問題である。本県の正答率は36.0%であり、全国の正答率を0.2pt下回っている。
- 各地層の特徴を示した添付資料には、小学校で学習した粒の大きさと染み込み方について詳しく記されている。しかし、各地層の特徴と水が染み出る位置を関連付けて考えられていないと推察される。

授業改善のポイント

【身の回りの事象と関連させる「学習場面」を設定することで、主体的に探究することができるようにする】

理科では、身に付けた知識及び技能を活用して、身の回りの事象を主体的に探究することが大切である。指導に当たっては、地域の湧き水が出ているところや井戸、あるいは有名な天然水の産地などに関連付けて探究する場面を設定することが考えられる。学んだことを日常生活や自然の特定の場面につなげて考えることで学ぶ意義や自然への畏敬の念を感じることができる。

【これまで学んできた基礎的な概念を様々な場面に適用できるようにする】

小学校4年で学習する「粒の大きさと水の染み込み方の関係」を様々な場面に当てはめていく場をもつことも有効である。例えば、エンジン畑には水はけがよい方が適しているので粒の大きな砂を利用している。逆に、稲作には水をためる必要があるので粒の小さい泥を利用している。また、湿地や湿原に関連付けたり、そこで育つ水芭蕉や蓮などの植物に関係付けたりしてもおもしろい。

【地層や湧き水をイメージできるように ICT を有効に活用する】

地層の露頭は実物を目にすることが少ない上、大きさや広がり、生成年月など空間的・時間的なスケールが極めて大きく、理科室でのモデル実験を経験しても関係付けて考えることが難しい。ICTを活用することで現物の理解を補いたい。

中学校理科

調査結果から授業改善へ

考察の妥当性を高めるため追加の実験を構想できるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 理科 2(1)

理科の授業で、ストローと水の入っているペットボトルで楽器をつくり、音について科学的に探究しています。

(1)、(2)の各問いに答えなさい。

ストローを上下に動かしたら音の高さが変わりました。

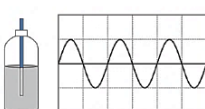


ストローの中に息を吹き込むと音が出るのは、ストローの中の空気が振動したからだよね。

音の振動の様子をオシロスコープで調べてみよう。

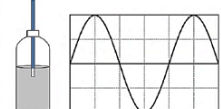
【実験】「ストロー内の空気が入る長さ（の部分）」を変えて実験を行ったときのオシロスコープの波形を観察しました。

実験1



オシロスコープの波形

実験2



オシロスコープの波形

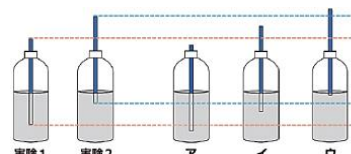


右のように【考察】しました。

【考察】「ストロー内の空気が入る長さ（の部分）」が、長くなるにつれて、音はだんだん低くなる。



【考察】をより確かなものにするためには、あと1つ実験を行うとよいですね。次のア、イ、ウのどれで実験を行えばよいのかな。



ストローの高さが分かるように補助線を引いている

(1)

正答率について、【考察】をより確かなものにするために1つ実験を追加するとしたら、上のア、イ、ウのうち、あなたはどの実験を選びますか、1つ選びなさい。

上のア、イ、ウのどの実験を選んでいいかわかりません。

また、上で選んだ実験を行ったときに、オシロスコープの波形から何が分かればよいのか、振動数という言葉を使って書きなさい。

ア、イ、ウのいずれかを選択し、振動数という言葉を使用している	香川 反応率(%)	全国 反応率(%)	解答類型
アを選択し、振動数が 実験1 より多いことを記述している	4.3	3.4	1、2
イを選択し、振動数が 実験1 と 実験2 の間であることを記述している	4.2	5.5	6
ウを選択し、振動数が 実験2 より少ないことを記述している	4.1	5.1	11、12
正答率	12.6	14.0	
無解答	2.0	1.9	

分析・考察

- 本問題は、考察をより確かなものにするために、音の高低に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる問題である。本県の正答率は12.6%であり、全国の正答率を1.4pt下回っている。
- 考えるべき要因（ストローの長さ）と振動数の関係性から見てきた規則性をより確かなものにするための追加実験を構想する場面である。しかし、正しく2つの要因を捉えられていなかったり、また、関係のない要因である振幅について指摘したりといった誤答もあった。このことから、課題を解決するための適切な実験を計画することに課題があると考えられる。

授業改善のポイント

【探究の過程を振り返り、調整する】

理科では、考察の妥当性を検討し、探究の過程を振り返り、探究の過程を調整して実験を計画することが大切である。また、Web ページ等の情報を適切に活用することも大切である。

授業では、ものづくりの活動を通して自然の事物・現象に疑問をもたせたり、考察の妥当性を高めるための実験や情報収集を行ったりする学習場面を設けることが考えられる。

【主体的なものづくりの活動の中でも量的・関係的な見方を大切にする】

本設問場面では、自由試行の中で、ストローを上下に動かしたら音の高さが変わることに気付いた生徒は、その理由としてストローの長さや振動数に着目した。その際、考えるべき要因を明確・共有化して、探究を始めることが大切である。初めに行った2つの実験データを比較して見てきた規則性を明らかにした上で、「2つの実験だけで結論付けていいのだろうか」「もし、この規則性が正しいのならば〇〇では△△だ」と考え、様々な場面を構想できるようにする。

【見いだした規則性を生かしている身の回りの楽器を探す】

見つけた規則性を生かしている身の回りのもの、例えば、鉄琴や木琴の共鳴管、トロンボーン、ピアノの弦、琴、等の楽器はストロー笛で見いだした規則性をうまく活用している。科学の有用性と人の知恵も合わせて感じさせたい。

V 質問調査結果

(児童生徒質問調査・学校質問調査)

1 児童生徒質問調査 結果一覧

校種の欄の1段目：香川県（公立）の割合（％） 2段目：全国（公立）の割合（％）

質問番号		R6 番号	質問事項	選択肢(質問の選択肢は、P104を参照)						その他 ※	無回答	1の差	
小	中	1		2	3	4	5	6	1+2の差				
【基本的生活習慣等】													
1	1	1	朝食を毎日食べていますか	小	82.3	11.0	4.8	1.9			0.0	0.0	-1.0
				中	83.3	10.4	4.8	1.6			0.0	0.0	-0.4
				小	77.0	13.1	6.5	3.1			0.0	0.2	-1.7
				中	78.7	12.5	6.0	2.6			0.0	0.1	-1.1
2	2	2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	小	37.1	44.4	15.3	3.1			0.0	0.0	-1.8
				中	38.9	43.0	15.1	3.0			0.0	0.0	-0.4
				小	33.1	47.0	16.7	2.8			0.0	0.4	-0.9
				中	34.0	47.0	16.1	2.7			0.0	0.3	-0.9
3	3	3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	小	54.4	36.1	8.2	1.3			0.0	0.0	-1.2
				中	55.6	35.4	7.6	1.4			0.0	0.0	-0.5
				小	53.3	38.7	6.6	0.9			0.0	0.4	-1.4
				中	54.7	37.9	6.3	0.8			0.0	0.3	-0.6
4	4	新	あなたの家では主に何語で話していますか	小	99.1	0.8					0.0	0.1	0.7
				中	98.4	1.5					0.0	0.1	0.0
				小	98.9	0.7					0.0	0.4	0.4
				中	98.5	1.2					0.0	0.3	-0.1
【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】													
5	5	9	自分には、よいところがあると思いますか	小	42.6	42.4	10.0	5.0			0.0	0.0	-4.7
				中	47.3	39.6	9.1	3.9			0.0	0.0	-1.9
				小	36.3	46.3	13.2	4.0			0.0	0.3	-4.4
				中	40.7	45.5	10.5	3.2			0.0	0.2	-3.6
6	6	10	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	小	50.6	39.8	6.9	2.7			0.0	0.1	-4.7
				中	55.3	36.9	5.8	1.9			0.0	0.1	-1.8
				小	46.0	45.3	6.8	1.6			0.0	0.3	-0.6
				中	46.6	45.6	6.0	1.5			0.0	0.3	-0.9
7	7	11	将来の夢や目標を持っていますか	小	62.2	22.7	9.2	5.8			0.0	0.0	1.5
				中	60.7	22.4	10.3	6.6			0.0	0.0	1.8
				小	32.9	32.0	23.3	11.2			0.0	0.6	-2.6
				中	35.5	32.0	21.9	10.2			0.0	0.4	-2.6
8	8	12	人が困っているときは、進んで助けていますか	小	45.3	47.9	5.8	1.0			0.0	0.0	-3.9
				中	49.2	44.5	5.4	0.9			0.0	0.1	-0.5
				小	34.4	55.1	8.9	1.2			0.0	0.5	-3.5
				中	37.9	53.0	7.8	0.9			0.0	0.5	-1.4
9	9	13	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	小	82.2	14.7	2.2	0.8			0.0	0.1	0.8
				中	81.4	15.8	2.1	0.7			0.0	0.1	-0.3
				小	77.7	18.0	2.7	0.9			0.0	0.6	0.6
				中	77.1	18.8	2.7	0.8			0.0	0.5	-0.2
10	10	14	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	小	30.2	36.8	22.9	10.1			0.0	0.0	-2.9
				中	33.1	37.5	20.5	8.8			0.0	0.1	-3.6
				小	32.9	40.2	18.8	7.5			0.0	0.6	1.0
				中	31.9	41.3	19.1	7.3			0.0	0.5	-0.1
11	11	15	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	小	74.7	21.6	2.7	0.9			0.0	0.0	1.0
				中	73.7	22.7	2.6	1.0			0.0	0.1	-0.1
				小	70.9	25.5	2.3	1.1			0.0	0.2	-0.4
				中	71.3	25.3	2.4	0.8			0.0	0.2	-0.2
12	12	16	学校に行くのは楽しいと思いますか	小	48.7	36.9	9.3	5.1			0.0	0.0	-1.2
				中	49.9	36.6	9.1	4.3			0.0	0.1	-0.9
				小	45.0	39.2	11.5	4.0			0.0	0.3	-0.6
				中	45.6	40.5	9.9	3.7			0.0	0.2	-1.9
13	13	17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	小	31.8	45.8	16.9	5.4			0.0	0.1	-0.8
				中	32.6	45.5	17.1	4.7			0.0	0.1	-0.5
				小	31.5	46.7	17.9	3.5			0.0	0.5	0.1
				中	31.4	47.8	17.1	3.3			0.0	0.4	-1.0
14	14	18	友達関係に満足していますか	小	63.3	28.3	6.5	1.9			0.0	0.1	-0.9
				中	64.2	27.5	6.2	2.0			0.0	0.1	-0.1
				小	56.0	35.6	6.3	1.6			0.0	0.4	-0.4
				中	56.4	35.0	6.6	1.7			0.0	0.4	0.2
15	15	19	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	小	50.3	41.8	6.9	1.0			0.0	0.1	-4.2
				中	54.5	38.5	6.1	0.8			0.0	0.1	-0.9
				小	43.3	47.3	8.3	0.7			0.0	0.5	-3.1
				中	46.4	45.2	7.3	0.7			0.0	0.4	-1.0
【学習習慣、学習環境等】													
16	16	20	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか	小	29.0	49.5	18.2	3.3			0.0	0.1	-3.6
				中	32.6	49.1	15.3	2.8			0.0	0.1	-3.2
				小	27.3	49.0	19.8	3.5			0.0	0.5	-0.1
				中	27.4	50.1	19.2	2.8			0.0	0.4	-1.2
17	17	21	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	小	8.7	13.5	29.6	28.9	13.9	5.3	0.0	0.1	-3.4
				中	12.1	12.8	29.1	27.4	12.9	5.7	0.0	0.1	-2.7
				小	8.8	18.8	32.8	20.7	11.5	7.0	0.0	0.5	-1.1
				中	9.9	20.9	30.8	19.1	11.3	7.7	0.0	0.4	-3.2
18	18	4	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)	小	4.7	5.1	10.3	19.7	30.8	29.3	0.0	0.1	0.7
				中	4.0	4.6	11.0	22.9	32.0	25.4	0.0	0.1	1.2
				小	2.7	3.0	6.8	15.0	35.7	35.1	0.0	1.7	0.0
				中	2.7	3.2	7.8	17.9	35.9	30.3	0.0	2.2	-0.2
19	19	22	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	小	4.0	4.1	9.9	26.6	36.9	18.3	0.0	0.2	-3.4
				中	7.4	4.4	9.7	25.6	35.2	17.5	0.0	0.1	-3.7
				小	4.7	6.7	17.9	28.4	26.4	14.0	0.0	1.9	-0.6
				中	5.3	8.5	18.7	25.4	24.1	15.4	0.0	2.6	13.8
20	20	R5 19	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか(オンライン授業の場合も含む)	小	57.9	18.0	7.4	7.9	8.6		0.0	0.2	2.0
				中	55.9	22.6	6.3	6.8	8.2		0.0	0.2	-2.6
				小	39.3	17.4	11.5	23.5	5.9		0.0	2.3	-0.9
				中	40.2	19.1	9.7	23.2	4.9		0.0	2.9	-2.6
21	21	R5 20	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	小	6.9	8.8	16.4	22.7	16.4	28.7	0.0	0.1	0.5
				中	6.4	8.8	15.9	22.1	17.4	29.2	0.0	0.1	0.5
				小	3.8	6.7	11.3	16.3	13.7	45.8	0.0	2.4	0.2
				中	3.6	6.0	11.8	19.0	14.8	41.8	0.0	3.1	0.9

※「R6番号」欄の「新」は、R7年度に新たに問われた質問。「R5～」は、R6年度にはなかったが、R5にはあった質問。

※【その他】とは、「選択肢以外の解答や複数回答」されたものである。

※ランダム方式で実施した生徒質問 (30-1)～(30-7)、(71-1)～(71-4)、(72-1)～(72-5)、(理1-1)～(理1-4)は集計から除外している。

質問番号		R6 番号	質問事項		選択肢(質問の選択肢は、P104を参照)						その他 ※	無回答	1の差 1+2の差
小	中				1	2	3	4	5	6			
22	22	23	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか (雑誌、新聞、教科書は除く)	小	14.0	22.0	33.4	15.9	10.0	4.6	0.0	0.1	-1.1
				中	15.1	21.7	32.2	16.4	10.2	4.3	0.0	0.1	-0.8
					17.5	21.3	31.5	14.5	9.3	3.5	0.0	2.4	0.1
					17.4	21.5	30.8	14.8	9.4	3.0	0.0	3.1	-0.1
23	23	24	新聞を読んでいますか	小	3.3	6.7	12.4	77.5			0.0	0.2	-0.2
				中	3.5	7.0	11.5	77.9			0.0	0.2	-0.5
					2.3	4.4	8.8	80.5			0.0	4.0	0.7
					1.6	4.1	7.8	82.1			0.0	4.4	1.0
24	24	R5 24	読書は好きですか	小	36.3	33.1	18.2	12.4			0.0	0.1	-0.1
				中	36.4	33.3	18.5	11.7			0.0	0.1	-0.3
					29.4	30.7	20.9	15.1			0.0	3.9	-0.9
					30.3	31.3	20.5	13.6			0.0	4.4	-1.5
【地域や社会に関わる活動の状況等】													
25	25	R4 27	これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか	小	35.8	43.7	16.9	3.5			0.0	0.0	-0.9
				中	36.7	43.9	16.3	3.0			0.0	0.1	-1.1
					33.3	42.8	19.7	3.9			0.0	0.3	1.8
					31.5	44.2	20.1	3.9			0.0	0.3	0.4
26	26	R4 28	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあります(習い事は除く)	小	16.6	23.0	31.4	28.9			0.0	0.1	-0.1
				中	16.7	22.7	32.0	28.6			0.0	0.1	0.2
					13.0	17.7	35.0	33.8			0.0	0.5	1.3
					11.7	17.8	34.3	36.0			0.0	0.3	1.2
27	27	25	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	小	33.9	47.0	15.0	4.1			0.0	0.0	0.1
				中	33.8	47.5	14.2	4.4			0.0	0.1	-0.4
					23.1	51.2	19.4	6.0			0.0	0.4	0.7
					22.4	52.9	18.8	5.6			0.0	0.3	-1.0
【ICTを活用した学習状況】													
28	28	27	5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	小	15.2	17.8	29.4	22.5	11.5	3.5	0.0	0.1	-9.3
				中	24.5	22.2	25.0	18.0	7.2	3.1	0.0	0.1	-13.7
					15.2	15.9	21.9	24.6	15.8	6.1	0.0	0.5	-14.3
					29.5	23.7	23.3	15.7	5.3	2.0	0.0	0.4	-22.1
29-1	29-1	新	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する(文字、コメントを書くなど)ことができますか	小	32.3	44.3	18.2	5.1			0.0	0.1	-7.0
				中	39.3	42.5	14.5	3.6			0.0	0.2	-5.2
					29.5	47.5	17.6	4.3			0.0	1.1	-6.9
					36.4	47.2	12.8	2.7			0.0	0.9	-6.6
29-2	29-2	新	あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができますか	小	46.9	41.6	9.4	2.0			0.0	0.1	-3.7
				中	50.6	39.2	8.4	1.7			0.0	0.1	-1.3
					44.6	44.3	8.2	1.7			0.0	1.3	-3.8
					48.4	43.1	6.4	1.1			0.0	1.1	-2.6
29-3	29-3	新	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができますか	小	21.5	40.2	32.0	6.3			0.0	0.1	-5.4
				中	26.9	42.4	25.7	4.9			0.0	0.1	-7.6
					16.8	37.1	36.0	8.8			0.0	1.3	-4.3
29-4	29-4	新	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますか	小	21.1	42.2	29.8	5.7			0.0	1.2	-9.4
				中	30.2	38.5	24.6	6.6			0.0	0.1	-8.4
					38.6	38.1	18.2	5.0			0.0	0.1	-8.0
					23.2	40.0	26.6	9.0			0.0	1.2	-8.6
					31.8	44.8	17.7	4.7			0.0	1.1	-13.4
30-1	28-1		5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	小	26.5	51.8	18.6	3.0			0.0	0.1	-4.5
					31.0	50.3	15.9	2.6			0.0	0.1	-3.0
30-2	28-2		5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(2)分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	小	52.7	35.3	10.1	1.8			0.0	0.2	-0.3
					53.0	36.2	8.9	1.8			0.0	0.2	-1.2
30-3	28-3		5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(3)楽しみながら学習を進めることができる	小	46.7	38.8	11.6	2.8			0.0	0.1	0.1
					46.6	38.9	11.6	2.8			0.0	0.2	0.0
30-4	28-4		5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(4)画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	小	45.9	41.6	10.2	2.0			0.0	0.2	0.7
					45.2	42.9	9.7	2.0			0.0	0.1	-0.6
30-5	28-5		5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	小	29.2	46.7	19.9	4.0			0.0	0.2	-2.4
					31.6	46.0	18.6	3.6			0.0	0.2	-1.7
30-6	28-6		5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	小	40.6	43.3	12.8	3.0			0.0	0.2	-1.5
					42.1	42.5	12.4	2.8			0.0	0.2	-0.7
30-7	28-7		5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(7)友達と協力しながら学習を進めることができる	小	44.2	42.3	10.8	2.4			0.0	0.2	-2.1
					46.3	41.2	9.9	2.5			0.0	0.1	-1.0
【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】													
31	31	29	5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	小	24.3	40.5	25.6	7.9	1.6		0.0	0.1	-2.5
				中	26.8	41.8	22.7	7.0	1.6		0.0	0.1	-3.8
					14.9	37.3	30.3	14.9	2.3		0.0	0.4	-4.0
					18.9	44.1	25.5	9.0	2.0		0.0	0.5	-10.8
32	32	30	5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	小	25.3	50.3	21.1	3.1			0.0	0.1	-3.7
				中	29.0	51.3	17.1	2.6			0.0	0.1	-4.7
					21.6	52.3	21.9	3.6			0.0	0.6	-1.8
					23.4	54.3	19.0	2.7			0.0	0.6	-3.8
33	33	31	5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	小	24.8	48.6	22.8	3.7			0.0	0.1	-3.9
				中	28.7	49.1	18.9	3.2			0.0	0.2	-4.4
					18.4	48.4	27.0	5.2			0.0	1.0	-1.8
					20.2	50.4	24.0	4.2			0.0	1.1	-3.8

質問番号		R6 番号	質問事項		選択肢(質問の選択肢は、P104を参照)						その他 ※	無回答	1の差	
小	中	1			2	3	4	5	6	1+2の差				
34	34	32	5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	小	35.7	47.1	14.3	2.9			0.0	0.1	1.3	
				中	34.4	49.0	13.4	3.1			0.0	0.2	-0.6	
					23.9	56.3	15.6	3.0			0.0	1.1	1.8	
					22.1	57.2	16.5	3.1			0.0	1.1	0.9	
35	35	33	学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	小	39.5	44.6	12.5	2.8	0.6		0.0	0.1	-1.4	
				中	40.9	44.0	11.5	2.7	0.8		0.0	0.1	-0.8	
					35.0	48.9	10.7	3.3	0.9		0.0	1.2	-0.1	
					35.1	49.6	10.5	2.5	1.1		0.0	1.2	-0.8	
36	36	34	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	小	28.4	47.6	19.7	4.1			0.0	0.1	-2.8	
				中	31.2	48.2	17.1	3.3			0.0	0.2	-3.4	
					22.2	48.5	23.3	4.5			0.0	1.5	-0.8	
					23.0	50.4	21.3	3.7			0.0	1.5	-2.7	
37	37	35	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか	小	33.6	47.4	15.9	3.1			0.0	0.1	-1.9	
				中	35.5	47.0	14.3	3.0			0.0	0.2	-1.5	
					23.2	49.3	21.0	4.7			0.0	1.7	-0.3	
					23.5	51.3	19.6	4.0			0.0	1.6	-2.3	
38	38	36	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	小	47.7	39.2	10.0	3.1			0.0	0.1	0.0	
				中	47.7	39.7	9.6	2.9			0.0	0.2	-0.5	
					34.6	49.3	12.1	2.3			0.0	1.7	0.8	
					33.8	50.0	12.0	2.7			0.0	1.6	0.1	
39	39	37	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	小	48.7	42.9	7.0	1.3			0.0	0.1	-1.2	
				中	49.9	42.0	6.4	1.5			0.0	0.2	-0.3	
					42.1	48.8	5.7	1.9			0.0	1.5	-3.4	
					45.5	46.4	5.3	1.3			0.0	1.6	-1.0	
【総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳】														
40	40	38	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	小	31.9	46.3	18.2	3.5			0.0	0.1	-5.6	
				中	37.5	44.8	14.5	3.0			0.0	0.1	-4.1	
					20.8	49.0	24.0	5.5			0.0	0.6	-9.0	
					29.8	49.7	16.3	3.7			0.0	0.6	-9.7	
41	41	39	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	小	37.7	46.3	13.1	2.7			0.0	0.2	1.2	
				中	36.5	46.8	13.1	3.3			0.0	0.2	0.7	
					29.4	52.6	14.0	3.3			0.0	0.6	-3.2	
					32.6	51.7	12.3	2.8			0.0	0.5	-2.3	
42	42	40	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	小	33.1	46.3	17.5	3.0			0.0	0.1	-0.9	
				中	34.0	46.8	15.6	3.5			0.0	0.2	-1.4	
					24.2	50.3	19.9	4.8			0.0	0.7	-2.3	
					26.5	50.8	17.9	4.1			0.0	0.7	-2.8	
43	43	41	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	小	46.4	41.1	10.1	2.2			0.0	0.2	-0.9	
				中	47.3	40.7	9.5	2.3			0.0	0.2	-0.5	
					48.3	42.4	6.6	2.0			0.0	0.7	-0.4	
					48.7	42.8	6.1	1.7			0.0	0.6	-0.8	
【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語)】														
44	44	新	国語の勉強は得意ですか	小	15.3	36.4	30.4	17.8			0.0	0.1	-6.0	
				中	21.3	40.1	26.6	11.9			0.0	0.1	-9.7	
					12.0	31.0	38.5	18.1			0.0	0.4	-2.3	
					14.3	37.1	34.8	13.5			0.0	0.3	-8.4	
45	45	42	国語の勉強は好きですか	小	20.0	31.6	28.3	20.0			0.0	0.1	-4.1	
				中	24.1	34.2	26.7	14.8			0.0	0.1	-6.7	
					20.5	33.1	30.9	15.1			0.0	0.4	-1.1	
					21.6	36.3	29.2	12.5			0.0	0.4	-4.3	
46	46	44	国語の授業の内容はよく分かりますか	小	29.9	47.7	16.7	5.6			0.0	0.2	-6.0	
				中	35.9	46.9	13.2	3.9			0.0	0.1	-5.2	
					23.7	50.0	20.9	4.9			0.0	0.5	-1.7	
					25.4	51.6	18.2	4.3			0.0	0.5	-3.3	
47	47	45	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小	55.5	34.8	6.7	2.8			0.0	0.1	-0.4	
				中	55.9	34.5	6.7	2.7			0.0	0.1	-0.1	
					43.9	41.4	10.1	4.0			0.0	0.5	-3.9	
					47.8	40.5	8.2	3.0			0.0	0.5	-3.0	
48	48	新	国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか	小	23.5	48.8	21.4	6.2			0.0	0.1	-4.6	
				中	28.1	50.1	16.8	4.8			0.0	0.2	-5.9	
					22.9	46.2	22.6	7.6			0.0	0.7	-2.0	
					24.9	48.0	20.1	6.2			0.0	0.7	-3.8	
49	49	新	国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてください	小	27.7	44.9	21.0	6.3			0.0	0.2	-2.1	
				中	29.8	45.7	19.1	5.2			0.0	0.2	-2.9	
					23.0	45.1	23.1	7.6			0.0	1.2	-0.9	
					23.9	46.3	22.1	6.6			0.0	1.1	-2.1	
50		48	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか	小	30.9	47.4	17.9	3.7			0.0	0.2	-3.8	
				中	34.7	47.1	15.1	2.9			0.0	0.2	-3.5	
		50	新	国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか	小	25.9	43.9	23.4	5.3			0.0	1.4	-1.0
					中	26.9	47.1	20.8	4.0			0.0	1.3	-4.2
51		新	国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか	小	26.1	50.3	19.7	3.7			0.0	0.2	-3.7	
				中	29.8	49.3	17.6	3.1			0.0	0.2	-2.7	
		51	新	国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか	小	26.4	43.4	23.4	5.5			0.0	1.3	-2.6
					中	29.0	44.6	20.7	4.5			0.0	1.2	-3.8
【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(算数・数学)】														
52	52	新	算数(数学)の勉強は得意ですか	小	31.6	27.9	21.6	18.8			0.0	0.1	0.4	
				中	31.2	29.1	22.4	17.3			0.0	0.1	-0.8	
					21.4	26.6	27.1	24.5			0.0	0.4	1.9	
					19.5	26.5	29.1	24.7			0.0	0.3	2.0	
53	53	50	算数(数学)の勉強は好きですか	小	35.4	23.5	20.1	21.0			0.0	0.1	1.7	
				中	33.7	24.2	21.5	20.6			0.0	0.1	1.0	
					26.9	26.4	25.5	20.9			0.0	0.4	0.4	
					26.5	27.3	25.6	20.4			0.0	0.3	-0.5	
54	54	52	算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか	小	40.9	35.6	15.9	7.6			0.0	0.1	-0.8	
				中	41.7	36.6	15.1	6.5			0.0	0.1	-1.8	
					34.0	40.0	17.7	7.7			0.0	0.5	3.9	
					30.1	40.2	20.5	8.8			0.0	0.5	3.7	
55	55	53	算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小	66.2	25.4	5.5	2.8			0.0	0.1	0.1	
				中	66.1	25.5	5.4	2.8			0.0	0.1	0.0	
					35.6	39.8	16.3	7.8			0.0	0.5	0.7	
					34.9	40.3	17.0	7.3			0.0	0.5	0.2	

質問番号		R6 番号	質問事項		選択肢(質問の選択肢は、P104を参照)						その他 ※	無回答	1の差 1+2の差
小	中				1	2	3	4	5	6			
56	56	新	算数(数学)の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか	小	49.9	33.5	11.8	4.7			0.0	0.1	0.9
				中	49.0	34.3	11.8	4.8			0.0	0.1	0.1
					23.1	35.0	27.8	13.5			0.0	0.6	1.4
					21.7	36.2	28.1	13.4			0.0	0.6	0.2
57	57	55	算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	小	45.2	36.3	13.7	4.6			0.0	0.2	-0.6
				中	45.8	36.5	13.0	4.6			0.0	0.1	-0.8
					34.1	40.8	17.1	7.3			0.0	0.7	0.0
					34.1	42.1	17.1	6.1			0.0	0.7	-1.3
58	58	新	算数(数学)の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	小	28.1	36.0	25.9	9.8			0.0	0.1	-1.2
				中	29.3	36.2	24.7	9.6			0.0	0.1	-1.4
					23.0	38.2	25.9	12.1			0.0	0.8	1.9
					21.1	37.5	28.2	12.4			0.0	0.8	2.6
59	59	新	小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか	小	46.7	34.3	13.1	5.7			0.0	0.2	1.0
				中	45.7	34.9	13.4	5.8			0.0	0.1	0.4
		新	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか	中	26.5	35.9	24.2	12.7			0.0	0.8	-1.2
					27.7	39.4	21.9	10.2			0.0	0.8	-4.7
【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(理科)】													
60	60	新	理科の勉強は得意ですか	小	36.0	37.1	17.8	9.0			0.0	0.1	-4.9
				中	40.9	37.5	15.3	6.2			0.0	0.1	-5.3
					19.4	33.3	31.9	15.2			0.0	0.3	2.2
					17.2	33.5	33.2	15.9			0.0	0.3	2.0
61	61	58	理科の勉強は好きですか	小	46.7	29.3	14.1	9.8			0.0	0.1	-5.0
				中	51.7	28.4	12.4	7.4			0.0	0.1	-4.1
					31.7	33.4	21.8	12.7			0.0	0.4	1.7
					30.0	33.8	22.9	13.0			0.0	0.3	1.3
62	62	R 4 63	理科の授業の内容はよく分かりますか	小	47.0	38.8	10.4	3.8			0.0	0.1	-5.4
				中	52.4	36.5	8.3	2.8			0.0	0.1	-3.1
					28.2	45.2	19.6	6.4			0.0	0.6	2.1
					26.1	45.3	21.2	6.9			0.0	0.5	2.0
63	63	R 4 65	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小	42.9	35.7	15.5	5.8			0.0	0.1	-1.4
				中	44.3	35.6	14.9	5.2			0.0	0.1	-1.3
					20.6	41.0	26.5	11.4			0.0	0.5	-2.2
					22.8	40.6	25.5	10.6			0.0	0.5	-1.8
64	64	R 4 66	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	小	11.2	15.3	32.5	40.9			0.0	0.1	-2.3
				中	13.5	16.5	31.6	38.3			0.0	0.1	-3.5
					7.4	13.9	29.5	48.5			0.0	0.6	0.1
					7.3	14.4	29.5	48.2			0.0	0.6	-0.4
65	65	新	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか	小	24.2	35.5	28.4	11.8			0.0	0.1	-3.9
				中	28.1	35.1	25.7	10.9			0.0	0.1	-3.5
	65	新	理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できていますか	中	16.0	36.7	31.3	15.3			0.0	0.7	0.1
					15.9	38.8	30.4	14.3			0.0	0.5	-2.0
	66	新	理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか	中	13.9	34.2	35.6	15.6			0.0	0.7	0.3
					13.6	37.1	34.0	14.7			0.0	0.6	-2.6
66	67	59	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか	小	29.0	36.5	24.2	10.2			0.0	0.1	-2.7
				中	31.7	37.2	22.2	8.7			0.0	0.1	-3.4
					17.4	37.0	31.8	13.3			0.0	0.5	-0.6
					18.0	38.2	30.3	12.9			0.0	0.6	-1.8
67	68	新	理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか	小	57.4	34.6	5.9	1.9			0.0	0.2	-2.2
				中	59.6	32.8	5.4	2.0			0.0	0.1	-0.4
					44.7	43.7	8.7	2.2			0.0	0.7	4.4
					40.3	45.5	10.4	3.2			0.0	0.7	2.6
68	68	新	理科の授業では、問題に対して答えがどのようなものか、自分で予想(仮説)を考えていますか	小	46.2	36.4	12.9	4.4			0.0	0.1	-3.3
				中	49.5	36.2	10.9	3.4			0.0	0.1	-3.1
69	69	R 4 68	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	小	45.7	40.0	10.7	3.5			0.0	0.1	-4.3
				中	50.0	38.4	8.9	2.7			0.0	0.1	-2.7
	69	60	理科の授業では、自分の予想(仮説)をもとに観察や実験の計画を立てていますか	中	24.0	42.8	25.4	7.2			0.0	0.6	-2.3
					26.3	43.9	22.1	6.9			0.0	0.8	-3.4
70	70	R 4 69	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	小	29.4	42.5	21.9	6.1			0.0	0.1	-4.0
				中	33.4	42.6	18.5	5.4			0.0	0.1	-4.1
	70	新	理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか	中	22.3	44.1	24.9	8.0			0.0	0.7	-0.6
					22.9	45.5	23.2	7.5			0.0	0.8	-2.0
71	71	8	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか	小	37.1	41.6	16.7	4.5			0.0	0.1	-1.9
				中	39.0	41.0	15.7	4.2			0.0	0.1	-1.3
【各教科に関する調査の解答状況】													
国 1	国 1	国 1	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	小	85.4	11.7	1.3				0.1	1.5	3.7
				中	81.7	14.3	1.8				0.1	2.1	1.1
					65.0	27.1	3.5				0.0	4.4	-0.3
					65.3	27.9	3.6				0.0	3.2	-1.1
国 2	国 2	国 2	解答時間は十分でしたか(国語)	小	34.0	39.1	22.5	2.7			0.1	1.5	-4.0
				中	38.0	35.9	21.5	2.3			0.1	2.2	-0.8
					33.1	38.4	20.8	3.3			0.0	4.4	3.2
					29.9	37.9	25.6	3.4			0.0	3.2	3.7
算 1	算 1	算 1	今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	小	80.0	17.1	1.6				0.1	1.1	5.5
				中	74.5	21.9	2.0				0.1	1.5	0.7
		数 1	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	中	55.0	38.5	4.3				0.0	2.2	0.1
					54.9	38.8	4.6				0.0	1.8	-0.2
算 2	算 2	算 2 数 2	解答時間は十分でしたか(算数・数学)	小	50.7	28.4	15.6	4.1			0.1	1.2	-4.0
				中	54.7	25.7	14.4	3.6			0.0	1.5	-1.3
					44.5	30.2	19.1	3.9			0.0	2.2	2.7
					41.8	31.4	21.1	4.0			0.0	1.8	1.5
理 1	理 1	R 4 74	今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	小	87.3	10.6	0.9				0.1	1.0	5.5
					81.8	14.9	1.6				0.1	1.6	1.2
理 2	理 2	R 4 75	解答時間は十分でしたか(理科)	小	81.4	13.5	3.4	0.7			0.1	1.1	-0.2
					81.6	12.5	3.5	0.8			0.1	1.6	0.8

児童生徒質問調査 選択肢一覧

※ 質問番号の 数/数は、(小学校の番号)/(中学校の番号)を示す。

質問番号	選 択 肢
1～3	1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない
4	1 日本語 2 その他の言語
5～14、24、27、32～34、36～47 52～70、*/71-1～3、*/72-1～5	1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない
15、26	1 よくある 2 ときどきある 3 あまりない 4 全くない
16	1 できている 2 どちらかといえば、できている 3 どちらかといえば、できていない 4 できていない
17	1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない 4 30分以上、1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全くしない
18	1 3時間以上 2 2時間以上、3時間より少ない 3 1時間以上、2時間より少ない 4 30分以上、1時間より少ない 5 30分より少ない 6 全く使っていない
19	1 4時間以上 2 3時間以上、4時間より少ない 3 2時間以上、3時間より少ない 4 1時間以上、2時間より少ない 5 1時間より少ない 6 全くしない
20	1 教わっていない 2 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を教わっている 3 学校の勉強でよく分からなかった内容を教わっている 4 上記2、3の両方の内容を教わっている 5 上記2、3の内容のどちらともいえない
21	1 2時間以上 2 1時間以上、2時間より少ない 3 30分以上、1時間より少ない 4 10分以上、30分より少ない 5 10分より少ない 6 全くしない
22	1 0～10冊 2 11～25冊 3 26～100冊 4 101～200冊 5 201～500冊 6 501冊以上
23	1 ほぼ毎日読んでいる 2 週に1～3回程度読んでいる 3 月に1～3回程度読んでいる 4 ほとんど、または、全く読まない
25	1 よくしていた 2 ときどきしていた 3 あまりしていない 4 全くしていない
28	1 ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用） 2 ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業） 3 週3回以上 4 週1回以上 5 月1回以上 6 月1回未満
29-1～4 30-1～7	1 とてもそう思う 2 そう思う 3 あまりそう思わない 4 そう思わない
31	1 発表していた 2 どちらかといえば、発表していた 3 どちらかといえば、発表していなかった 4 発表していなかった 5 考えを発表する機会はなかった
35	1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない 5 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を行っていない
48、49	1 よくある 2 たまにある 3 ほとんどない 4 全くない
50、51	1 よくしている 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない
71/*、*/71-4	1 している 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない
国1、算1 理1/*、数1	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した 2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた 3 書く問題は全く解答しなかった
*/理1-1	1 全ての書く問題で最後まで解答しようと努力した 2 一部の問題で解答しなかったり、解答を途中であきらめたりしたものがあつた 3 文章で答える問題は全く解答しなかった
国2、算2 理2/理1-2 数2	1 時間が余った 2 ちょうどよかった 3 やや足りなかった 4 全く足りなかった
*/理1-3	1 なかった 2 一部あつた 3 多くあつた
*/理1-4	1 全くなかった 2 時々あつた 3 多くあつた

2 学校質問調査 結果一覧

				校種の欄の1段目：香川県（公立）の割合（％）					2段目：全国（公立）の割合（％）					
質問番号		R6 番号	質問事項	校 種	選択肢（質問の選択肢は、P110を参照）							その他※ ・無回答	1の差 1+2の差	
小	中	1			2	3	4	5	6	7				
【生徒指導等】														
7	7	R5 8	調査対象学年の児童(生徒)は、熱意をもって勉強していると思いますか	小	19.5	72.5	8.1	0.0					0.0	-4.9
					24.4	65.9	9.4	0.3					0.0	1.7
				中	15.6	70.3	14.1	0.0					0.0	-5.3
					20.9	65.6	13.1	0.5				0.0	-0.6	
8	8	7	調査対象学年の児童(生徒)は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	小	36.9	53.0	9.4	0.7					0.0	1.6
					35.3	50.6	12.9	1.1					0.0	4.0
				中	48.4	42.2	9.4	0.0					0.0	1.1
					47.3	44.7	7.2	0.7				0.1	-1.4	
9	9	R5 11	調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	小	15.4	68.5	15.4	0.0					0.7	-4.6
					20.0	66.1	13.5	0.3					0.1	-2.2
				中	50.0	50.0	0.0	0.0					0.0	2.0
					48.0	50.4	1.5	0.0				0.1	1.6	
10	10	新	近視の予防の一環として、学校の休み時間(昼休みを含む)や放課後などの時間(部活動の朝練・放課後練習を含む)に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たっての配慮事項(対象から30cm以上目を離す、30分に1回は目を休めるなど)について指導していますか	小	59.7	25.5	13.4	0.7					0.7	-1.5
					61.2	20.0	14.1	4.6					0.1	4.0
				中	17.2	18.8	39.1	25.0					0.0	-9.7
					26.9	13.6	33.5	26.0				0.0	-4.5	
【学校運営に関する状況/教職員の資質向上に関する状況】														
11	11	9	前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか	小	36.2	38.9	19.5	1.3	0.0	4.0			0.0	-6.2
					42.4	36.7	14.4	3.6	0.1	2.8			0.1	-4.0
				中	28.1	31.3	29.7	10.9	0.0	0.0			0.0	-2.3
					30.4	34.5	22.0	7.7	0.2	5.0		0.1	-5.5	
12	12	10	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか	小	62.4	28.2	8.1	0.0	0.0	1.3			0.0	2.6
					59.8	28.7	8.1	2.0	0.0	1.2			0.1	2.1
				中	40.6	35.9	15.6	7.8	0.0	0.0			0.0	-4.7
					45.3	32.7	13.6	5.2	0.1	3.0		0.1	-1.5	
13	13	11	ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか	小	30.9	68.5	0.7						0.0	-3.8
					34.7	64.3	1.0						0.0	0.4
				中	10.9	85.9	3.1						0.0	-21.8
					32.7	65.6	1.6					0.1	-1.5	
14	14	R5 18	教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	小	43.0	53.7	3.4	0.0					0.0	-3.9
					46.9	49.7	3.2	0.1					0.1	0.1
				中	23.4	70.3	4.7	1.6					0.0	-18.8
					42.2	52.2	5.3	0.1				0.1	-0.7	
15	15	13	児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどにに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	小	40.3	58.4	1.3	0.0					0.0	-4.0
					44.3	52.8	2.8	0.0					0.1	1.6
				中	25.0	71.9	3.1	0.0					0.0	-15.1
					40.1	55.9	3.8	0.0				0.1	0.9	
16	16	14	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	小	49.0	50.3	0.7	0.0					0.0	-3.2
					52.2	45.3	2.3	0.0					0.1	1.8
				中	25.0	65.6	9.4	0.0					0.0	-12.4
					37.4	54.7	7.6	0.2				0.1	-1.5	
17	17	15	言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか	小	35.6	57.7	6.7	0.0					0.0	-9.2
					44.8	51.5	3.6	0.0					0.1	-3.0
				中	25.0	60.9	14.1	0.0					0.0	-14.4
					39.4	55.3	5.2	0.1				0.1	-8.8	
18	18	16	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	小	65.1	32.2	2.7	0.0					0.0	0.2
					64.9	33.7	1.4	0.0					0.1	-1.3
				中	32.8	53.1	14.1	0.0					0.0	-15.6
					48.4	46.9	4.5	0.1				0.1	-9.4	
19	19	18	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)	小	45.6	49.7	4.7	0.0					0.0	12.7
					32.9	56.7	10.3	0.1					0.0	5.7
				中	37.5	50.0	12.5	0.0					0.0	9.2
					28.3	59.2	12.3	0.1				0.1	0.0	
20	20	19	校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っていますか(管理職を除く)	小	16.1	79.9	3.4	0.0	0.7				0.0	4.0
					12.1	79.4	3.4	4.7	0.4				0.0	4.5
				中	15.6	79.7	3.1	0.0	1.6				0.0	-2.0
					17.6	70.2	5.9	5.7	0.5			0.1	7.5	
21	21	新	学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員(支援スタッフを含む)の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか	小	63.1	36.9	0.0	0.0					0.0	-1.1
					64.2	35.4	0.4	0.0					0.0	0.4
				中	50.0	50.0	0.0	0.0					0.0	-8.4
					58.4	40.8	0.8	0.0				0.1	0.8	
22	22	22	今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりしてくる教職員が多いと思いますか	小	28.2	63.1	8.7	0.0					0.0	-6.0
					34.2	56.8	8.8	0.2					0.0	0.3
				中	25.0	60.9	14.1	0.0					0.0	-8.7
					33.7	56.0	9.9	0.2				0.1	-3.8	
23	23	新	教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していますか	小	67.8	30.2	2.0	0.0					0.0	-4.7
					72.5	26.8	0.6	0.0					0.0	-1.3
				中	56.3	42.2	1.6	0.0					0.0	-9.3
					65.6	33.5	0.8	0.0				0.1	-0.0	

※「R6番号」欄の「新」は、R7年度に新たに問われた質問。「R5～」は、R6年度にはなかったが、R5年度にはあった質問。
 ※【その他】とは、「選択肢以外の解答や複数回答」されたものである。

質問番号 小 中			R6 番号	質問事項	校 種	選択肢(質問の選択肢は、P110を参照)							その他※ ・無回答	1の差 1+2の差
						1	2	3	4	5	6	7		
24	24	24		ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されていると思いますか	小	45.0	48.3	6.7	0.0				0.0	-2.3
						47.3	45.4	6.9	0.4			0.0	0.6	
					中	32.8	51.6	15.6	0.0			0.0	-11.0	
						43.8	47.1	8.6	0.5			0.0	-6.5	
【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】														
25	25	25		調査対象学年の児童(生徒)は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていますか	小	16.1	73.2	10.7	0.0				0.0	-6.4
						22.5	66.8	10.4	0.2			0.1	0.0	
					中	7.8	75.0	17.2	0.0			0.0	-13.2	
						21.0	67.2	11.5	0.2			0.0	-5.4	
26	26	26		調査対象学年の児童(生徒)は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていますか	小	11.4	69.8	18.8	0.0				0.0	-2.5
						13.9	66.5	19.3	0.2			0.0	0.8	
					中	7.8	70.3	21.9	0.0			0.0	-9.0	
						16.8	66.0	17.0	0.2			0.1	-4.7	
27	27	27		調査対象学年の児童(生徒)は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていますか	小	20.8	70.5	8.7	0.0				0.0	-2.2
						23.0	66.2	10.6	0.1			0.0	2.1	
					中	21.9	64.1	14.1	0.0			0.0	-3.9	
						25.8	65.0	9.0	0.2			0.1	-4.8	
28	28	28		調査対象学年の児童(生徒)は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	小	38.3	56.4	5.4	0.0				0.0	3.3
						35.0	59.2	5.5	0.2			0.0	0.5	
					中	20.3	70.3	7.8	1.6			0.0	-15.3	
						35.6	59.5	4.6	0.1			0.1	-19.6	
29	29	29		調査対象学年の児童(生徒)は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	小	6.0	53.7	39.6	0.7				0.0	-5.0
						11.0	53.1	33.7	2.1			0.0	-4.4	
					中	1.6	31.3	62.5	4.7			0.0	-7.4	
						9.0	47.6	40.2	3.2			0.0	-23.7	
30	30	30		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学習指導において、児童(生徒)一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	小	20.1	65.8	13.4	0.7				0.0	-8.0
						28.1	62.9	8.9	0.1			0.1	-5.1	
					中	12.5	62.5	25.0	0.0			0.0	-11.1	
						23.6	64.2	12.0	0.1			0.1	-12.8	
31	31	31		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学習指導において、児童(生徒)が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	小	29.5	65.1	5.4	0.0				0.0	-5.4
						34.9	60.4	4.6	0.0			0.0	-0.7	
					中	18.8	73.4	7.8	0.0			0.0	-13.9	
						32.7	62.3	4.9	0.1			0.1	-2.8	
32	32	33		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、授業において、児童(生徒)自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	小	20.8	69.1	10.1	0.0				0.0	-10.8
						31.6	58.3	10.0	0.1			0.1	0.0	
					中	14.1	54.7	31.3	0.0			0.0	-13.4	
						27.5	58.6	13.6	0.2			0.1	-17.3	
33	33	34		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	小	11.4	75.2	13.4	0.0				0.0	-10.6
						22.0	66.6	11.2	0.1			0.1	-2.0	
					中	15.6	51.6	32.8	0.0			0.0	-4.5	
						20.1	66.7	13.0	0.1			0.1	-19.6	
34	34	35		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	小	14.8	65.8	19.5	0.0				0.0	-4.9
						19.7	67.2	13.0	0.0			0.1	-6.3	
					中	6.3	60.9	32.8	0.0			0.0	-9.1	
						15.4	64.9	19.5	0.2			0.1	-13.1	
35	35	R4 32		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	小	20.1	61.7	18.1	0.0				0.0	-5.3
						25.4	60.5	14.0	0.1			0.0	-4.1	
					中	12.5	65.6	21.9	0.0			0.0	-6.4	
						18.9	63.2	17.6	0.2			0.1	-4.0	
【総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳の指導方法】														
36	36	36		調査対象学年の児童(生徒)に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	小	26.8	65.8	6.7	0.7				0.0	-10.1
						36.9	55.8	7.2	0.1			0.0	-0.1	
					中	18.8	64.1	17.2	0.0			0.0	-20.4	
						39.2	52.3	8.3	0.2			0.1	-8.6	
37	37	37		調査対象学年の児童(生徒)に対して、学級生活をよりよくするために、学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるように指導を行っていますか	小	38.3	55.0	6.7	0.0				0.0	-2.6
						40.9	54.0	5.0	0.1			0.0	-1.6	
					中	25.0	68.8	6.3	0.0			0.0	-13.8	
						38.8	55.4	5.6	0.1			0.1	-0.4	
38	38	38		調査対象学年の児童(生徒)に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童(生徒)が意思決定できるように指導を行っていますか	小	34.9	58.4	6.7	0.0				0.0	-0.2
						35.1	58.7	6.1	0.1			0.1	-0.5	
					中	28.1	57.8	14.1	0.0			0.0	-4.5	
						32.6	60.0	7.3	0.1			0.1	-6.7	
39	39	39		調査対象学年の児童(生徒)に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童(生徒)自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	小	35.6	62.4	2.0	0.0				0.0	-2.2
						37.8	58.8	3.4	0.0			0.0	1.4	
					中	42.2	54.7	3.1	0.0			0.0	0.5	
						41.7	55.4	2.8	0.1			0.0	-0.2	
【学習評価】														
40	40	R5 41		調査対象学年の児童(生徒)に対する指導に関して、前年度までに、学習評価の方針を児童(生徒)に示した上で、児童(生徒)の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童(生徒)の学習改善に生かすことを心がけましたか	小	23.5	61.7	14.1	0.7				0.0	-6.0
						29.5	60.0	10.2	0.2			0.1	-4.3	
					中	31.3	62.5	6.3	0.0			0.0	-8.7	
						40.0	55.8	4.0	0.1			0.1	-2.0	
【国語科の指導方法】														
41	41	新		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、国語の授業で、学習状況に即して児童(生徒)のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行いましたか	小	21.5	71.1	6.7	0.0				0.7	-13.4
						34.9	60.8	4.2	0.0			0.0	-3.1	
					中	35.9	62.5	1.6	0.0			0.0	-4.3	
						40.2	56.6	3.1	0.1			0.1	1.6	

質問番号			R6 番号	質問事項	校 種	選択肢(質問の選択肢は、P110を参照)							その他※ ・無回答	1の差 1＋2の差
小	中		1			2	3	4	5	6	7			
42	42	新		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、国語の授業で、児童(生徒)に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることを行いましたか	小	19.5	73.2	7.4	0.0				0.0	-11.7
						31.2	63.7	5.0	0.0				0.1	-2.2
					中	28.1	68.8	3.1	0.0				0.0	-8.7
						36.8	59.6	3.4	0.1				0.1	0.5
43	43	43/ 新		調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか	小	18.1	76.5	5.4	0.0				0.0	-16.8
						34.9	60.9	4.1	0.0				0.1	-1.2
					中	40.6	54.7	4.7	0.0				0.0	-6.1
						46.7	51.1	2.1	0.0				0.1	-2.5
44	44	新		調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる指導を行いましたか	小	16.8	81.9	1.3	0.0				0.0	-16.8
						33.6	62.3	4.0	0.0				0.0	2.8
					中	34.4	56.3	9.4	0.0				0.0	-2.8
						37.2	58.3	4.2	0.1				0.1	-4.8
【算数・数学科の指導方法】														
45	45	45		調査対象学年の児童(生徒)に対する算数(数学)の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか	小	22.8	66.4	10.7	0.0				0.0	-5.6
						28.4	62.9	8.6	0.0				0.1	-2.1
					中	20.3	64.1	15.6	0.0				0.0	-5.3
						25.6	64.0	10.2	0.1				0.1	-5.2
46	46	46		調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行いましたか	小	32.2	64.4	3.4	0.0				0.0	-6.0
						38.2	56.9	4.8	0.0				0.1	1.5
					中	20.3	59.4	20.3	0.0				0.0	-4.5
						24.8	60.7	14.1	0.3				0.1	-5.8
47	47	47		調査対象学年の児童(生徒)に対する算数(数学)の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童(生徒)に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか	小	34.2	63.1	2.7	0.0				0.0	-11.5
						45.7	50.6	3.6	0.0				0.1	1.0
					中	37.5	56.3	6.3	0.0				0.0	-8.8
						46.3	49.3	4.2	0.1				0.1	-1.8
48	48	新		調査対象学年の児童(生徒)に対する算数の授業において、前年度までに、授業で、学習上つまづいた児童(生徒)に対する対応を行っていましたか	小	43.0	53.0	4.0	0.0				0.0	-6.1
						49.1	47.9	3.0	0.0				0.0	-1.0
					中	42.2	53.1	4.7	0.0				0.0	-1.6
						43.8	52.0	4.1	0.0				0.1	-0.5
【理科の指導方法】														
49	49	49		調査対象学年の児童(生徒)に対する理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	小	28.9	65.1	6.0	0.0				0.0	-5.1
						34.0	61.0	4.9	0.1				0.0	-1.0
					中	29.7	65.6	4.7	0.0				0.0	-6.9
						36.6	59.6	3.7	0.1				0.1	-0.9
50	50	50		調査対象学年の児童(生徒)に対する理科の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか	小	30.2	66.4	3.4	0.0				0.0	-6.1
						36.3	59.4	4.3	0.0				0.1	0.9
					中	39.1	57.8	3.1	0.0				0.0	-6.6
						45.7	52.0	2.2	0.1				0.1	-0.8
51	51	新		調査対象学年の児童(生徒)に対する理科の授業において、前年度までに、問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導を行いましたか	小	34.2	63.1	2.0	0.0				0.7	-9.7
						43.9	52.8	3.2	0.0				0.1	0.6
					中	26.6	65.6	7.8	0.0				0.0	-10.4
						37.0	56.9	5.9	0.1				0.1	-1.7
52	52	R4 53/ 52		調査対象学年の児童(生徒)に対する理科の授業において、前年度までに、観察や実験の結果を整理(分析)し考察(解釈)する指導を行いましたか	小	39.6	59.7	0.7	0.0				0.0	-10.4
						50.0	48.3	1.6	0.0				0.1	1.0
					中	35.9	62.5	1.6	0.0				0.0	-15.1
						51.0	46.2	2.7	0.0				0.1	1.2
53	53	新		調査対象学年の児童(生徒)に対する理科の授業において、前年度までに、課題解決の過程における自分や友だちの学びの深まりや疑問に思ったことを振り返ることができるような指導を行いましたか	小	17.4	74.5	8.1	0.0				0.0	-14.5
						31.9	61.3	6.7	0.0				0.1	-1.3
					中	31.3	57.8	10.9	0.0				0.0	-0.5
						31.8	58.4	9.4	0.2				0.3	-1.1
54	54	R4 54/ 53		調査対象学年の児童(生徒)に対する理科の授業において、前年度に、児童(生徒)が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	小	53.7	43.0	3.4	0.0				0.0	5.0
						48.7	49.4	1.8	0.0				0.0	-1.4
					中	65.6	32.8	1.6	0.0				0.0	16.7
						48.9	46.8	3.9	0.2				0.3	2.7
【ICTを活用した学習状況】														
55	55	53/ 57		前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	小	90.6	8.7	0.7	0.0	0.0			0.0	9.4
						81.2	13.0	3.7	1.0	1.0			0.0	5.1
					中	75.0	17.2	6.3	1.6	0.0			0.0	-1.8
						76.8	15.7	4.7	1.6	1.2			0.0	-0.3
56	56	54/ 58		教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか	小	55.7	38.9	4.7	0.7				0.0	-9.2
						64.9	30.8	4.0	0.2				0.1	-1.1
					中	46.9	39.1	14.1	0.0				0.0	-6.1
						53.0	37.8	8.6	0.5				0.1	-4.8

質問番号 小 中	R6 番号	質問事項	校 種	選択肢(質問の選択肢は、P110を参照)							その他※ 無回答	1の差 1+2の差
				1	2	3	4	5	6	7		
57	57	55/ 59	小	40.3	52.3	6.7	0.7				0.0	0.5
				39.8	49.9	9.5	0.8				0.1	2.9
				25.0	56.3	14.1	4.7				0.0	-11.0
58	58	56/ 60	中	36.0	49.4	12.9	1.6				0.0	-4.1
				52.3	24.8	20.1	2.7	0.0	0.0		0.0	-8.7
				61.0	23.8	11.8	2.9	0.3	0.0		0.0	-7.7
59	59	57/ 61	小	40.6	23.4	18.8	12.5	4.7	0.0		0.0	-23.1
				63.7	19.1	11.7	4.4	0.8	0.2		0.1	-18.8
				20.8	43.6	25.5	9.4	0.7			0.0	-10.3
60	60	58/ 62	中	31.1	41.8	22.6	4.2	0.2			0.1	-8.5
				21.9	37.5	29.7	10.9	0.0			0.0	-14.0
				35.9	35.3	22.3	5.9	0.5			0.0	-11.8
61	61	59/ 63	小	9.4	30.2	37.6	20.8	2.0			0.0	-11.9
				21.3	30.9	29.0	16.7	2.0			0.1	-12.6
				15.6	17.2	37.5	25.0	4.7			0.0	-5.8
62	62	60/ 64	中	21.4	30.9	29.0	16.3	2.3			0.1	-19.5
				28.9	23.5	24.2	18.8	4.7			0.0	-8.7
				37.6	23.8	22.0	11.2	5.3			0.1	-9.0
63	63	61/ 65	小	17.2	20.3	26.6	26.6	9.4			0.0	-14.7
				31.9	24.0	24.3	13.0	6.5			0.2	-18.4
				18.8	20.8	30.2	22.1	8.1			0.0	-2.6
64	64	62/ 66	中	21.4	24.9	27.3	16.5	9.8			0.1	-6.7
				6.3	15.6	34.4	26.6	17.2			0.0	-10.8
				17.1	22.2	27.1	18.8	14.7			0.1	-17.4
65	65	63/ 67	小	11.4	22.8	43.0	17.4	5.4			0.0	-8.1
				19.5	31.5	31.1	13.4	4.3			0.1	-16.8
				4.7	21.9	21.9	35.9	15.6			0.0	-11.9
66	66	64/ 68	中	16.6	24.6	30.9	19.2	8.6			0.1	-14.6
				1.3	4.7	6.0	8.7	17.4	61.7		0.0	-0.5
				1.8	4.2	11.2	11.7	24.1	46.7		0.1	0.0
67	67	65/ 69	小	3.1	4.7	4.7	6.3	14.1	67.2		0.0	0.8
				2.3	4.6	9.6	10.0	23.3	50.2		0.1	0.9
				24.8	36.2	30.2	8.7				0.0	-19.7
67	67	65/ 69	中	44.5	33.5	17.4	4.4				0.2	-17.0
				35.9	23.4	31.3	9.4				0.0	-9.9
				45.8	32.5	16.9	4.8				0.1	-19.0
67	67	65/ 69	小	11.4	8.1	57.0	16.1	4.0	3.4		0.0	-13.8
				25.2	15.0	48.8	7.2	1.0	2.7		0.1	-20.7
				7.8	3.1	46.9	21.9	9.4	10.9		0.0	-19.7
67	67	65/ 69	中	27.5	22.0	37.7	7.9	1.7	3.2		0.1	-38.6
				12.8	8.1	8.7	6.0	8.1	31.5	24.8	0.0	-2.3
				15.1	9.1	12.7	8.4	8.3	21.2	25.0	0.2	-3.3
67	67	65/ 69	小	21.9	7.8	12.5	9.4	9.4	31.3	7.8	0.0	-5.8
				27.7	11.6	14.2	10.0	8.8	18.2	9.5	0.0	-9.6
				10.7	4.7	5.4	1.3	4.7	20.8	52.3	0.0	-3.8
67	67	65/ 69	中	14.5	5.8	5.7	4.5	5.3	18.7	45.4	0.2	-4.9
				20.3	7.8	3.1	3.1	3.1	35.9	26.6	0.0	-6.9
				27.2	7.3	5.8	4.3	5.5	21.7	28.1	0.1	-6.4
67	67	65/ 69	小	29.5	14.8	14.8	5.4	4.7	16.8	14.1	0.0	-6.8
				36.3	15.2	13.9	5.8	3.4	9.3	15.7	0.3	-7.2
				20.3	14.1	12.5	9.4	3.1	26.6	14.1	0.0	-13.8
67	67	65/ 69	中	34.1	14.8	13.4	6.8	5.2	11.1	14.5	0.1	-14.5
				8.1	2.0	4.7	0.7	2.0	10.1	72.5	0.0	-4.7
				12.8	5.0	7.2	2.4	1.5	9.9	60.9	0.3	-7.7
67	67	65/ 69	小	7.8	4.7	3.1	4.7	1.6	9.4	68.8	0.0	-5.4
				13.2	5.0	6.7	2.4	1.9	9.0	61.8	0.1	-5.7
				23.5	0.0	2.0	4.7	10.7	43.0	16.1	0.0	-12.5
67	67	65/ 69	中	36.0	2.1	3.9	6.1	6.9	30.3	14.4	0.3	-14.6
				35.9	3.1	3.1	1.6	3.1	45.3	7.8	0.0	1.9
				34.0	2.6	4.5	8.2	8.5	33.2	8.9	0.1	2.4
67	67	65/ 69	小	2.7	1.3	1.3	2.0	4.7	61.1	26.8	0.0	-5.9
				8.6	1.8	3.3	5.1	8.0	47.7	25.3	0.3	-6.4
				3.1	1.6	3.1	4.7	7.8	67.2	12.5	0.0	-7.2
68	68	66/ 70	中	10.3	2.4	4.5	7.6	9.7	49.4	16.0	0.0	-8.0
				4.7	9.4	12.1	4.7	69.1			0.0	-0.8
				5.5	13.9	9.4	5.1	65.7			0.3	-5.3
69	69	新	小	9.4	1.6	12.5	15.6	60.9			0.0	4.2
				5.2	9.9	8.8	4.9	71.1			0.1	-4.1
				44.3	54.4	1.3					0.0	-8.9
69	69	新	中	53.2	44.2	2.5					0.0	1.3
				50.0	48.4	1.6					0.0	-1.6
				51.6	45.3	2.9					0.1	1.5

【特別な配慮が必要な児童(生徒)への指導】

質問番号 小 中			R6 番号	質問事項	校 種	選択肢(質問の選択肢は、P110を参照)							その他※ ・無回答	1の差 1+2の差
						1	2	3	4	5	6	7		
70-1	70-1	新		学校では、調査対象学年の児童(生徒)のうち、発達障害を含む障害のある児童(生徒)に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、次のことをどの程度行いましたか。(1)人的支援の配慮	小	40.9	44.3	0.0	14.8				0.0	4.1
					中	36.8	36.9	2.3	24.1				0.0	11.5
70-2	70-2	新		学校では、調査対象学年の児童(生徒)のうち、発達障害を含む障害のある児童(生徒)に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、次のことをどの程度行いましたか。(2)情報の取得、利用及び意思疎通への配慮	小	54.7	35.9	1.6	7.8				0.0	16.4
					中	38.3	33.3	3.5	24.8				0.0	19.0
70-3	70-3	新		学校では、調査対象学年の児童(生徒)のうち、発達障害を含む障害のある児童(生徒)に対する授業の中で、合理的配慮の提供として、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じて、本人や保護者の意向を踏まえ、次のことをどの程度行いましたか。(3)ルール・慣行の柔軟な変更	小	14.1	40.9	1.3	43.6				0.0	-5.0
					中	19.1	33.6	1.4	45.8				0.0	2.3
71	71	新		学校では、調査対象学年の児童(生徒)のうち、日本語指導が必要な児童(生徒)に対して、特別な配慮に基づく指導をどの程度行っていますか	小	21.9	45.3	0.0	32.8				0.0	1.7
					中	20.2	30.0	1.8	48.0				0.1	17.0
72	72	68/72		前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	小	24.2	40.3	1.3	33.6				0.7	-2.2
					中	26.4	32.7	1.2	39.6				0.0	5.4
73	73	71/79		教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	小	28.1	50.0	1.6	20.3				0.0	1.6
					中	26.5	29.3	1.7	42.4				0.1	22.3
74	74	71/79		職場見学を行っていますか	小	6.7	6.0	0.7	0.0	86.6			0.0	-3.9
					中	10.6	12.8	0.9	0.4	75.3			0.0	-10.7
75	75	新		調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか	小	9.4	14.1	1.6	1.6	73.4			0.0	-4.2
					中	13.6	16.2	1.7	0.5	67.9			0.1	-6.3
【小学校教育と中学校教育の連携】														
76	76	71/79		前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	小	7.4	26.2	53.0	13.4				0.0	-13.1
					中	20.5	44.8	27.6	7.1				0.0	-31.7
77	77	71/79		教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	小	21.9	29.7	34.4	12.5				1.6	-6.4
					中	28.3	43.4	22.1	6.2				0.1	-20.1
【家庭や地域との連携等】														
78	78	71/79		職場見学を行っていますか	小	31.5	68.5						0.0	-13.6
					中	45.1	54.8						0.1	0.1
79	79	71/79		調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか	小	4.7	62.5	32.8	0.0	0.0	0.0		0.0	-15.4
					中	20.1	41.8	27.6	2.4	6.7	1.3		0.0	5.3
80	80	71/75		教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	小	25.5	61.1	12.8	0.7				0.0	-4.5
					中	30.0	59.3	10.2	0.5				0.0	-2.7
81	81	72/76		コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映していますか	小	23.4	54.7	20.3	1.6				0.0	-2.1
					中	25.5	62.3	11.5	0.6				0.0	-9.7
82	82	73/77		コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映していますか	小	94.0	2.0	2.7	1.3				0.0	23.8
					中	70.2	16.2	8.7	4.9				0.1	9.6
83	83	74/78		地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか	小	76.6	14.1	4.7	4.7				0.0	9.8
					中	66.8	16.6	9.8	6.8				0.1	7.3
84	84	76/80		コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか	小	46.3	44.3	6.0	3.4				0.0	-1.9
					中	48.2	41.0	7.8	3.0				0.1	1.4
85	85	77/81		コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか	小	25.0	40.6	25.0	9.4				0.0	-9.4
					中	34.4	45.1	14.8	5.7				0.1	-13.9
86	86	78/82		コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、「社会に開かれた教育課程」の実現に効果がありましたか	小	40.3	57.0	1.3	0.0	1.3			0.0	0.1
					中	40.2	53.1	3.0	0.2	3.4			0.1	4.0
87	87	79/83		コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、「社会に開かれた教育課程」の実現に効果がありましたか	小	29.7	64.1	3.1	0.0	3.1			0.0	-2.1
					中	31.8	57.2	4.8	0.6	5.6			0.1	4.8
88	88	80/84		コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、「社会に開かれた教育課程」の実現に効果がありましたか	小	40.9	55.0	2.7	0.0	1.3			0.0	2.2
					中	38.7	53.9	3.5	0.3	3.5			0.1	3.3
89	89	82/86		コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか	小	21.9	64.1	10.9	0.0	3.1			0.0	-7.6
					中	29.5	57.5	6.5	0.7	5.7			0.1	-1.0
90	90	84/88		コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか	小	13.4	40.3	39.6	5.4	1.3			0.0	-1.3
					中	14.7	47.2	27.7	6.8	3.7			0.1	-8.2
【全国学力・学習状況調査の結果等の活用】														
91	91	86/90		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童(生徒)に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	小	3.1	43.8	46.9	3.1	3.1			0.0	-7.2
					中	10.3	39.5	33.2	11.0	5.9			0.0	-2.9
92	92	88/92		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童(生徒)に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	小	44.3	51.7	4.0	0.0				0.0	-5.0
					中	49.3	47.3	3.3	0.1				0.1	-0.6
93	93	90/94		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童(生徒)に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	小	26.6	60.9	12.5	0.0				0.0	-7.9
					中	34.5	58.3	7.0	0.2				0.0	-5.3
94	94	92/96		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、家庭学習について、児童(生徒)が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	小	38.3	53.0	8.7	0.0				0.0	0.1
					中	38.2	52.4	9.0	0.2				0.1	0.7
95	95	94/98		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、家庭学習について、児童(生徒)が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	小	17.2	53.1	29.7	0.0				0.0	-9.9
					中	27.1	58.8	13.6	0.5				0.0	-15.6
96	96	96/100		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学校では、児童(生徒)が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童(生徒)の学習改善に生かしましたか	小	20.8	61.7	17.4	0.0				0.0	-10.2
					中	31.0	59.4	9.4	0.2				0.1	-7.9
97	97	98/102		調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、学校では、児童(生徒)が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童(生徒)の学習改善に生かしましたか	小	20.3	56.3	23.4	0.0				0.0	-1.5
					中	21.8	62.2	15.5	0.5				0.0	-7.4
【全国学力・学習状況調査の結果等の活用】														
98	98	98/102		令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	小	35.6	62.4	2.0					0.0	-1.7
					中	37.3	59.2	3.4					0.1	1.5
99	99	100/104		令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	小	20.3	78.1	1.6					0.0	-9.1
					中	29.4	64.6	5.9					0.1	4.4
100	100	100/104		令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)	小	10.7	61.7	27.5					0.0	-17.0
					中	27.7	61.3	10.9					0.1	-16.6
101	101	100/104		令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)	小	10.9	60.9	28.1					0.0	-14.9
					中	25.8	57.6	16.5					0.1	-11.6

学校質問調査 選択肢一覧

※ 質問番号の 数/数は、(小学校の番号)/(中学校の番号)を示す。

質問番号	選 択 肢
7、8、21～29、40、57	1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない
9、30～35、41～47、49～53 72、76、80～82	1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行わなかった 4 全く行わなかった
10	1 指導している 2 屋外に出ることは指導しているが、近い所を見る作業に当たっての配慮事項は指導していない 3 屋外に出ることは指導していないが、近い所を見る作業に当たっての配慮事項は指導している 4 指導していない
11、12	1 週に1回程度、または、それ以上行った 2 月に数回程度行った 3 学期に数回程度行った 4 年に数回程度行った 5 行わなかった 6 特に問題を抱えていなかった
13	1 十分に取り入れている 2 一部取り入れている 3 全く取り入っていない
14～19、36～39 74	1 よくしている 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない
20	1 主として校内研修に関する業務を行う校務分掌を設けており、研修主事が担っている 2 主として校内研修に関する業務を行う校務分掌は設けており、研修主任もしくは研究主任が担っている 3 主として校内研修に関する業務を行う校務分掌は設けておらず、研究活動に関する業務を行う教員（研究主任等）が担っている 4 主として校内研修に関する業務を行う校務分掌は設けておらず、教務主任や主幹教諭が担っている 5 主として校内研修に関する業務を行う校務分掌は設けておらず、3や4の教員以外が担っている
48	1 よく行えた 2 どちらかといえば、行えた 3 あまり行えなかった 4 全く行えなかった
54	1 週1回以上 2 月1回以上 3 学期に1回以上 4 ほとんど、または、全く行っていない
55、59～63	1 ほぼ毎日 2 週3回以上 3 週1回以上 4 月1回以上 5 月1回未満
56	1 ある 2 どちらかといえば、ある 3 どちらかといえば、ない 4 ない
58	1 ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用） 2 ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業） 3 週3回以上 4 週1回以上 5 月1回以上 6 月1回未満
64	1 週1回以上 2 月1回以上 3 3ヶ月に1回以上 4 6ヶ月に1回以上 5 年1回以上 6 実施しなかった
65	1 よく活用している 2 どちらかといえば、活用している 3 あまり活用していない 4 全く活用していない
66	1 毎日持ち帰って、毎日利用させている 2 毎日持ち帰って、時々利用させている 3 時々持ち帰って、時々利用させている 4 持ち帰らせていない 5 持ち帰ってはいけないうこととしている 6 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている
67-1～6	1 ほぼ毎日 2 週3回以上 3 週1回以上 4 月1回以上 5 月1回未満 6 活用していない 7 該当する児童（生徒）がいない
68	1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行わなかった 4 全く行わなかった 5 該当する児童（生徒）がいなかった
69	1 十分に行った 2 一部行った 3 全く行わなかった
70-1～3	1 十分に行った 2 一部行った 3 全く行わなかった 4 該当する児童（生徒）がいなかった
71	1 十分に行っている 2 どちらかといえば、行っている 3 あまり行っていない 4 行っていない 5 該当する児童（生徒）がいなかった
73/*	1 行っている 2 行っていない
*/73	1 実施しなかった 2 1日～2日 3 3日 4 4日 5 5日以上（連続して実施） 6 5日以上（分散して実施）
75	1 コミュニティ・スクールの仕組みを活用して反映している 2 類似の仕組みを活用して反映している 3 1、2は行っていないが、1、2以外の取組を通じて反映している 4 反映する仕組みがない
77～79	1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない 5 取組を行わなかった
83、84	1 よく行った 2 行った 3 ほとんど行わなかった